

トナ得
 若水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セズ
 第三十一條 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ標識スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スル
 第三十二條 第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス
 一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ
 二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ
 第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得
 前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間満了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ
 〔參照〕 明治十一年第三十七號布告ハ西洋形船水先免狀規則ナリ

第四章 雜則

航路標識條例 明治三十一年十月 勅令第六十七號

朕航路標識條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 航路標識條例
 第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス
 第二條 前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止モントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前官報ヲ經由シテ逓信大臣ニ届出ツヘシ
 第三條 取扱航路標識建設人ハ標識看守上ニ付逓信省燈塔局又ハ同局派

遣ノ觀察官更ヨリ指示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ
 第四條 取扱航路標識ニシテ燈塔ヲ設ケスルモノハ建設人ニ於テ該標識ヲ備ヘ其敷設費及維持費支出額ヲ記載シ置キ逓信省燈塔局派遣觀察官定ノ檢閲ヲ受クヘシ
 北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條例 明治三十一年三月 勅令第三號
 北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條例
 第一條 地方官又ハ區町村長ヲ以テ航路標識ヲ建設シタルトキハ看守員ヲ定メ其標識ニ關スル標識ノ業務ヲ掌理セシムヘシ但標識ニハ二名以上ノ看守員ヲ置キ内一名ヲ看守長ト爲スヘシ
 第二條 看守長ハ逓信省燈塔局又ハ其燈塔ニ於テ看守ノ業務ヲ掌理セシムルモノトス
 第三條 航路標識看守上逓信省燈塔局定ムル所ノ看守規則及圖式又ハ同局派遣ノ觀察官更ヨリ指示スル所ノ事項ハ之ヲ遵守スヘシ
 第四條 燈油其他點燈用ノ諸物品ハ逓信省燈塔局ノ認可ヲ經テ之ヲ購置スルコトヲ得ス

臺灣航路標識規則 明治三十一年五月逓信省燈塔局令第二十六號

臺灣航路標識規則左ノ通相定ム
 臺灣航路標識規則
 第一條 臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス
 第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置モントスルトキハ地方官ヲ經由シテ臺灣總督府ノ許可ヲ受クヘシ

クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ徵收スルコトヲ許サス
 臺灣總督府ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ
 臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ
 第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督府ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警報ト限リ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四條 航路標識ニ船隻其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ損壞シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

浮標ニ船ヲ繫キ或ハ礁標ノ階梯ニ上ルヲ禁ス 明治六年八月布告第二百九十號

各所設置ノ浮標浮標ハ内外航路一般ノ標識ニシテ最モ重要ナルモノニ候然ルニ漁人等浮標ニ舟ヲ繫キ或ハ礁標ノ階梯ニ上リ候者同間有之趣右等ノ所業ヨリ尤モ標識ノ破損シ内外ノ航海者危險ニ陷リ候テハ以テ外ノ標識ニ付心得違ヒ無之標可致此旨布告候事

水路測量標條例 明治二十三年五月 法律第三十八號

朕水路測量標條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 水路測量標條例
 第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ其點標測標トス
 第二條 水路測量官ニ於テ民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者ト協議ノ上ニテ使用スヘシ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第六編 船舶

第一章 船舶

船舶法 明治三十三年三月 法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ船舶法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
 船舶法
 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
 一 日本ノ官船又ハ公船ノ所有ニ屬スル船舶
 二 日本國民ノ所有ニ屬スル船舶
 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無條件社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員及日本國民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

船舶
 四 日本ニ主ナル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス
 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケルコトヲ得ス
 第三條 日本船舶ニ非サレハ不潔汚濁ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ籍港ヲ定メ其籍港ヲ管轄スル管轄官廳ニ籍港ノ測定ヲ申請スルコトヲ要ス
 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後籍港ヲ管轄スル管轄官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管轄官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ得ス
 第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス
 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、積載、積載、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス
 第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管轄官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積載ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ運送ナク船籍港ヲ管轄スル管轄官廳ニ其船舶ノ積載ノ改定ヲ申請スルコトヲ要ス

船舶ノ積載ノ改定ヲ申請スルコトヲ要ス
 第四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ停泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得
 第十四條 日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得
 第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管轄官廳ニ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得
 第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得
 第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超スルコトヲ得ス
 日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超スルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキトモ已ムコトヲ得ル事由アルトキハ船舶長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得
 第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間満了前トモ其效力ヲ失フ
 第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス
 第二十條 前十六條ノ規定ハ噸噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及噸噸其他噸噸ノミナリテ運轉シ又ハ主トシテ運轉シ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ
 第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積載ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十二條 日本船舶ニ非サレハ外國籍ヲ附シテ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス
 日本船舶カ國籍ヲ附シテ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ
 第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船籍ヲ沒收ス
 第二十四條 官吏チ欺キ船籍原簿ニ不實ノ登録ヲ爲シタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂罪ノ例ニ依リテ處断ス
 第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定

船舶長ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
 第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セズ
 第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス
 第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ同業會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス
 第三十二條 管轄官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ之ヲ行フ
 第三十三條 本法ハ附法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十五條 商法第五編ノ規定ハ附法施行ノ日ヨリ之ヲ以テ之ヲ施行ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス
 第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十七條 本法施行ノ際登録簿及ヒ船舶登記簿カ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス
 第三十八條 本法施行ノ際登録簿及ヒ船舶登記簿カ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス
 第三十九條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

由アルトキハ船長ハ假船船務證書ヲ請受クルコトヲ得
 第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シ
 マルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定
 メタル二週間ノ期間ハ船務所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキ
 下ニ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請
 サルトキ亦同シ
 前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以下ノ
 罰金ニ處ス

第三十條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十條 本法施行前ヨリ存カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期
 間力經過セザルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六ヶ月ノ期間ハ本法
 施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム
 【參照】明治十二年第五號布告ハ西洋形船舶ヲ沿岸管理ノ所轄ニ付セ
 ラルル件 同年第十九號布告ハ西洋形船舶免狀ノ件 同十四年第十二
 號布告ハ蒸氣船十噸、風帆船二十噸以下及湖川港灣ヲ運轉スルモノ
 西洋形船舶免狀ヲ受有スルニ及ハサル件ナリ

●船舶法施行細則 明治三十二年六月
 逓信省令第二十四號

船舶法施行細則左ノ通定ム
 第一章 總則
 第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ヲ稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ問フ
 機動力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣機ヲ用ルモノトシ
 フス之ヲ汽船ト看做ス
 主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機動力ヲ有スルモノトシテ汽船ト
 看做ス
 第三條 汽船船主ハ汽船ノ推進器ヲ有セザルハ之ヲ船舶ト看做ス

第三條 船舶港ハ各市町村ノ名稱ニ依リ但市制、町村制ヲ施行セザル地
 方ニ在リテハ市町村ニ準スルニ依リ區畫ノ名稱ニ依ル
 第四條 右ノ場合ニ於テハ船舶船務證書又ハ假船船務證書ノ交付前ト
 雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受テ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得
 一 汽船船主トシテ
 二 積置ノ測定ヲ受ケントスルトキ
 三 正當ノ事由アルトキ
 第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶船務證書又ハ假船船務證書ノ交付前ト
 雖モ船舶ニ國旗ヲ掲グルコトヲ得
 一 祝日、大祭日但外國ノ祝日ニ付テハ其國ノ旗ニ附加スル場合ニ
 限リ
 二 前條ノ外電氣又ハ發煙ヲ興スルトキ
 三 運水ノトキ
 四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ
 第六條 船舶ノ積置若シテ汽船ニ關スル事項又ハ其標示ヲ積置スル爲メ
 必要アリト認ムルモノトキハ検査官定メ何種ノ汽船ニ積置スルコトヲ
 得
 第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書頭ヲ提出スルハ其會合ニ於テ代
 入ヲ使用スルモノトシ其種類ヲ檢スル書頭ヲ添附スルヘシ
 第八條 船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積置ノ測定ヲ申請セ
 ン
 一 積置ノ測定ニハ左ノ書類ヲ添付スルヘシ
 一 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積置ノ測定ヲ申
 請セザル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ製造者ニ於テ製造地、造
 水ノ年月日ヲ記スル書面及積置ノ測定ノ結果ニ在リテハ汽船、汽船
 ノ製造者ニ於テ汽船、汽船製造ノ年月日ヲ記スル書面
 二 所有權ノ取得、移轉、質取、質取ノ取得ニ依リ又ハ商會社
 其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若シテ第二項ニ
 掲ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ積置ノ測定ヲ取得シタル場合ニ在リテハ

一 積置ニ掲ケタル事項ノ外造船者、汽機及流線ノ製造者ノ氏名又ハ名
 稱並船舶ノ原名ヲ記スル書面
 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ積置噸數二十噸以上又ハ積置噸數二
 百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方官ニ於テ前項第二號ニ掲ケ
 タル事項ヲ記スル書面ヲ申請書ニ添附スルヘシ
 第九條 積置ノ測定ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航
 路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコ
 ト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルモノトキハ此限ニ在ラズ
 第十條 積置ノ測定ヲ申請スル者ハ測定ヲ受ケルニ必要ナル準備ヲ爲ス
 第十一條 第八條及前條ノ規定ハ船舶法第四條第三項ノ規定ニ依リ外國
 ニ於テ船舶ノ積置ノ測定ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ積置ノ測定ヲ行フ場所ハ當該官廳ニ之ヲ指定ス
 第十二條 管海官廳ニ於テ積置ノ測定ノ申請ヲ受ケタルモノトキハ検査官吏
 ナシテ船舶ニ積置シ第二號書式ノ船舶件名書ヲ製シムルヘシ
 管海官廳ハ船舶件名書ノ原本ヲ申請者ニ交付シ同時ニ第八條第二項及
 第三項ニ依リ送付シタル證書ヲ送付スルヘシ
 第十三條 前條ノ規定ハ第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ運轉ナク船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ
 關係書類ヲ送付スルヘシ
 第十四條 第九條但書ノ場合ニ於テ船舶ノ所在地當該管海官廳ノ管轄區
 域外ナルトキハ該官廳ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條ニ規
 定スル事務ヲ委託スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル管海官廳ハ委託ヲ爲シタル管海官廳
 ニ船舶件名書ヲ送付スルヘシ
 第十五條 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積置ノ測定ヲ申請セントス
 ル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及測定ノ爲メ検査官吏ノ四檢
 チ受ケントスル場所ヲ記載シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出ス
 第九條第十條第十二條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 碼頭ヲ取得スル目的ヲ以テ内閣ニ於テ積置スル船舶ニ付テハ
 其積置ノ測定ハ最寄管海官廳ニ積置ノ測定ノ結果ヲ申請スルコトヲ得
 其積置ノ測定ノ結果及埠頭間ノ距離ヲ測定スルコトヲ得ルニ至ラ
 ントキハ此限ニ在ラズ
 第十七條 船舶法第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 申請ヲ爲ス者前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ原本ヲ受ケタル
 トキハ之ヲ申請書ニ添付スルヘシ
 第三章 船舶ノ登録
 第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スルハ申請
 書ニ登録ノ原本ヲ添ヘテ管海官廳ニ提出スルヘシ
 管海官廳ハ關係書類ヲ調査シ汽船及帆船ヲ有スル船舶ニ在リテハ左ノ
 事項ヲ船舶積置ニ登録ス
 一 番號
 二 信號符字
 三 種類
 四 名稱
 五 船籍港
 六 甲板ノ層數及種類
 七 外板ノ材料
 八 船骨ノ材料
 九 樁ノ數
 十 網具ノ裝置
 十一 船首ノ形狀
 十二 船尾ノ形狀
 十三 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長
 十四 造船積置測定方法ニ依リテ測リタル長
 十五 造船規定ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル噸數
 十六 船體最廣部ニ於テ内板板ノ内圍ヨリ内圍マテノ幅
 十七 船體規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深
 十八 船舶積置測定方法ニ依リテ測リタル甲板下ノ長ノ中央ニ於テ甲板ノ

- 下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深
- 十九 支水隔壁ノ数
- 二十 二重底ノ位置及容量
- 二十一 最大喫水
- 二十二 量噸甲板下部ノ噸數
- 二十三 量噸甲板上部ノ噸數
- 甲板間ノ噸數
- 船首樓ノ噸數
- 船尾樓ノ噸數
- 圍空ノ噸數
- 其他圍空ノ噸數
- 二十四 總噸數
- 二十五 登海噸數
- 二十六 船員常用室ノ噸數
- 二十七 機關室ノ噸數
- 二十八 汽機ノ種類及數
- 二十九 汽機ノ種類及數
- 三十 汽機ノ材料
- 三十一 汽機ノ數
- 三十二 汽機ノ徑
- 三十三 汽機ノ行長
- 三十四 推進器ノ種類及數
- 三十五 公稱馬力
- 三十六 製造地
- 三十七 進水ノ年月日
- 三十八 汽機製造ノ年月日
- 三十九 汽機製造ノ年月日
- 四十 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
- 四十一 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱

- 四十二 造船者ノ氏名又ハ名稱
- 四十三 原名
- 四十四 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所其共有者ナルトキハ其持分
- 帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第六號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス
- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 三 艙室梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ船ノ上面マテノ深
- 四 積石數
- 第二項第十四號第十六號第十八號及前項ノ長、幅及深ハ曲尺ヲ以テ測ルル尺度ヲ登錄ス
- 第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
- 第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル
- 一 所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムルニキリ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
- 二 船舶ノ名稱ニ變更シテ又ハ冠附シタル船舶ヲ變更シテハ前條ノ規定ニ依リテ
- 三 所有者ニ於テ自己ノ行為ニ因リテアラスシテ船舶ノ名稱ノ爲メニ名稱ヲ變更シタルトキ
- 第二十條 管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ原本又ハ其附屬書類ヲ管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登録用紙ヲ附録ス
- 船舶原簿ノ原本ニハ現存セル登録ノミヲ附録ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル原本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス

第二十一條 船舶港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タズ前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條第二項第六號乃至第十二號第十九號乃至第二十一號第二十八號乃至第三十五號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ五歲以上十二歲未満ノ者ハ二人、五歲未満ノ者ハ四人ヲ以テ前條及本條ニ依リ定メタル旅客定員ノ一人トシテ計算スルコトヲ得(明治三十一年六月通信省令第十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二十三條 船舶港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ申請シ該船舶報告書ヲ交付シ受ケルコトヲ得

前項ノ申請報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添付スヘシ

第二十四條 第十七條第二項第十三號乃至第十八號第二十二號乃至第二十七號又ハ第四項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ第十五條ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ記載スル登録ノ原本、抄本又ハ登記簿添付シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

第二十六條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 船舶法第十四條ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ登記簿添付シテ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登録用紙ヲ附録ス

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ證明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四節 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲サタルトキハ第三十條式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ申請セントスルトキハ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十九條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳ニ之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ該證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ前項ノ申請ヲ爲サタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ヲ發給ス

船籍書ノ交付アリタルトキハ運滞ナク船籍國籍證書ヲ返還スヘシ
 假船籍國籍證書ノ様式ハ第四條ノ式ニ依ル
 第三十七條 船籍法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船籍國籍證書
 ナリ受ケントスル者ハ第五條ノ式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證明スル書
 面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ
 第三十八條 假船籍國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セント
 スル場合ニ於テハ到港スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶
 國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船籍法第十七條ニ定ム
 ル期間ニ於テ當該管海官廳ノ決定ム
 第三十九條 假船籍國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ
 申請書ニ新舊事項ヲ列記シ當該管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 第四十條 假船籍國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船籍國籍證書ヲ
 請受ケタルトキハ運滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ返還スヘシ
 第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船籍國籍證書又ハ假船籍國籍證書ヲ返還
 スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ證明スヘ
 キ船籍國籍證書又ハ假船籍國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘ
 キ場合ニ於テ返還セザルトキハ當該管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公
 告ス
 第四十二條 第二十八條ノ規定ハ船籍國籍證書又ハ假船籍國籍證書ニ記
 載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第五節 國旗及船舶ノ標示
 第四十三條 船舶ノ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲グヘシ
 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸燈臺ヨリ要求セラレタルトキ
 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
 四 外國貿易船舶國ノ港ヲ出入スルトキ
 五 法令ニ別段ノ定アルトキ
 第四十四條 船舶ニ標示スヘキ事項及其方法ハ左ノ如シ但石敷ヲ以テ後

部ニ標示スル船舶ニ付テハ第四十五條ノ規定ニ依ル
 一 船首兩舷ノ外部ニ船名ノ名稱、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍
 港ノ名稱ヲ四吋以上ノ國字及羅馬字ヲ以テ記スルコト
 二 中央ノ船體ニ船名ノ名稱、船籍港及登録噸數ヲ彫刻シ又ハ其標識
 及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト
 三 船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ外部兩側面ハ噴水ヲ示
 スルメカクノ下面、副龍骨ナキトキハ其下面兩側面ハ噴水ヲ示
 スルメカクノ一面ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度
 ナリ噸數ヲ示シ又ハ其數字ノ洪字ナル噴水標識一対スルコト
 第四十五條 石敷ヲ以テ噸數ヲ標示スル船舶ハ其標識ニ定ムル方法ニ依
 リ船尾ニ船名及船籍港ノ名稱、船籍港ニ屬シ噸數及石敷標識ヲ標示スヘ
 キ
 第六節 登録稅、手数料、放費及日當
 第四十八條 登録稅法ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依
 リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録稅納付書ヲ提出シ申請書ニ添
 出スヘシ
 一 第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第一號
 ノ噸數ニ依リ登録稅ヲ爲ス場合、第二十二條又ハ第二十四條ノ場合ニ
 於テハ登録稅法第四條第一項第四號
 二 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第三號
 三 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第二號
 四 船籍港變更ノ事項ノ變更ヲ以テ第一號トス
 又ハ第四項各號ノ事項ノ變更ヲ以テ第一號トス
 第五十條 登録稅納付書ニハ船舶ノ名稱、噸數及噸數標識ノ登録稅
 法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ噸數ヲ記載スヘシ
 第五十一條 第二十九條ノ手数料ハ左ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼
 着シ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

一 船本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
 二 抄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
 三 船舶原簿ノ開覽 金二十錢
 第五十二條 登録稅納付書又ハ前條ノ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ當
 該管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請書ニ於テ自己ノ便宜上消
 印ヲ爲スハ妨ナシ
 第五十三條 船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ検査官吏ノ
 出張シタルトキハ船舶所有者ノ成規ノ旅費及日當ヲ當該管海官廳ニ納
 付スヘシ
 第七節 罰則
 第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船籍國籍證書ヲ返還
 スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所
 有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五十六條 明治二十六年(二月)選信省令第三號、同年(三月)選信省令
 第六號失踪船取扱規則、同年(同月)選信省令第八十五號及明治二十
 年(四月)選信省令第三號登録船免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止
 ス
 第五十七條 船舶法施行ノ際登録船免狀又ハ船籍札ヲ受有スル船舶ニシ
 テ船舶法ノ規定ニ依リ登録稅ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受ケヘキモノノ
 所有者ハ登録噸數十五噸以上又ハ積石噸數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ
 船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルコトヲ當該管海官
 廳ニ登録噸數十五噸未満ノ汽船及積石噸數百五十石未満ノ船舶ニ付テハ船舶
 法施行ノ日ヨリ起算シ二年内ニ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ積置ノ
 制度ヲ申請スヘシ
 前項ノ船舶ニシテ登録船免狀又ハ船籍札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生
 シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ運滞ナク船籍港ヲ管
 轄スル管海官廳ニ申請ヲ爲スヘシ
 第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ噸數標識ヲ檢査官吏ハ噸數ノ測定ノ一部ヲ查
 察スルコトヲ得
 第五十九條 前條ノ規定ニ依リ噸數ノ測定ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ運
 滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請
 スヘシ
 前項ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出シテ之ヲ爲ス
 一 船舶ノ名稱、名稱及噸數
 二 船籍港
 三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分
 第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲グル書面ヲ添附スヘシ
 一 登録ノ標本
 二 噸數ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽爐ノ製造者ニ於テ其ノ製造
 ノ年月日ヲ記スル書面
 三 船籍札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原籍、製造
 地、進水ノ年月日及製造者ノ氏名又ハ名稱ヲ記スル書面
 第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録稅ヲ爲ストキハ
 登録船免狀又ハ船籍札ニ記載シタル製造年月日ヲ以テ進水ノ年月日ト看
 做ス
 第六十二條 登録船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケ
 タルトキハ運滞ナク該免狀ヲ當該管海官廳ニ返還スヘシ
 船籍札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ運滞
 ナク該免狀ヲ原籍地方官廳ニ返還スヘシ
 第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ申請書ヲ怠リタル船舶所有者ニ之
 ヲ適用ス
 第六十四條 船舶法施行ノ際登録船免狀又ハ船籍札ヲ受有スル船舶ハ登
 録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ規定ニ拘ハラズ登録稅ヲ納付
 第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル船
 籍免狀ニ之ヲ準用ス
 (書式ハ之ヲ參ス)

第一章 造船

●造船獎勵法

明治二十九年三月
法律第十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ此ノ造船獎勵法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
造船獎勵法

- 第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナシ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ選信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ造船獎勵金ヲ對シ造船獎勵金ヲ下付ス
- 第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケル船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ナリ有シ選信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル
- 第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未満ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖モ選信大臣ノ許可ヲ得ルモノキ亦同シ
- 第四條 造船獎勵金ヲ受ケル船舶ノ船體及機關ニハ選信大臣ノ定ムル規程ニ依リ外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス
- 第五條 船舶ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケル者ハ一年以上五年以下ノ實業ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得ル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム
- 第六條 前項ノ罰金サントシテ違ケザル者ハ刑法未遂罪ノ例ニ依リ處断ス
- 第七條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法重罪罪例ヲ用テ罰ス
- 第八條 前二條ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル役員若シハ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス
- 第九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五年間之ヲ施行ス

●造船獎勵法施行細則

明治二十九年九月選信省令第十六號

- 一 造船獎勵法施行細則左ノ通相定メ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス
- 第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ノ監督ニ左ノ書
期ヲ法ハ管轄地方官制ヲ經由シテ之ヲ選信省ニ提出スルベシ
一 船舶件名書(第一號書式)
- 二 船圖
- 三 船體機關製造仕樣書
- 四 資格證明書
- 第二條 資格證明書ニハ左ノ事項ヲ記載スルベシ
一 造船所ノ位置
- 二 工場及船臺ノ面積(略圖ヲ添付スルベシ)
- 三 機械ノ種類
- 四 技師ノ姓名、職歴
- 第三條 船圖ハ左ノ十一種ニ分テ寸法ヲ附記スルベシ
一 船體輪圖
- 二 船體中央橫斷面圖
- 三 船體中心線縱斷面圖
- 四 船體各甲板及輪內平面圖
- 五 裝帆圖
- 六 汽機橫斷面圖
- 七 汽機縱斷面圖
- 八 汽機輪軸圖
- 九 汽機輪齒圖
- 十 汽機輪齒圖
- 十一 安全圖
- 第四條 同一ノ造船所ニシテ所有者二人以上アルトキハ其ノ一人ヲ總代トシ總所有者ノ姓名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ提出スルベシ
- 第五條 商會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ提出スルベシ

- 一 會社ノ種類
- 二 社員又ハ株主ノ姓名
- 三 會社契約又ハ定款
- 四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ姓名
- 第六條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ監督ニ其ノ旨ヲ記載シ前條ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置、面積及機械ノ種類ヲ記載シタル書面附加シ製造請負契約書ヲ提出スルベシ
- 第七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ニ限ル
一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル機器及設備ヲ備フルコト
- 二 船體專任技師及機關專任技師各一人以上ナリ且クコト
- 第八條 第七條ニ定ムル技師ハ帝國大學工科大学又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ備フル學校ヲ卒業シ三箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者又ハ滿七箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ選信大臣ノ定ムル手續ニ依リ試験ヲ受ケ及第シタル者ニ限ル
- 第九條 選信大臣ハ第一條第四條第五條又ハ第六條ノ書類ヲ受理スルベキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ造船所ノ資格、製造仕樣書及船圖ヲ調査セシムルベシ
- 第十條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ製造仕樣書及船圖ヲ訂正若シテ追加セシメ又ハ造船所ニ臨檢スルコトアルベシ
- 第十一條 検査官吏ノ報告ニ依リ選信大臣ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スルベキモノト認ムルトキハ製造船舶ニ對シ地方官制ヲ經由シテ出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スルベシ
- 第十二條 認許證書ヲ受有スル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關シ検査官吏ノ監督ヲ受ケルベシ
- 第十三條 選信大臣ハ造船所ニ於テ検査官吏ノ指揮ニ背反シ又ハ其ノ命令ヲ違背セザル所爲アリト認ムルトキハ認許證書ヲ返納ヲ命スルベシ
- 第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニハ左ニ掲グルモノ

- 一 ノ外國製品ヲ供用スルヲ得ス
- 二 船首材
- 三 龍骨材
- 四 雙龍骨材
- 五 徑七吋以上ノ諸條
- 六 諸條材
- 七 鐵鋼製部品
- 八 鐵形及助形火口
- 九 蒸氣機
- 第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶竣工シタルトキハ検査官吏ノ檢査ヲ受ケ試運轉ヲ執行シ其ノ立會ヲ以テ總噸數及實馬力ヲ算定スルベシ
- 第十五條 總噸數ハ船舶積載測定規則ニ依リ算定スルベシ
- 第十六條 實馬力ハ航海獎勵法施行細則第七條ノ手續ニ依リ船舶ヲ航海セシメ毎回各汽機ヨリ取リタル示壓圖ニ依リ算定シタル實馬力ノ平均數トス但シ汽機同噸數ハ示壓圖ヲ取ル時間ニ於ケル平均數ヲ用テスルベシ
- 第十七條 認許證書ヲ受有スル者第十四條ノ手續ヲ了リタルトキハ第三號書式ノ請求書ニ認許證書ヲ添ヘ選信省ニ造船獎勵金ノ下付ヲ出願スルベシ
- 第十八條 選信省ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ審査ノ上造船獎勵金ヲ出願人ニ下付スルベシ
- 第十九條 此ノ細則ニ規定ナキモノニ付テハ航海獎勵法施行細則ノ規定ヲ適用ス
- (書式ハ之ヲ專ス)

●日本形五百石以上ノ船舶ノ製造ヲ禁ス

明治十八年七月
布告第十六號
日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十一年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

第三章 船舶検査

船舶検査法

明治二十九年四月

第一章 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除外シテ法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受ケルヘシ
一 海軍艦艇
二 登録噸數十五噸未満若ハ積石噸數百五十石未満ノ帆船
三 湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル帆船
四 標旗ノミヲ以テ航行スル帆船
第二章 此ノ法律ニ依リ検査ヲ受ケルヘキ汽船ハ遠洋航船、近洋航船、沿海航船、内水航船ノ四種トシ帆船ハ遠洋航船、近洋航船ノ二種トス
第三章 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ
第四章 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス
第五章 登録噸數十五噸以上若ハ積石噸數百五十石以上ノ船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶検査所ニ行ヒ登録噸數十五噸未満ノ汽船ノ検査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳ニ行フ
第六章 検査官更船舶ヲ検査シ候儀大員ノ定ムル規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ
第七章 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受取ルニ付船舶検査ノ用ニ供セムトスルモノトキハ検査官更ハ其ノ請求ニ依リ但書ヲ交付シテ之ヲ認ムルコトヲ得
第八章 検査官更ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ若シ検査ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ航行ヲ禁止スルコトヲ得
第九章 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ナキ且運信大臣ニ再檢査ヲ申請スルコトヲ得
再檢査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス
第十條 運信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受取ル船舶ノ航路定限、航行期間等應ニテ航行シタル者ハ三十箇月以上三百箇月以下ノ罰金ニ處ス
第十一條 前條ノ罰金以下ノ罰金ニ處スル者ハ其ノ航行停止ノ命ニ違フヘキ要ナル罰金ノ額檢査官ニ依リ定メテ船舶検査ノ用ニ供セラルベキ者トシ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十箇月以上百箇月以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 前條ノ罰金ニ處スル者ハ其ノ航行停止ノ命ニ違フヘキ要ナル罰金ノ額檢査官ニ依リ定メテ船舶検査ノ用ニ供セラルベキ者トシ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十箇月以上百箇月以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 前條ノ罰金ニ處スル者ハ其ノ航行停止ノ命ニ違フヘキ要ナル罰金ノ額檢査官ニ依リ定メテ船舶検査ノ用ニ供セラルベキ者トシ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十箇月以上百箇月以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 明治十七年第三十號布告四條形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
第十五條 明治十七年第三十號布告四條形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有效期間満了マテ效力ヲ有ス
第十六條 此ノ法律施行ノ際現在存スル積石噸數百五十石以上ノ帆船ノ運信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受ケルマテ船舶検査證書ヲ受取ルシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
第十七條 此ノ法律ノ外國ノ船舶ニ適用スル船舶検査ノ輸入シ各港ノ開又ハ船舶トシテ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

第四章 雜則

西洋形船舶大小砲設備ヲ許ス

明治八年五月第九十八號布告

海軍官廳ヲ除ク外西洋形船舶ニ砲彈防禦ノ爲大小砲設備ノ備置許候儀左ノ通可相心得此旨布告候事
第一條 海軍官廳ヲ除ク外諸省「使」府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船ハ大砲口径四吋以内二門小銃三十挺設備スル事若シカラス但船舶噸數ニ由リ本文ニ掲ケル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増設セントスルトキハ更ニ取許可ヲ受ケヘシ
第二條 (明治十七年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ消滅ス)
第三條 船内ハ銃砲ヲ設備スルトキ諸省「使」「正院」ハ上請シ府縣ハ内務省へ申出許可ヲ受ケヘシ但人民所持船舶ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受ケヘシ而シテ該廳ニ於テハ免狀ヲ與ヘ其旨内務省へ届出ツヘシ
第四條 銃砲ノ設備許可セシトキハ其旨海軍省へ通知スル事トス尤省「使」ノ分ハ「正院」ヨリ府縣並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ
第五條 諸省「使」府縣並ニ人民ニ於テハ外國ヨリ買入ノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ但銃砲「彈藥」買入ルル節ハ明治五年(五月)第二十八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

船舶ノ製造若ハ購求ヲ海軍省ニ届出ニ關スル件

明治三十一年七月海軍省令第七號

總噸數七百噸以上ノ西洋形船舶ノ製造ニ着手スル者若ハ購入スル者ハ左ノ事項ヲ記載シ地方官廳ヲ經由シテ海軍大臣ニ届出ヘシ但シ本邦人ヨリ購入スル者ハ單ニ其ノ船名(歐稱シタルモノ)新船名トモ)及製造所有者氏名ノミヲ届出其ノ他ノ事項ハ届出ルニ及ハス
一 船名
二 製造所名

第七編 海員

第一章 船員

船員法

明治三十二年三月

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ船員法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ船員法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一章 總則

第一條 本法ハ日本船中船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミテ航行スル船中又ハ船中法第二十條ニ掲ケタル船中船員ニ付テハ此限ニ在ラズ

第九條 船員手帖ハ被失シタルトキハ船員ハ速ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及口海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第十條 船員ハ日本ニ在ラザル間ニ於テ船員手帖ヲ被失シタルトキハ船員ハ速ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第三條 日本ニ於テ船員トシテ欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ再換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラズ

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第十二條 船員カ船中ニシテ死亡シタルトキハ船員手帖ハ其船長ニ被提出スルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條 船員ハ海員ヲ指シ、監督シ及ビ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サザル未成年者ハ履修契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ前條第五百六十二條第一項ニ掲ケタル責務ヲ担出スルコトヲ要ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五條 船員カ船中ニシテ死亡シタルトキハ其遺體ナル水跡ヲ遺留スルトキ其船長ハ速ニ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各埠ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其船舶ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其港最初ニ到著シタル埠ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シ其檢閱ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船員ハ最初ニ到著シタル埠ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 第三條第二項及第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其ノ證據ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及口積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非ザラハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第十九條 公證アリタルトキハ海員ハ速ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公證ノ證據ヲ申請スルコトヲ得

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ五人以上ノ人命及船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及口到達港ヲ皆ケルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラズ

第二十七條 管海官廳カ公證ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當該管署方ニ證明セザレバ之ニ非ズ、捺印セシムル事又係船員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ管署者ノ一方カ公證ヲサルトキトシ管署公證ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認めタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラズ

第二十八條 管署者ハ正當ノ理由アル場合ニ該代理人ヲシテ公證ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十九條 公證アリタルトキハ海員ハ速ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公證ノ證據ヲ申請スルコトヲ得

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命ジタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非ザラハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ伊アルトキハ管署者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公證ヲ申請スルコトヲ得

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ證據ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 管署者ノ一方カ出頭セザルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ依リて雇止ノ公證ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及船舶員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

官廳ヨリ呼出テ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應ゼザルキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラザルトキハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ船中ニ在ラズシテハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船中ニ在ラズシテハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遣送シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ火器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船中ニ在ラズシテハ一等ヲ加ヘ船中ニ在ラズシテハ二等ヲ加ヘシタルトキハ重禁錮ニ處ス

第六十八條 船中ニ在ラズシテハ一等ヲ加ヘシタルトキハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 船中ニ在ラズシテハ二等ヲ加ヘシタルトキハ重禁錮ニ處ス

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打傷ヲ與ヘタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ラズシテ其職務ヲ盡川シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處断ス

第七十二條 海員カ船長ニ對シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各條ノ罰則ニ依リテ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セザルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條 船長カ若シテ其職務ニ怠リ因テ船中ニ在ラズシテハ重禁錮ニ處ス

第七十四條 本條ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船中ニ在ラズシテハ罰則ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告四洋形船海員雇入禁止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定ムル罰則ヲ適用ス

第七十七條 海員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ヲ交付シ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定ムル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後續メテ公認アリタルトキハ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リテ管海官廳ヲ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ市長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

船員法施行細則

明治三十二年六月 逓信省令第二十五號

船員法施行細則

第一章 總則

第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依リ申請ハ特ニ明文ヲ掲グル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲スルトキハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ提出ス

第三條 船員法及本則中最初ニ到者シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到者シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ト稱ス

第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帖

第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ヲ交付シ申請セシトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出ス

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲グル事項ヲ稱スル戸籍更ノ書面其他ノ公正證書ヲ申請書ニ添付スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 未成年者ノ氏名及本籍地

二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨

三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日

四 法定代理人ノ本籍地及住所

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍更ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ヲ交付シ又ハ書換テ申請セントスル者ハ其事由從來受有ノ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱ヲ最寄管海官廳ニ證明シ且書換テ申請スル場合ニハ船員手帖ヲ提出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス但船員法第十條但書ノ場合ハ此限ニアラス

第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ運送セントスル者ハ其事由ヲ證明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ提出スヘシ

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有スル船員手帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ

第十一條 本條ニ掲グル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモノトス

第十二條 船員手帖ノ格式ハ第二號書式ニ依ル

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員名簿、職員目録、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ運送ナラザルニ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ運送ナラザル訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後運送ナラザル書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ經過、發生ノ年月日時、場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 漂流ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ

四 漂流セザル港ニ寄港シタルトキ

五 船舶ニ急迫ノ危險アリタルトキ

六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ

七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

八 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ

九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ繼承シタルトキ
 十二 前各條ニ掲ケル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
 十三 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其
 下船後運送ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ
 十四 本條ニ掲ケル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削
 除シタル文字ハ之ヲ識シ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ
 第十五 第三條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ外其
 行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ
 第十六 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱
 ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海
 官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ送付ス
 第十七 海員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第十八 前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ
 署名捺印スルコトヲ要ス
 一 船舶ノ名稱
 二 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
 三 報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時
 四 報告スヘキ事實ノ概要
 五 報告スヘキ事實ノ預末
 第十九 報告書ノ認印ハ報告書ニ認印ヲ爲シタル旨及認印ノ年月日ヲ
 記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス
 第二十 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ運送ナク重立テタル
 海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産目録ヲ作ルヘシ
 遺産目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會
 タル海員之ニ連署スルコトヲ要ス
 一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
 二 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金銀ナルトキハ其金額

三 遺産目録ヲ作リタル年月日
 第二十一條 船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ日本
 月曆ニ公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其港ノ管海官廳ニ其港ニ管
 海官廳ナキトキハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ送
 出スヘシ
 船中ニ死亡者アリタルハ前項ニ掲ケル日本ノ送付ヲ要セザルトキハ船
 長ハ遺産目録ヲ作リタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ場合又ハ
 航行中ニ於テ作リタル場合ニ在リテハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官
 廳ニ遺産目録ヲ送付スヘシ
 第二十二條 前條ニ依リ遺産目録ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其管海官
 廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺産目録ヲ送付スヘキコトヲ船長ニ命スル
 コトヲ得
 第二十三條 船長既經又ハ退職ノ認印ヲ申請セントスルトキハ既經又ハ
 退職及其年月日ヲ記載スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ發給管海官廳ニ提出
 スヘシ
 既經ノ認印ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外船舶
 ノ種類、名稱、航路、定限及數量ヲ記載シタル書面ヲ添出シ且其海技免狀
 ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ
 第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認印ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四篇 海員
 第二十五條 海員履入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履入者ハ海員名簿ニ
 書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲ケル書類ノ發生
 シタル港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキハ航行中其事實發生シ
 タルトキハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第四號書式ノ申請書
 二 履入者ニ關シ記載シタル航海日誌
 三 公認ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十六條 第二十五條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員履入ノ
 第三十六條 履入者總員又ハ船員法第二十七條第一項俱書ノ場合ニ在リ
 テハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿
 ニ海員履入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ當事者ノ一方出頭セシテ公認
 ナシタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第
 二號ノ書類ト共ニ之ヲ履入者ニ送付ス
 第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ履入ノ公認ヲ申請スル者ハ其
 申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ
 呼出シタルトキハ當事者ノ申立ニ關シ各申立ヲ爲シタルトキハ此場合ニ於
 テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコ
 トヲ得
 第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請理由アリト
 スルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員
 履入ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺
 シテ之ヲ履入者ニ送付ス
 第四十條 海員履入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履入者ハ海員
 名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ノ規定ニ依リ海員
 履入ノ公認ヲ申請スルコトヲ要ス
 一 管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ航行中更新ヲ爲シタルトキ
 ハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第五號書式ノ申請書
 二 第二十五條第二號ノ書類

第三 事務部海員
 同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ
 第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員履入ノ公認ヲ受ケシメントスルト
 キハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ認スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ
 之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 第二十八條 海員履入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記
 載シタル事項ヲ當事者ニ檢閱カスルハ被履入者ニ付テハ第二十六條ノ順
 序ニ依リ之ヲ爲ス
 當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ履入者ヲ先ニシ被履入者ヲ後ニス被履
 者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル
 第二十九條 被履入者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海
 員履入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十
 五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ履入者ニ送付ス
 第三十條 船員法第二十九條ニ依リ履入ノ公認ノ認印ヲ申請セントスル
 トキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管
 海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認印ヲ申請セントスルトキ
 ハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最
 寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海
 官廳ニ提出スヘシ
 第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其履入
 期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ運送ナク前條第一項ノ手續ヲ爲
 スル公認ノ認印ヲ申請スヘシ
 第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員履入ノ公認ヲ申請スヘシ
 一 海員履入期間満了シタルトキ
 二 海員死亡シタルトキ
 三 商法第五百八十一條又ハ第五百八十三條ニ依リ海員ヲ履入止メタル
 トキ

第四 商法第五百八十七條ニ依リ海員履入契約終了シタルトキ
 第三十四條 海員履入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履入者ハ海員名簿ニ
 書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲ケル書類ノ發生
 シタル港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキハ航行中其事實發生シ
 タルトキハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第四號書式ノ申請書
 二 履入者ニ關シ記載シタル航海日誌
 三 公認ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十五條 第二十五條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員履入ノ
 第三十六條 履入者總員又ハ船員法第二十七條第一項俱書ノ場合ニ在リ
 テハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿
 ニ海員履入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ當事者ノ一方出頭セシテ公認
 ナシタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第
 二號ノ書類ト共ニ之ヲ履入者ニ送付ス
 第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ履入ノ公認ヲ申請スル者ハ其
 申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ
 呼出シタルトキハ當事者ノ申立ニ關シ各申立ヲ爲シタルトキハ此場合ニ於
 テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコ
 トヲ得
 第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請理由アリト
 スルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員
 履入ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺
 シテ之ヲ履入者ニ送付ス
 第四十條 海員履入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履入者ハ海員
 名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ノ規定ニ依リ海員
 履入ノ公認ヲ申請スルコトヲ要ス
 一 管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ航行中更新ヲ爲シタルトキ
 ハ其港最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第五號書式ノ申請書
 二 第二十五條第二號ノ書類

三 第三十四條第二號ノ書類
 第四十一條 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第六號書式ノ申請書
 二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀
 第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十三條 海員公認ノ申請書ニ添付スルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ期限ノ年月日並第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ期限ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ提出スルノ場合ニハ之ヲ海員手帖ニ添付シ其ノ他ノ場合ニハ之ヲ別紙ニ添付ス
 第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタル港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中ニ之ヲ作リタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 一 第七號書式ノ申請書
 二 第二十五條第二號ノ書類
 三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖
 前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者船員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ
 第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖被失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス
 第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルトキ及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ送付ス
 第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ公認ニ關スル規定ヲ除外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ期限ヲ爲スニ當リ之ニ捺印スルニアラサルニ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス
 第四十八條 公認及公認ノ期限ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ
 第五章 手数料
 第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ
 一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 二十員
 二 船員手帖ノ訂正 船員法第三條第二項ノ事項一箇ニ付 五員
 三 報告書ノ公認 一通ニ付 一員
 四 船長免狀又ハ退職ノ公認 一件ニ付 二十員
 五 公認 被雇者一人ニ付 十員
 六 公認ノ期限 被雇者一人ニ付 五員
 前項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前項ニ定ムル所ノ二倍トス
 第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
 前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ通信大臣ノ告示ニ依リ之ヲ納付スルノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ
 第六章 罰則
 第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺棄シタル者ハ二箇以上二十箇以下ノ罰金ニ處ス
 附則
 第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)名簿、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ
 第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ
 第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルトモ否トモ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ
 第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス
 第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ
 第五十八條 海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス
 第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ
 一 船舶ノ名稱、番號、積載、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
 二 海員ノ氏名及本籍地
 三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料
 四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ組合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲スルニ其各葉ニ捺印スヘシ
 第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲ケタル場合ヲ除外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス
 第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六ヶ月間ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル場合及該期間満了後初メテ雇入ノ公認ヲ受ケタル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ送付スヘシ
 (書式ハ之ヲ參ス)

●管海官廳ノ事務執行ヲ爲ス者

- 明治三十二年六月
 逓信省令第二十六號
- 岩内支廳長(岩内郡岩内)
 室蘭支廳長(室蘭郡室蘭)
 東京府
 京都市
 神奈川縣
 三浦郡浦賀町長
 兵庫縣
 長崎縣
 東彼杵郡佐世保村長
 千葉縣
- 宗谷郡稚内村長
 根室支廳長(根室郡根室)
 樺原郡川町長
 興野郡宮津町長
 三浦郡三崎町長
 三原郡宮崎町長
 南高來郡口津村長

- 海上郡鏡子町長
- 茨城縣 安房郡館山町長
- 三重縣 那珂郡湊町長
- 愛知縣 四日市市長
- 愛知郡熱田町長
- 知多郡坂井村長
- 知多郡牛田町長
- 賀茂郡下田町長
- 上野郡伊豆石町長
- 青森市長
- 山形縣 鮎川郡酒田町長
- 秋田縣 南秋田郡土崎町長
- 福井縣 敦賀郡敦賀町長
- 石川縣 鹿島郡七町長
- 島根縣 隠岐郡島(周吉郡四郡)
- 岡山縣 淺口郡玉島町長
- 廣島市長
- 山口縣 尾道市長
- 和歌山縣 郡濱郡德山村長
- 海草郡湊村長
- 德島縣 東牟婁郡三輪崎村長
- 香川縣 名東郡加茂村長
- 愛媛縣 綾歌郡坂出町長
- 高知縣 温泉郡三津濱町長
- 福岡縣 長岡郡三里村長
- 佐賀縣 遠賀郡若松町長
- 熊本縣 東松浦郡滿島村長
- 那珂郡長

●船員手帳ノ交附訂正又ハ書換ニ關スル手數料ノ件

明治三十二年六月勅令第二百四十三號
 船員手帳ノ交付、訂正又ハ書換等ニ關スル手數料ノ件ヲ附シテ之ヲ公布セシム
 船員手帳ノ交付、訂正又ハ書換其ノ他船員法ノ規定ニ依リ認證、公認又ハ公認ノ認證ヲ申請スル者ハ選信大臣ノ定ムル所ニ從ヒ手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ
 船員手帳ノ交付又ハ書換ニ關スル手數料ヲ除ク外前項ノ手數料ハ市町村長ニ於テ管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテハ市町村ノ收入トスル長又ハ之ニ準スヘキ管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテハ國庫ヨリ其ノ役場ノ經費ヲ支辨セザルトキ亦同シ

●船員法施行細則第四十九條 第一項第二號乃至第六號ノ手數料ヲ納付スヘキ場所

- 一 海務局
- 二 海務署
- 三 前二號ニ掲グルモノヲ除ク外北海道ニ於ケル管海官廳
- 四 收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納付スヘキ處規アル帝國領事館

●陸軍豫備役後備役ニ在ル者

及補充兵員ニシテ海員タル者届出ノ件

明治三十年十月 陸軍省令第二十六號
 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵員ニシテ海員タル者届出ノ件左ノ通定スル
 第一條 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及第一第二補充兵員ニシテ左ニ掲グル者ハ其ノ届入ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ届入ヲ公認シタル市町村長又ハ浦役人又ハ領事ノ證明ヲ受ケ其ノ旨ヲ本籍縣區司令官又ハ管備隊司令官(町村ニ在テハ島司郡長ヲ經テ)ニ届出シヘシ其ノ解雇セラルトキ亦同シ但區長戸長以外ノ者ニ特ニ浦役人ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ區長戸長ヲ經出スヘシ
 領事又ハ本籍地以外ノ市町村長若クハ浦役人ノ證明ニ係ル者ノ届書ハ本籍島司、郡長及市町村長ヲ經出スヘシ
 一 海技免狀ヲ有シ西洋形船舶ニ乘組ノ者
 二 海員試驗規程ニ於テ選信大臣ノ允當ト認ムル學校ヲ卒業シ登壇噸數百噸以上若クハ積石數千石以上ノ船舶ニ乘組ノ者
 三 登壇免狀ヲ受有スル船舶ノ水夫長、舵夫、火夫長、油釜
 第二條 陸軍後備役ニ在ル者及第二補充兵員ニシテ登壇免狀ヲ受有スル船舶ノ助方、水夫、火夫ニ付テモ亦前條ニ依ル
 第三條 正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第四條 第一條ノ市町村長ハ東京市、京都市、大阪市及市制町村制ヲ施行セザル地方ニ於テハ區長、戸長及之ニ準スヘキ者トス
 第五條 本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ従事シ在ル者ハ明治三十年十一月二十日迄ニ第一條ノ例ニ依リ届出ヘシ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後(領事ノ證明ヲ受ケヘキ者ハ證明書受領後)二十一日以内ニ届出ヘシ
 前項ノ届出ヲ怠ル者ニハ第三條ヲ適用ス

●船舶職員法

明治三十九年四月 法律第六十八號
 船舶職員法
 第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乘組シムヘシ
 船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ
 第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラザレハ船舶職員ニ充テラズ
 第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス
 甲種船長
 甲種一等運轉士
 甲種二等運轉士
 乙種船長
 乙種一等運轉士
 乙種二等運轉士
 丙種船長
 丙種運轉士
 機關長
 一等機關士
 二等機關士
 三等機關士
 第四條 各船舶ニ乘組シムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル
 第五條 海技免狀ハ選信大臣ノ定ムル試驗規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス
 海軍艦艇ニ乘組ミ運轉シ機關運轉ニ従事シ又ハ商船學校卒業生等證書ヲ有シ選信大臣ニ於テ海員試驗規程ニ合格スト認ムル者ニハ試驗ヲ用弗シテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得
 第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試驗ヲ受ケルコトヲ得ス

又船舶職員タルコトヲ得ス
 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セザル者及公權停止中ノ者
 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者及身代限ノ成分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
 三 癡癩白痴者若ハ身體不具ニシテ職權ニ不適當ナル者
 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者
 第七條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得
 甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ丙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス
 機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス
 第八條 左ニ掲ケル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乘組マンメタル者
 二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受ケセスシテ船舶職員ト爲リタル者
 三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者
 四 海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
 五 海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執行セタル者
 第九條 前條ノ罰則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併科ノ例ヲ用ス
 前條ノ罰則ハ商事會社ニ在リテ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス
 附則
 第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
 第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
 第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年

第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ逡信大臣ノ決定ス
 前項ノ掲ケタル各種ノ免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得
 第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス
 第十四條 逡信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用フスルコトヲ得
 海技免狀ヲ授與スルコトヲ得
 第十五條 逡信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登録噸數五百噸未満ノ汽船及沿海汽船及沿海航船ニシテ登録噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執行セシメ又一等機關士ヲ乘組マンメタルコトヲ得
 (表ハ略ス)
 ●船舶職員法ノ規定ニ對スル
 例外ノ件 明治三十年五月 逡信省令第十一號
 船舶職員法第一號表中近海航船ニシテ登録噸數五百噸未満ノ汽船及沿海航船ニシテ登録噸數二百噸以上ノ汽船ニハ船舶職員法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執行セシメ又一等機關士ヲ乘組マンメタルコトヲ得
 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル
 船舶ニ關シ船員法施行ノ件 明治三十二年六月勅令第二十四十一號
 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シ船員法施行ノ件ヲ廢止シ之

ナ公布セシム
 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ船員法ヲ施行ス

第二章 海技免狀

●海技免狀取扱規則 逡信省令第八號

海技免狀取扱規則左ノ通り改正ス
 第一條 海員試驗規程ニ依リ合格證書ヲ得タル者海技免狀ヲ受ケントス
 ルトキハ第一號表式ノ申請書ニ合格證書ノ寫ヲ添テ試驗ヲ受ケタル船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ之ヲ逡信省ニ提出スヘシ
 第二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスルトキハ海軍艦艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ニ在リテハ最後任官ノ辭令書、履歷書及身分書、商船學校全科卒業生ニ在リテハ其ノ卒業證書、履歷書及身分書ヲ添テ第二號表式ノ申請書ヲ檢査受ケタル船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ逡信省ニ提出スヘシ
 前項ノ身分書ニ關シテハ海員試驗規程第十條ノ規定ニ依リ海技免狀受有後ノ履歷ニ關シテハ海員試驗規程第九條ノ規定ニ依リ之ヲ提出スヘシ
 第三條 逡信省ニ於テ第一條若ハ第二條ノ申請書ヲ受ケ海技免狀ヲ授與スヘキモノト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海員名簿ニ登錄シ第三號表式ノ海技免狀ヲ授與スヘシ
 一 海技免狀ノ番號
 二 海技免狀ノ種類
 三 氏名
 四 族籍(近府縣華士族平民)
 五 原籍地
 六 生年月日
 七 試驗地名

八 合格年月日
 九 登録年月日
 第四條 當該官吏若ハ公吏ニ於テ海技免狀ノ檢閱ヲ要スルトキハ海技免狀受有者ハ直ニ之ヲ提供スヘシ
 第五條 氏名若ハ族籍ヲ變更シ又ハ生年月日ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ原籍市町村長、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明ヲ受ケ二箇月以内ニ本由ヲ具シ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ逡信省ニ登錄スルモ族籍ヲ變更シタルトキハ當該市町村長、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明ヲ受ケ二箇月以内ニ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ其ノ再授ヲ逡信省ニ申請スヘシ
 第六條 海技免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ二箇月以内ニ本由ヲ具シ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ其ノ再授ヲ逡信省ニ申請スヘシ
 第七條 左ニ掲ケル海技免狀ハ無効トス
 一 船舶職員法第六條第一號乃至第三號ニ掲ケル事項ニ該當セタル者ノ受有スル免狀
 二 高等免狀ヲ授與セラレタル者ノ受有セシ下等免狀
 三 齊換若ハ再授ニ依リ免狀ヲ授與セラレタル者ノ受有セシ當該免狀
 四 廢棄、失蹤若ハ死亡シタル者ノ免狀
 五 無効ノ合格證書ニ依リ授與セラレタル免狀
 前項ノ場合ニ於テ逡信省ハ直ニ海技免狀ノ無効タルコトヲ官報ニ公告スヘシ
 第八條 海技免狀無効ト爲リタルトキハ本人ニ於テ三十日以内ニ本由ヲ具シ最寄船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ該免狀ヲ逡信省ニ返納スヘシ
 本人失蹤若ハ死亡シタルトキハ海技免狀ノ保管者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第九條 逡信省ハ登錄事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ訂正シ又海技免狀無効トナリタルトキハ第七條第三號ノ場合ヲ除ク外其ノ登録ヲ削除

第十條 第一條若ハ第二條ニ依リ登録ヲ申請シ若ハ第五條ニ依リ登録ノ變更ヲ申請スル者ハ申請書ト與ニ登録稅法第九條ニ從ヒ相當ノ登記印紙ヲ貼用シタル登録稅上納書ヲ提出スルヘシ

第十一條 第六條ニ依リ海技免狀ノ再授ヲ申請スル者ハ手数料一圓ヲ納ムヘシ

第十二條 第四條、第五條、第六條若ハ第八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 此ノ規則ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 此ノ規則施行以前ニ於テ第五條、第六條若ハ第八條ニ掲グル場合ニ該當シタル者ニシテ未ダ其ノ手續ヲ了ラサルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ニ違背シタル者ニハ第十二條ノ罰則ヲ適用ス

(舊式ハ之ヲ界ス)

海技免狀交換規程

明治三十年五月選信省令第九號

海技免狀交換規程左ノ通定メ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

海技免狀交換規程

第一條 船舶職員法第十二條ニ掲グル海技免狀ヲ受有スル者ハ船舶司檢所若ハ船舶司檢所支所ヲ經由シテ該免狀ノ寫ヲ添テ別記書式ヲ申請書トシ選信省ニ提出スルヘシ

明治三十年十一月一日以前ニ免狀ヲ授與セラレタル者ニ在テハ原籍地、身分、氏名生年月日ヲ記載シ且原籍市町村長、外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受ケタル身分書ヲ前項ノ申請書ニ添附スルヘシ

第二條 船舶職員法第二號表ニ於テ二種ノ新免狀ニ相當スル舊免狀ヲ受

有スル者ハ一種ノ新免狀ヲ選擇シ交換ヲ申請スルヘシ

甲種ニ選擇手若ハ本免狀ニ選擇手及乙種ニ選擇手若ハ假免狀ニ選擇手ノ海技免狀ヲ併有スル者ハ甲種ニ選擇手、乙種ニ選擇手若ハ丙種選擇手ノ新免狀ノ中ニ一種ヲ選擇シ交換ヲ申請スルヘシ

前項ノ場合ニ於テ外ニ一種ノ新免狀ヲ併有スル者ハ各別ニ其ノ交換ヲ申請スルコトヲ得

第三條 第二條第二項若ハ第三項ノ場合ニ於テ交換ヲ申請セザル舊免狀ハ第一條ノ申請書ニ添テ之ヲ返納スルヘシ

第四條 第一條ノ申請書ハ明治三十年七月一日ヨリ明治三十一年六月三十日迄ニ之ヲ提出スルヘシ

前項ノ期間内ニ申請書ヲ提出サザル者ハ其ノ受有スル舊免狀ヲ選信省ニ返納スル可シ

第五條 選信省ニ於テ第一條ノ申請書ヲ受ケ新免狀ヲ授與スルヘキモノト認ムルトキハ本人若ハ代人ニ新免狀ヲ交付シ期間ヲ指定シ舊免狀ヲ返納セシムルヘシ

第六條 第三條、第四條第二項若ハ第五條ニ違背シ舊免狀ヲ返納セザルトキハ選信省ハ該免狀ヲ無効トシ之ヲ官報ニ公告スルヘシ

(別記書式ハ之ヲ界ス)

積石數百五十以上ノ帆船ニ乘組ミタル者ニ海技免狀ヲ授與スルノ件

明治三十年五月選信省令第十號

積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミタル者ニ海技免狀ヲ授與スル件左ノ通定メ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第一條 船舶職員法第十四條ニ依リ選信大区ニ於テ相當海技免狀ヲ授與スルヘキ者ハ三役若ハ之ニ相當スル者ノ中船長ノ職ヲ執リタル者一人ニ限ル

三役ト稱スルハ船頭、親司及波主ヲ謂フ

第三章 海員懲戒

海員懲戒法 明治二十九年四月法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ海員懲戒法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員懲戒法

第一章 總則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員懲戒所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ損傷スルノ事ニ該當スルトキ

三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サザルトキ

五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サザルトキ

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 罰則相違其ノ他ノ先行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 罰金

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員懲戒所ノ之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員懲戒所ハ左ノ原因アル時ハ懲戒ヲ行ハス

一 總定裁決

二 時裁

第六條 時裁ニ該當スル者ハ懲戒ノ被テ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第七條 海員懲戒所ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員懲戒所ノ組織及管轄

第八條 海員懲戒所ハ地方海員懲戒所及高等海員懲戒所ノ二トス

第九條 海員懲戒所ハ船舶司檢所、官報、選信省及選信省ニ屬スル裁判所長、選信省、選信省及選信省ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員懲戒所ノ審判ハ審判官及審判員ヲ供セテ三人高等海員懲戒所ノ審判ハ審判官及審判員ヲ供セテ五人ノ例ニ依リ之ヲ行フ

第十一條 地方海員懲戒所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 懲戒ニ付スルヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定額トシテ管轄スル地方海員懲戒所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員懲戒所ノ管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員懲戒所ノ理事官又ハ被審判人ハ其ノ事件ノ他ノ地方海員懲戒所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十四條 地方海員懲戒所ノ審判官及審判員ハ其ノ事件ノ他ノ地方海員懲戒所ニ申請書ヲ提出スルヘシ

第十五條 高等海員懲戒所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上價額ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員懲戒所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

●土地區劃改良ニ係ル地價ノ件

明治三十年三月
法律第三十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ土地區劃改良ニ係ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム
政府ノ許可ヲ受ケ土地改良ノ爲市町村内ノ土地所有者ノ全部又ハ一部共同シテ其ノ區劃形狀ヲ變更スルトキハ其ノ變更ニ係ル土地ノ地價ハ現地價ノ合計額ヲ毎筆相當ニ配賦シ之ヲ定ム
同一土地所有者ニシテ地價數額ノ土地ノ區劃形狀ヲ變更スルトキ亦同シ

●土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲ス者出願並屆出手續ニ關スル件

明治三十年十一月
大藏省令第十九號

明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ股計書、現地圖及變更確定圖ヲ添付シ所轄稅務管理局長ニ願出ツヘシ但シ出願地中ニ官有地又ハ民有地第二種地ヲ包含シ之レカ異動ニ付官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ異動ニ付官廳ノ許可ヲ受ケ其指合書ヲ添付スヘシ
前項ニ依リ許可ヲ得タル事業竣功シタルトキハ地價ノ配賦ヲ受ケル爲メ各筆ノ區劃ヲ確定シ其假定期間ニ配賦シタル範圍ニ地價取額ヲ添付シ所轄稅務管理局長ニ届出ツヘシ

●土地分合筆取扱手續

明治二十年四月大藏省令第二十五號

土地分合筆取扱手續左ノ通リ心得ヘシ
土地分合筆取扱手續
第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其段

●名所古蹟等愛護スヘキノ件

明治五年四月大藏省令第三十三號

先般舊蹟等地下ノ發掘ニ付テハ於各地方古來ノ發掘ノ名所古蹟等ハ國家ノ寶物愛護スヘキノ旨ニ付有等ノ場所ハ切リニ保護伐木セザル等ノ注意可致事

●免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキ通知ノ件

明治三十二年四月大藏省令第三十二號

地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキハ其郡市町村大字、地番、段別、免租地ト爲スルノ名稱、目的地ノ地目、許可年月日等ヲ記載シ所轄稅務管理局長ニ通知スヘシ

第二章 地目編入

●市街郡村揭示場敷地ハ官有地第三種トス

明治八年五月
第七十三號

市街郡村ニ屬スル揭示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將來官有地ニ新設候分トモ官有地第三種ニ編入ヘク尤新設修繕等一切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事但民有地ニ建設候節ハ夫夫取調内務省へ可申出事

●御歴代御殯斂地等ハ官有地第三種トス

明治八年五月
內務省令第六十六號

御歴代天皇及皇后皇妃皇子皇女御殯斂地等御由緒列然タル場所ハ官有地第三種地番名區ノ部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密調査テ遂ク地形等數筆明詳記載圖面相副可出此旨相達候事

●官營ニ關スル倉庫及家屋等存置スル敷地ハ官有地第三種ニ据置ク

明治十年二月
內務省令第十六號

明治七年乙第二十八號並同年乙第五十八號ヲ以テ相達候官營ニ關スル倉庫及家屋等將來使用ノ用途ヲ以テ存置スルモノ又ハ拂下ク殘ノ分ト雖モ道ヲ使用候敷或ハ拂下ク候迄ハ其敷地ハ總テ官有地第三種ニ据置候儀ト相心得可申此旨相達候事但使用候節ハ其時時經何ノ上官有地第二種官有地ニ編入可申事

●鄉村社以下神社地民有地ニ編入方

明治八年八月
內務省令第一號

神社境内地名稱區別ノ儀ハ明治七年第百二十號及本年第百十四號布告ノ通官民有ノ區別相定候處民有地ノ分ハ處前地租相納來候處地租改正後ハ鄉村社以上ノ土地ニ限リ除稅相成候條右布告ノ通民有地第三種ニ編

入可致尤鄉村社以上ニアラザル民有ノ社地ハ民有地第一種(一人持ノ分)又ハ第二種(二人以上所有ノ分)ニ編入シ成規ノ通取計候儀ト相心得此旨相達候事

●地方廳ニ於テ賦金ヲ以テ設クル傳習所等ノ地所ハ官有地第四種トス

明治八年九月
內務省令第四十四號

各地方廳ニ於テ賦金ノ内ヲ以テ建設スル傳習所及工務學校及二病院等處所ノ地所ハ官有地第四種ニ編入候條賦金ニ關シタル分トモ有之則シ列候儀ト相心得此旨相達候事但民有地借受建設ノ分地租編入方ハ此條ニ非ス

第三章 官有地及水面

●官有地取扱規則

明治二十三年十一月勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム
官有地取扱規則
第一條 官有地ノ買賣讓與交換及貸付ハ內務大臣之ヲ處理ス
第二條 官有地ノ讓與スルモノハ官廳ノ指令ニ依リテ請求收入ノ權者及此納金訴訟ハ內務大臣地方官サレテ之ヲ取扱ヘシムヘシ
第三條 各官有地ヲ使用セントスルトキハ內務大臣ニ請求スヘシ
第四條 各官有地ノ使用地不用ニ轉シタルトキハ內務大臣ニ還付スヘシ
第五條 甲乙兩官有地ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移セントスルトキハ內務大臣其手續ヲ爲スヘシ
第六條 各官有地ノ所有ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキ

ハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
第七條 官有地ヲ開墾セシムルコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付
スヘシ但開墾成功ノ後業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントストキハ限メ
契約ニ依テ代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格相均シキ者ニアラサ
レハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受ケルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的
以外ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方官ハ其使用ヨリ生シタル損害
ヲ賠償セシムル返地ヲ命スルコトヲ得

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレ
ハ賣拂價與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラザル限リ
ハ公用ニ供シタル備有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サントシテ請フモノ
アルトキハ公衆ノ妨害トナラザル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂價與交換貸付及使用ハ本令ニ定ム
ル土地ノ規定ニ準ジスヘシ

第十四條 官有地ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂價與交換又
ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントストキハ地方官其評價ヲ爲サシム
ヘシ

第十五條 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用
セシムル場合ニ於テ亦前項ノ規定ニ準ジス

第十六條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セザルモノハ官有財産
管理規則ニ依ル

第十七條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定セザルモノ及官有森林原野ニ適用
ス

第十八條 官有地賣渡ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

官有地特別處分規則

明治二十三年七月勅令第三百三十五號

官有地特別處分規則
第一條 内務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ賣渡シ付セシメ或ハ賣渡シ
以テ賣渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲メ又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲メ官有地ヲ賣渡シ
及公共組合又ハ其他ノ團體者ニ官有地ヲ賣渡シ又ハ賣渡スコトヲ得

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タズ其賣渡價格二
百圓以内ノモノヲ賣渡シ又ハ其賣渡料一箇年五圓以内ニシテ賣渡期限
五箇年以内ノモノヲ賣渡スコトヲ得但賣入ニ基テ上アルトキハ此限ニア
ラス

三 礦山ニ於ケル礦物運搬道路、冷温、貯水池ニ於ケル渡梁等又ハ礦泉飲
地ノ如キ官有地ヲ賣渡シ又ハ其賣渡料一箇年五圓以内ニシテ賣渡期限
五箇年以内ノモノヲ賣渡スコトヲ得

四 官有地ヲ賣渡シ又ハ其賣渡料一箇年五圓以内ニシテ賣渡期限
五箇年以内ノモノヲ賣渡スコトヲ得

第五條 北海道官有未開ノ土地及公有森林原野マテ本令ニ適用ス

外國公使館敷地トシテ官有
地ヲ賣渡ス時ハ隨意契約ニ
依ルヲ得ルノ件

明治二十四年七月
勅令第七十五號

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ賣渡ス場合ニ於テハ數等ニ附テモ隨意ノ
約定ニ依ルコトヲ得

官有地特別處分規則ニ依リ
官有地賣渡及貸渡ニ係ル件

明治二十三年十月内務省勅令第三十七號

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸
渡サントストキハ其地ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ
評定セシム可シ其地價又ハ貸渡料ニ於テ亦同シ但最前賣渡ノ際際
地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス

前項賣渡貸渡ニシテ從來何ヲ要セシムルモノハ此限ニアラス
前項賣渡貸渡ニシテ從來何ヲ要セシムルモノハ此限ニアラス

官有地拂下並貸下取扱方ヲ
定ム

明治十八年六月
内務省勅令第二十一號

官有地拂下并ニ貸下之儀左ノ通規定メ明治九年(三月)内務省乙第三十四
號通令廢止ス此旨相違候事

一 凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未納中
ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳ヘ差出サシムヘシ若シ之ヲ差出サザルモ
ノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス

一 凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セザルモノハ其拂下ヲ取消
スヘシ此場合ニ於テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ノ現形ノ

直轄又ハ流域兩管轄以上ニ
跨ル河川ノ堤塘及國道使用
ニ關スル件

明治二十五年五月
勅令第三百五十四號

直轄又ハ流域兩管轄以上ニ
跨ル河川ノ堤塘及國道使用
ニ關スル件

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣
及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ
請ハシムヘシ

前項堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ニ關スル竹木其
他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラザルカ又ハ年賦月賦ヲ具ニスル堤塘道路敷設木敷用水路土
居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ關スルモノハ府縣廳
ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ歸付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ハ前項村ノ
管理ニ屬セシムヘシ

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道
路敷木敷ノ件

明治二十四年五月内務省勅令第四百六十二號

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣
及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ
請ハシムヘシ

前項堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ニ關スル竹木其
他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラザルカ又ハ年賦月賦ヲ具ニスル堤塘道路敷設木敷用水路土
居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ關スルモノハ府縣廳
ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ歸付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ハ前項村ノ
管理ニ屬セシムヘシ

直轄又ハ流域兩管轄以上ニ
跨ル河川ノ堤塘及國道使用
ニ關スル件

明治二十五年五月
勅令第三百五十四號

直轄又ハ流域兩管轄以上ニ
跨ル河川ノ堤塘及國道使用
ニ關スル件

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣
及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ
請ハシムヘシ

前項堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ニ關スル竹木其
他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定ラザルカ又ハ年賦月賦ヲ具ニスル堤塘道路敷設木敷用水路土
居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ關スルモノハ府縣廳
ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ歸付スヘシ

地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘道路敷設木敷費用及堤塘道路用水路土居敷等ハ前項村ノ
管理ニ屬セシムヘシ

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキ取扱方

明治二十四年五月勅令第四百六十三條

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ管轄權ノ認可ヲ受ケシムルハシ但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限水踏スルコトヲ得

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下禁止ノ件

明治十八年十二月内務省達甲第三十六號

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サズ從前既ニ貸下タルモノハ當期ノ限リ返地セシム可シ但物揚揚等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ノ貸下ヲ得ルコト雖トモ治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可カラザル事ト心得可シ此旨相達候事

官有ノ水面ヲ埋立テ開墾スル

ナサントスルモノ歟下年期附與方等 明治十七年四月 大藏省達第二十四號

官ニ屬スル公有水面ヲ埋立ノ出願免許方

明治二十三年十月 内務省達第三十六號

官有ノ水面ヲ埋立テ開墾スルモノハ官ニ屬スルモノナリ其埋立テ開墾シ得ルニ關入ノ處分ヲ經テ土地租稅例ニ定ムル所ノ開墾費下年期ノ附與後其ノ可相心得此旨相達候事

一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條 通船ノ便利用蒸水ノ疎通ヲ保護スル爲メ埋立ノ地位トシテ必要ナル場合ニ於テハ其地位ノ埋立ニ妨ケザルニ注意スルコト

第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第五條 大土工ニハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分テ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ得ルコトヲ得

第六條 公有水面ヲ埋立テ出願人ノ所有トナシタル後公署アルコトヲ得見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルカ又ハ收用スルニ非サレバ回復スルコトヲ得

第七條 蓄積ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムル外公有水面及何川敷地ヲ其儘使用セシムルコトヲ出願スルモノアルトキハ前條ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金を徴收スルコトヲ得

第八條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地貸貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ルコト

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 何ノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ

第十一條 凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用セシムルコトヲ

第四章 宅地組換

宅地組換法

明治三十三年三月 法律第六十二號

出願スル者アルトキハ其ニ内務大臣ニ出願シテ其旨令ヲ付テ可シ

宅地組換法ニ關スル件

明治三十二年六月勅令第二百三十四號

朕宅地組換ニ關スル件ヲ議可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル耕地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
耕地整理法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換若ハ分合、區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠ノ變更設置ヲ行フヲ指ス
第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ適用ス
第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニテアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス
前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ナキトキト雖整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地、宅地、名勝地、古蹟地、古墳地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地及軌道用地ハ此ノ限ニ在ラズ
第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニテアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス
第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニテアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス
第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所、土地審判所管轄又ハ市役所、町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿籍ノ閲覧又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得
第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルニ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ整理施行ノ爲溝渠、堤防又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又ハ破壊スルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ
第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承継ス
第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤防、道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス
整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤防、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス
第十一條 參加土地所有者ニハ從前ノ土地ノ地目、面積、方位等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、方位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ從前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金銭ヲ以テ之ヲ清算ス
數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テハ其ノ換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ
第十二條 整理地區ニ市町村以上ニシテ換地ノ場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ市町村以上ニシテ換地トシテ得ス
第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更區域ハ地目總換又ハ開墾ト稱ス
第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地額額ノ完了スル迄從前ノ地租、地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス
第十五條 整理施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム
第十六條 整理施行ヲ爲シタル土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス
第十七條 本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地區内ニ於テ第五條ノ土地ニアラサル土地ヲ所有スル者ヲ謂フ
第十八條 整理地區ノ屬スル市町村及其ノ管轄市町村ニ住所ヲ有セサル參加土地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理セシムルコトヲ得

參加土地所有者前項ノ代理人ヲ定ムルトキハ發起人又ハ整理委員ニ其ノ氏名住所ヲ通知スヘシ
第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スヘシ第三十條乃至第三十二條ノ命令アリタルトキ亦同シ
第二章 發起及監督
第二十條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト
三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト
前項ノ條件ヲ具備シタルトキハ發起人ハ整理施行ヲ發起スル旨ヲ市町村長ニ届出ヘシ
第二十一條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長ノ認可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ
第二十二條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ提出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ
第二十三條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理ニ因リテ得ヘキ利益
二 整理施行ノ方法及順序
三 整理地區及之ニ關接スル土地ノ現形圖
四 整理預定圖
五 工事ノ著手及完成ノ時期
六 整理費用及夫役ノ豫算
第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理總會ノ招集及會議ノ方法
二 整理委員ノ員數、職務及職務執行方法

三 處務ニ關スル規定
四 補償金算定ノ標準
五 發起及整理ノ費用及夫役ノ賦課徵收方法
六 整理中土地使用方法
七 換地割合及増歩地處分ノ方法
第二十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ選擧ナク創設總會ヲ組織シテ設計書及規約ノ確定ヲ求ムヘシ
第二十六條 創設總會ニ於テ設計書及規約ヲ確定シタルトキハ發起人ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ提出シ整理施行ノ認可ヲ申請スヘシ
第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ選擧ナク創設總會ヲ組織スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土地所有者整理委員ヲ互選ス
第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得但シ第三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ所有者ハ認可ノ公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニテアラサレハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス
第二十九條 農商務大臣ニ於テハ整理工事ニ著手スルコトヲ得
第三十條 農商務大臣ニ於テハ整理工事ニ著手スルコトヲ得
第三十一條 設計書ニ定ムル工事著手ノ期限後十二箇月以内ニ工事ニ著手セザルトキハ農商務大臣ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得
第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工事ノ停止ヲ命スルコトヲ得
第三章 總會
第三十三條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス
第三十四條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日前三各參加土地所有者ニ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スヘシ
 第三十四條 參加土地所有者ハ前二項ノ手續ニ反シテ爲シタル決議ニ對シ異議ヲ述
 フルコトヲ得但シ其ノ決議ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限
 ニ在ラス
 第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員ノヲ招
 集ス
 第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總
 面積ノ地價總額ノ五分ノ一以上ニ當ル參加土地所有者ハ會議ノ目的
 及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ
 得
 前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ
 招集スヘシ
 第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ議決權ヲ有ス
 前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付キ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコ
 トヲ妨グス但シ其ノ議決權ハ議決權總數ノ五分ノ一ヲ越スルコトヲ得
 ス
 第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地數人ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ
 共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムヘシ
 第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依ラスシテ設計者ヲ規約ヲ變更シ又
 ハ整理施行ヲ停止スルノ廢止モントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ヘシ
 前項ニ依リ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ停
 止中若ハ廢止後ノ處分方法ヲ決議スヘシ
 第四十條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農
 商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第四十二條 創業總會ノ決議第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ
 決議ヲ爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス
 第四十三條 整理委員
 第四十二條 整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スヘシ
 委員長ハ整理委員ヲ代表ス

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定ムタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所
 有者ヲ代表ス
 第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理施行ノ責ニ
 任ス
 第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及ヒ總會ノ決議ヲソナヘ置クヘ
 シ
 參加土地所有者及ヒ第三權利者ハ前項ノ書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ
 得
 第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル
 報告ヲ爲シムルコトヲ得
 第四十七條 整理工事完了シタルトキハ整理委員ハ第十一條ノ處分及增
 歩地ノ處分ニ關シ總會ノ決議ヲ經ヘシ
 第四十八條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ
 農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又
 ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲
 ル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金銭
 ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託ス
 ヘシ
 第五十條 整理施行ノ爲メ土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於
 テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決
 算書ヲ作リ整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ
 整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ邊海ナク地方長官ヲ
 經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ
 第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ會
 類ヲ市町村長ニ引渡スヘシ
 前項ノ書類ノ保存期間ハ農商務大臣ノ之ヲ定ム
 第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル
 第五十四條 農商務大臣必ズト認ムルトキハ整理委員ノ改選ヲ命スルコ
 トヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技能アル者ヲ協議
 員ト爲スコトヲ得
 協議員ハ總會ニ出席シテ意見ヲ述フレコトヲ得
 第五十六條 第三權利者ハ整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フレコトヲ得
 第五十七條 換地ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關
 スル物權又ハ債權ノ目的タルモノトス
 整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ボサス
 第五十八條 整理地區ニ編入シタル土地ニシテ先取特權、質權又ハ抵當
 權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ
 金銭ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ
 先取特權者、質權者又ハ抵當權者ハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル金
 錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第五十九條 貸借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲
 賃借者爲シタル目的ヲ述スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除
 ヲ爲スコトヲ得但シ第四十八條ノ認可ノ公告アリタル日ヨリ三十日ヲ
 經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ場合ニ於テ各當事者ハ相手方ニ對シテ解除ニ因リテ生シタル損害
 ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
 第六十條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲其
 ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ賃借人ニ對シテ借賃ノ減
 額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
 第六十一條 整理地區ニ編入シタル土地ニ地上權者又ハ永小作權者アル
 場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設定シタル目的ヲ述スルコト能ハ
 サルトキハ地上權者又ハ永小作權者ハ其ノ權利ヲ放棄スルコトヲ得
 民法第二百六十八條第一項但書ノ規定ハ地上權者前項ノ規定ニ依リテ
 其ノ權利ヲ放棄シタル場合ニ之ヲ適用セス
 第五十九條第一項但書ノ規定ハ地上權又ハ永小作權ノ擔保ニ之ヲ適用ス
 第六十二條 第六十條ノ規定ハ地上權及永小作權ニ之ヲ適用ス

第六十三條 整理地區ニ編入シタル土地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行
 ノ後仍其ノ土地ノ上ニ存ス
 地役權者ハ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セ
 サルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス
 整理施行ノ爲從前ノ同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權
 者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ要求スルコトヲ得
 第六十四條 費用及夫役ノ規約ノ定ムル所ニ依リ參加土地所有者ノ之ヲ負
 擔ス
 第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セザルトキハ市町村長ハ整理委
 員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス
 參加土地所有者夫役ヲ供給セザルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之
 ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前項ノ規定ニ依ル
 第七章 罰則
 第六十六條 發起人又ハ整理委員左ノ各該ニ該當スル場合ニ於テハ二箇
 以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 二 第二十八條第一項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著
 手シタルトキ
 三 第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ招集セザルトキ
 四 第三十九條及第四十條ノ手續ニ依ラスシテ整理施行ヲ停止シ又ハ
 廢止シタルトキ
 第六十七條 前條ニ定ムタル罰金ニ付テハ該當事者手續法第二百六條乃
 第五十八條ノ規定ヲ準用ス
 第六十八條 整理施行ノ爲設計書及規約又ハ設計書及規約ヲ修訂シ又ハ
 其ノ場合ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セザル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 第八章 附則
 第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ

二 第四條及第六條ニ依リ買拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ限定ノ目的ニ使用セザルトキ

三 第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ限定ノ目的ニ使用セザルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一 第三條ニ依リ貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二 第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ニ限定ノ目的ニ使用セシメタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ買拂、付與及貸付處分ヲ取消シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建築物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若シ其ノ期間内ニ除去セザルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限リ行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ擔保シ供シ又ハ賣買讓與スルコトヲ得

一 第四條及第七條ニ依リ有償貸付地

二 行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於テ有償貸付地

三 命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間満了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ經過シテ請求セザルトキハ其ノ權利ヲ喪失シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレバ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受ケルヲ得ス但相當ノ實力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此ノ法律ニ依リ賣拂付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナシタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレバ地租及地方稅ヲ課セス

此ノ法律ニ依リ土地ノ付與ヲ受ケタル者ニ限リ六箇月以内ニ其ノ登記ヲ請フトキ及土地標幟ニ登錄スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス(明治三十一年一月法律第一號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十二條 一月法律第一號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地標幟規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之ヲ適用ス但此ノ法律施行前貸付ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限リ五箇年以内貸付期間ヲ延期スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地標幟下規則及其ノ他此ノ法律ニ該當スル規程ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

北海道國有未開地處分法ニ依レル貸付地面積制限ノ件

明治三十年四月九日令第九十八號

北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ設ケルコトヲ得

一 開墾ニ供スル土地 百五十萬坪

二 牧畜ニ供スル土地 二百五十萬坪

三 植樹ニ供スル土地 二百萬坪

會社又ハ組合ニ對シテハ前項地積ノ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

第七章 土地收用

土地收用法 明治二十二年七月 法律第十九號

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ及ビ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建築物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一 國防其他兵事ニ要スル土地

二 政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標幟及測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋樑埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害預防施設所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並面ヲ製シ地方長官ニ提出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ附議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並面ヲ製シ内務大臣下附議シ之ヲ附議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其他ノ市町村長及所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ

生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ビ立會ハシ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫書並面ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其計畫書並面又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルコトハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ任地及敷用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其任地書並面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ提出シ之ヲ協議調ハシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ任地書及面積ヲ決定スルコトヲ得

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村長ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ提出シ土地收用審判委員會ノ議決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審判委員會ノ議決ヲ求ムヘシ

一 敷用又ハ使用スヘキ土地ノ面積

二 敷用又ハ使用スヘキ土地ノ附屬地目

三 建設費並土地及建築物ノ分割ノ案

四 土地標幟登記簿ニ依リ得ヘキ所有者及關係人ノ氏名

五 敷用又ハ使用ノ時期

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取タルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ閲覧ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其計畫ヲ通知セシムヘシ

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ審判ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業者ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其審判ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラルル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者(官ノ起業者ニ係ルトキハ其主任官吏)及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クとも開會十日以前前條ノ審判ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ開クヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統率シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト供ニ署名捺印スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審判委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當或協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

市町村制及土地收用法ニ關

スル訴訟取扱方 明治二十三年二月 法律第十號

市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

市町村制實施以前區區長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟同法實施後ニ係ル市町村長ニ對スル行政訴訟ハ從前區區長ニ對スル事件ニ準シテ始審規則所ニ於テ取扱フヘシ但明治二十二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス

土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

第八章 砂防

砂防法 明治三十年三月 法律第十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務及收入等

第四章 警察、監督及強制手段

第五章 罰則及訴訟

第六章 附則

砂防法 第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ指シ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ指ス

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行為ヲ禁止シテ制限スヘキ土地ハ主務大臣ノ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水砂防ノ爲一定ノ行為ヲ禁止シテ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行為ニ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行為ヲ行ハシメ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務及收入

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國家ヨリ補助スルコトヲ得

前項國家ノ補助額ハ工費總算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得

本條ノ補助金ハ總算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依リ府縣ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナスル砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國家ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額其ノ年度別及納付期限等ハ主務大臣ノ指定ス

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行為ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因ノ工事、作業其ノ他ノ行為ニ關シ費用ヲ負擔スルモノトシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命令ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ら執行シ

又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲メ寄付テナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助テナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ保ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲ニ必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但地方行政廳ハ其ノ收入ノ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ廢止ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可ヲ廢止スル事項ニ因リ生スル損害ヲ賠償スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リ生スヘキ損害ヲ賠償スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ權限其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政廳若ハ其ノ指定シタル地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 第二條ニ規定シタル事項此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル權限ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十六條 法律ニ規定シタル地方行政廳ノ權限ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十七條 法律ニ規定シタル地方行政廳ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除ク外行政廳ニ於テ罰鍰ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除ク外行政廳ニ於テ罰鍰ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル權限ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル砂防設備ノ職務ヲ有スル官吏若ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職務ヲ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ職務ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五節 罰則

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣

若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ判決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政廳ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ民事訴訟ニ關シテ行政廳ノ判決處分ニ依リ權利ヲ喪失セシムルトキハ私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ判決ヲ履行行政廳提起スルコトヲ得但主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル者若ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リ生スヘキ損害ヲ賠償スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲナシタルトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本條ノ規程ニ依リ之ヲ執行スルコトヲ得

行政廳提起スル民事訴訟ニ對シ民事訴訟法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六節 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治二十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除ク外此ノ法律ノ規程ニ依ル

砂防法施行規程 明治三十年十月 勅令第三百八十二號

砂防法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス
第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行為ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣知事ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ
前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命ジテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナシタル場合ニ於テハ亦前二項ノ例ニ依ル
第五條 內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督官長之ヲ行フ
第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナシタルトキハ少クとも五日以前ニ其ノ供給セシムルハキ物件ノ種類、數量及積價金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

砂防ニ關スル行政監督ノ件

砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 砂防法若シテ之ニ基キテ設ケタル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命令又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス
第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ利害關係小ニシテ內務大臣ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ

認可ヲ經ルヲ要セサル砂防工事ニ關スル件

砂防法第三條ニ依リ准用
二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行為
三 砂防法第七條及第八條ニ依リ府縣知事ノ處分
四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計費及其ノ工費豫算
五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依リ費用ノ負擔方法
六 砂防法第二十一條ニ依リ府縣知事ノ不均一ノ賦課
七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止
第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 砂防法第二十一條ニ依リ下級公共團體ノ不均一ノ賦課
二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ廢棄物ノ除却
三 砂防法第三十條ニ依リ下級行政廳ノ處分
第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利益ニ直接ノ關係アルコト
二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラズシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシテ且其ノ補助ヲ受ケヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラズシテ補助ヲナシ得ヘキコト

第一篇 森林及原野

第一章 森林法

森林法 明治三十年四月 法律第四十六號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一章 總則
第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ幹材林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ指ス
第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 森林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保護ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ森林ノ方法ヲ指定スヘシ
私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ森林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命ズルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ命ズル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徴收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂瀧崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 頑硬、堅石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ滲漏ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 社寺、名所又ハ古跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ノ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣知事ニ於テ之ヲ直接ノ利害ヲ有スル者ニ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ合議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルコトハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者ハ大林區署土木監督署ニ其旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ告示スヘシ

第十三條 保安林ノ編入ノ爲メ地方森林會ノ合議ニ付セムトスル森林ノ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土砂瀧崩ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者ハ其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘテ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通告スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者ハ其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示ノ日ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テ之ヲ背キ伐木及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非ズレバ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採取又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ森林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ利用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾セムル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ命令セムル事項ヲ實施セザル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徴收スルコトヲ得

コトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲メ損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限リ補償ヲ求ムルコトヲ得但シ雜料林、固有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

損害ノ鑑定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサレトキハ地方森林會ヲシテ解決セシムヘシ若シ之ニ服セザル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木遺材又ハ木材賣買遺材トスル者ハ林産物ニ使用スル肥料又ハ印章ヲ所持警察署ニ届出クヘシ

第三十二條 伐木遺材ヲ棄トスル者ノ手帳簿器具等ニ對シ森林官更又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官更又ハ警察官吏ノ許可ヲ得ズシテ森林内ニ火入チ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接近スル原野ニ火入チ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ遊ニ焚火チ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ發見シタル者ハ重罪ニ處スルコトヲ得

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主產物ヲ採取セタル者ハ森林保護トシ二倍以上罰金ニ處スルコトヲ得又ハ十一月以上二年以下ノ懲役ニ處スルコトヲ得

第三十八條 森林保護ニシテ左ニ記載セタル罪ヲ犯シタル者ハ二年以上罰金ニ處スルコトヲ得又ハ六月以上二年以下ノ懲役ニ處スルコトヲ得

- 一 根株ヲ毀壞若ハ根莖ヲ取除ク
- 二 雜物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、樟油、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタル者
- 三 雜物ヲ燃料トシテ雜物ノ採取精製若ハ石炭、燐灰石、其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタル者
- 四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ船舶ヲ使用シタル者
- 五 保安林ニ於テ之ヲ背キ伐木シタル者
- 六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタル者
- 七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ノ組織シテ其ノ罪ヲ犯シタル者
- 八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタル者
- 九 森林警察官若ハ警察署長ノ命令ニ背キシタル者

第三十九條 森林警察官若ハ警察署長ノ命令ニ背キシタル者ハ懲役若ハ罰金ニ處スルコトヲ得

第四十條 他人ノ所有ニ關スル森林ノ樹木ヲ傷害セタル者ハ二年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ懲役ニ處シ且主產物ヲ燒燬シタル者ハ懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ保護トシタル者ハ二月以上二年以下ノ懲役ニ處ス

第四十二條 盜ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲メケル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ標識ヲ毀シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得シテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ懲禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十圓以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用井ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切草畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林燒燬ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、樟腦其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅總局分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ獨立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ノ必要ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他法令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ於テハ保安林ニ關スル規程ニ依リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月ヨリ施行ス

● 森林法施行細則 明治三十年十二月 農商務省令第十九號

森林法施行細則左ノ通相定ム

森林法施行細則

第一條 府縣知事ハ森林法第三條乃至第五條第七條第二十一條乃至第二十四條及第五十五條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調査及圖面ヲ添付スヘシ

保安林編入調査ノ格式ハ府縣知事之ヲ定ム

第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除少要スル理由ヲ記載スヘシ但シ保安林解除ノ解除ニ係ル場合ハ保安林ノ全部及解除スヘキ部分ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ圖面ヲ附記スヘシ

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若シハ保安林編入解除ニ就キ申請書又ハ通知書ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ符中書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣

● 保安林ニ關スル規程ニ限リ

● 森林法ヲ施行スヘキ島嶼指定ノ件

保安林ニ關スル規程ニ依リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼指定ノ件ヲ總司シ之ニテ公布セシム

森林法第五十七條ニ依リ保安林ニ關スル規程ニ依リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼左ノ通相定ム

東京府下
小笠原島 伊豆七島
長崎縣下
對馬島
島根縣下
鹿兒島縣下
大隅國大島郡
大島 德之島 喜界島 沖永良部島 與論島
鹿兒島國川邊郡
薩摩國川邊郡
薩摩島 鹿島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 惡石島
鹿島ノ瀨島 實島

● 北海道保安林編入解除手續 明治三十年十二月令第四百五十五號

北海道保安林編入解除手續ノ件ヲ總司シ之ニテ公布セシム

第一條 北海道ニ於ケル保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ本令ノ定ムル所ニ依リ

第二條 保安林ノ編入解除ニ關シテ直接ノ利害ヲ有スル者ハ其ノ編入解

二提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知シ府縣知事ハ五日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且其旨ヲ森林所有者ニ通知スヘシ

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上ケルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ受テ森林所有者ト協議シテ其買上價格ヲ定ムヘシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其買上價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通知スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若シハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ニ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 森林法第三十一條ニ依リ府縣知事ハ其記號ノ形狀或ニ印影ヲ添付シタル書面ヲ作樂地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林区署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲サントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若シハ警察官ニ申出許可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前後ノ火入許可證ヲ現物ニ携帶スヘシ

第十三條 森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日前ニ火入箇所隣接地ノ所有者若シハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延燒ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警察官ハ其火入ヲ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若シハ相當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

(森林火入許可證形狀之)

除テ道廳長官ニ申請スルコトヲ得
 第三條 前條ノ申請ハ其ノ所管道廳支廳長ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ
 道廳支廳長ハ前項ノ申請ニ對シ自己ノ意見ヲ附シテ之ヲ道廳長官ニ具申スヘシ
 第四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ道廳支廳長ヲ經テ意見書ヲ道廳長官ニ提出スルコトヲ得
 第五條 保安林ノ編入解除ハ道廳長官之ヲ決定ス
 道廳長官ハ第二條ノ申請ナキトキト雖必要ト認ムルトキハ保安林ノ編入解除ヲ爲スコトヲ得
 第六條 保安林ノ編入解除ハ道廳公報ヲ以テ告示シ且其ノ所有者ニ通知スヘシ
 第七條 本令ノ施行ニ關スル細則ハ道廳令ヲ以テ之ヲ定ム
 附則
 第八條 本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續

第一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ必要ト認ムルトキハ編入解除ニ關スル調査ヲ圖製シ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
 第二條 保安林ノ編入解除ハ直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
 府縣知事ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ關係者ヲ添除ニ關スル手續
 沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續
 明治三十年十二月
 勅令第四百四十五號

山野火入取締規則標準ヲ定

明治二十一年三月
 農商務省令第五號
 各地方ニ於テ火入ト稱ヘ山野ノ枯草ヲ燒キ其火延燒シテ農林官廳ニ害ヲ及ボスコトヲ防ジテ山野ノ地方ニ左ノ標準ニ據リて取締ルル事ヲ定メ山野火入取締規則ヲ設ケルヘシ

山林ノ愛護ニ關スル件

明治三十一年二月内務省令第四十九號
 今般太政官ヨリ農商務省ニ有之山林ノ從ハ水陸生産ノ成スル所因家産濟上最要ニシテヘカラサル所ニシテ一ヨリ其割テ製シテ薪炭ノ序ヲ失ハ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全兩植産ノ遺ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材料ヲ愛惜シ農伐野燒ノ禁ヲ防ジテ勿論漸次開墾ニ於テ樹木植栽等ニ著手シ山林保護ノ道相立候標此際一層注意シ管下人民ハ應ヨリ相繼シ山林ノ荒蕪ヲ挽回候標取計可申此旨相達候事

山野火入取締規則

第一條 山野火入ヲサント欲スル者アルトキハ地方官ニ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受ケシムヘシ
 一 火入期日
 一 箇所限地目段別及字番號
 一 四至境界ヲ見ルヘシ實地略圖
 第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者(官林ナルトキハ大小林區署若クハ大林區署派出所若クハ官林巡邏)及警察署ヘ少ナクトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告セシムヘシ
 第三條 防火線ハ區三間以上トス部々草ヲ刈採リ落葉草葉ヲ除去シ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケナサシムヘシ但道路踏谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス
 第四條 日出前日没後及風勢強ナラザルトキハ火入ニ着手セシムヘカラス
 第五條 火入ノ期日同ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス
 第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ區署長(警察官、大小林區署員、大林區署派出所員、官林巡邏)ニ於テ防火ノ準備不充分ト認ムルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ノ延燒ノ虞アリト思量スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

民有ノ山野ニ入火シ又ハ官林下草刈取ノ者取締方

明治十一年二月内務省令第七號
 官林保護ノ儀ニ付テハ兼テ邊境候次第モ有之候處人民所有山ニ火入シテ官林ヲ延燒シ官林下草等刈取ノ許可ナクシテ明ニ官林ニ立入候者等ノ有候テハ官林保護不相立候ニ付左ノ通可取計此旨相達候事(十四年農商務)

第二章 國有林野

國有林野法

明治三十三年三月
 法律第八十五號
 帝國國會ノ議案ヲ經テ國有林野法ヲ設ケシテ之ヲ公布セシム
 國有林野法
 第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ
 第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ在ル必要アルモノハ實權讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第三條 前條ノ國有林野ト雖モ他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之ヲ組織ヲ爲スコトヲ得
 組織ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス
 社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ定メテ社寺境域内ニ編入スルコトヲ得
 第四條 國有林野ノ境界決定ハ當該官廳ニ於テ限定期日ヲ定メ關係地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ
 關係地所有者限定期日ニ於テ立會ハサルトアルモ當該官廳ハ境界決定ヲ施行スルコトヲ得
 第五條 國有林野ノ境界決定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ關係地所有者ニ通告スヘシ

何年何月補付 仕立主何郡何村 何之 誰

第十條 仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルトキハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願出シテ地方官ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルトキハ證券ニ裏書シテ下流シ道ヲ内務省地理局へ届出シヘン但本文ノ樹木ヲ買入付入セント欲スルトキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準據シ所ノ長ノ檢認ヲ受ケヘン

第十一條 借地反別ノ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植栽ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ追次其植栽ヲ許スヘン然レトモ三ヶ年ヲ過キ猶其植栽未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘン

第十二條 一時植立並追次植栽ニ拘ラス貸地植立費ノ上ハ其官地方官ニ届出シテ檢査ヲ受ヘン (離形ハ總ノ要ス)

部分木仕付條例心得ノ件

明治三十一年六月内務省布達第十四號

本年(三月)當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達區域處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件相心得不都合ノ無之ヲ認可致此旨布達候事 (別紙)

- 一 部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可後第十條ノ手續ヲナサス
- 一 竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ買入買入ヲ爲スモノ
- 一 同斷許可後ノ日ヨリ滿一年ヲ過キテ植栽若手セサルモノ但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト既解スルコトナシ
- 一 同斷一ヶ年以内ト雖モ主顧ノ樹木ヲ植栽セシ他事ニ使用セルモノ
- 一 植栽ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置乙ノ地ニ苗床ヲ設ケ實積苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキトシ著明ナルトキト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三年ニ至リ移甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地官地上ニ附著セルモノヲ取上ケ最初買渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徴收シ其者等(第一條ノ所爲ニ依リ其地ヲ借リ又ハ買入買入ニ取リテタル者モ同シ)ハ再此條例ニ由リ官地ヲ買渡スナラザス

第四章 社寺上地官林ノ委託

社寺上地官林委託規則

明治二十四年四月農商省令第五號

社寺上地官林委託規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 社寺ニ於テ土地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ其ノ創立ノ年代山積資格出願地ノ字名區域劃分面積積算木數(竹ハ三寸周以上ノ數量)維持方法氏子檀徒住持ノ數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ四圍ヲ添テ神官住職及氏子檀徒總代(氏子檀徒ヲキリハ付植栽代)三名以上連署シ申附シ官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尙ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘン

第三條 社寺ハ委託請地人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限內ニ採掘モノヲ除クノ外委託官林內ノ副產物即チ樹實樹皮樹液樹下草等(別紙)ヲ無代價ニテ取得スルコトヲ得

第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林內ニ遊道ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽種シ若シハ林地ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ據リ竹木ノ栽種ヲ爲シタルトキハ其ノ栽種地ノ委託ハ前條ノ年度ヨリ再算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ款ヲ充テ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂防止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽種ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ此ノ伐採ニ係ル竹木相當價格ノ二分ノ二ヲ所轄大林區署長ニ納付スヘン

第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林內在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂防止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特許所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

前項ニ據リ買渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若シハ讓與シタルトキハ其ノ買渡代價ノ二倍ヲ徴收スヘン

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責任ヲ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スルコトヲ得

前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘン

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林內ニ竹木栽種ノ許可ヲ受ケタル日滿十日以内ニ其ノ栽種地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽種地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林內ノ栽種地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘン

第九條 社寺ニ於テ委託官林內ノ竹木ヲ伐採シ副產物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘン

第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入れヲサントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受ケヘン

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官住職及ヒ氏子檀徒若シハ信徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條 研究ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受ケルニアラサレハ之ヲ採探スルコトヲ得ズ但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノノ外採探スルコトヲ得ズ

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ並ニ所轄大林區署長ニ届出シ

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノ委託出願方

明治二十四年五月官省令第九號

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノハ該社寺ノ出願ニ依リ本年四月農商省令第五號社寺上地官林委託規則ニ適用シ之ヲ委託スルコトアルヘキニ付委託ヲ請ケントスル社寺ハ左ノ區別ニ從ヒ出願スヘン

- 一 御料地又ハ事務所ノ所管ニ關スル御料地ニ對シテハ該地官林

又ハ事務所長
一 地方廳ニ委託シタル御料地ニ對シテハ該地方長官
以上列記外ノ御料地ニ對シテハ總テ御料局長

第五章 土地森林及原野ノ 下戻

●國有土地森林原野下戻法

明治三十二年四月法律第九十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ國有土地森林原野下戻法ヲ制定シテ茲ニ之ヲ公布ス

國有土地森林原野下戻法

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ノ其ノ處分ノ當時ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノ又ハ裁列所ノ判決ヲ受ケタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地處分ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添付スルコトヲ要ス

一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下付買價額買入書入附等ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

五 私賣ヲ以テ木竹ヲ捨付ケタル證アルモノ

●官有森林原野ノ民有ニ引戻 ヲ請フノ手續

明治三十年八月
農商務省令第三十三號

官有森林原野ヲ民有ニ引戻スル手續ヲモトメ左ノ手續ニ據ル可ク

第一條 官有森林原野ニ編入セラレタルモノノ其ノ處分ノ當時ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地處分ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添付スルコトヲ要ス

一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下付買價額買入書入附等ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

五 私賣ヲ以テ木竹ヲ捨付ケタル證アルモノ

第四條 申請ニ對スル指令ハ府縣廳又ハ大林區署ヲ經テ申請人ニ交付ス

第五條 本令發布以前府縣廳へ出願セシメ分ハ本令ニ依リ提出シタル申請ト看做ス

(別記圖形等之)

第六章 官有森林原野及產物特別處分規則

●官有森林原野及產物特別處分規則

明治二十三年四月
勅令第六十九號

朕官有森林原野及產物特別處分規則ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其產物ヲ競争ニ付テス應ニ契約ヲ以テ賣渡又ハ賣却スルコトヲ得

一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ賣渡シ若クハ賣却シ及
其建築材料ヲ賣渡スルモノ

二 四圍若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ賣渡シ若クハ賣却スルモノ

三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ賣渡シ若クハ建築材料又ハ鑛炭材ヲ賣渡ス
ルモノ

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ賣渡スルモノ

五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡スルモノ

六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草藜小柴若クハ土石ヲ
賣渡スルモノ

七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フモノ

八 社寺建築修繕ノ爲メ該社寺上地ノ材木若クハ土石ヲ賣渡スルモノ

九 地押調査ニ依リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡スルモノ

十 建築其他ノ用ニ供スル土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡スルモノ

十一 季節アル生産物ヲ賣拂フモノ

十二 開墾牧畜者ヲ植樹ノ爲メ賣渡シタル森林原野ノ區域内ニアル
產物ヲ其借受人ニ賣拂フモノ

十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ賣渡シ若クハ賣却ス
ルモノ

十四 部分方法ニ由リ林產物製造ノ爲メ其原料ヲ採入人ニ賣渡スル
モノ

十五 見積地料一箇年金二百圓ニ超ヘタル森林原野ヲ賣渡スルモノ

十六 十町歩以下ニシテ見積代價金百圓ニ超ヘタル森林原野ノ民有
地又ハ道路河川ニ介在セタルモノヲ接續地ノ所有者ハ賣拂フモノ

十七 見積代價金二百圓ニ超ヘタル主產物ヲ賣拂フモノ(二十四年
勅令第二百二號ヲ以テ改正)

十八 河海沼湖瀝池ノ埋立ニ要スル土立ヲ賣渡スルモノ(二十三年勅令
第二百八十二號ヲ以テ追加)

第十九 農商務大臣ハ牧畜ノ爲メ森林原野ノ區域内ニアル
札ヲ取消シタル場合ニ於テ賣渡三十日以内ニ賣渡額額額額額額額額
代價ヲ以テ同一物件ノ拂下シ置ム者アルトキハ開墾地ノ賣拂フコトヲ
得

第三條 農商務大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺上地官林ノ全部又ハ一部ヲ
該社寺ニ委託シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林地ノ產物ヲ下附スルコ
トヲ得(二十三年勅令第二百八十二號ヲ以テ追加)

第四條 農商務大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有森林原野ニ
シテ存置ヲ要セスルモノノ其社寺又ハ其緣故アル者ニ限リ開
墾ノ契約ヲ以テ賣渡スルコトヲ得(二十四年勅令第六十六號ヲ以テ追加)

第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ開墾者付
元人民ニ森林ノ產物ヲ無料ニ採取セシムルコトヲ得(二十四年第
二百二號ヲ以テ追加)

第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取セタル產物ノ全部又ハ一部ヲ
手入料トシテ下付スルコトヲ得(同上)

隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ス時ニ準據スヘキ條項

明治二十三年七月農商務省訓令第三十四號
明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條第
二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ス時ニ準據スヘキ條項ニ遵據スヘシ
第一條 原野賣渡願書ハ地方官官署ニ於テ提出シ且該願書ニ添付シテ所轄官署ニ
提出シタル願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字地名地
目段別業地相當代價ヲ記載シ且該賣渡方法書收買費及賣渡金ヲ添付
セシムルヲ要ス
第二條 前條ニ依リ願書ヲ提出シタル者アルトキハ地方官官署ハ其願書ニ登
見テ付シ事案方法書收買費及賣渡金ヲ添付シ且該願書ニ添付シタル願書ニ
シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩以下ナルトキハ之ヲ專決スルコトヲ
得
第三條 原野賣渡願書ハ該賣渡願書ニ添付シタル願書ニシテ賣出サシメ若シ二人以
上ノ出願ニ付テ出願シタルトキハ地方官官署ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調
ヘ意見ヲ付シ本大臣ノ指揮ヲ請フ可シ
第四條 原野ノ賣渡ハ該賣渡願書ノ方法ニ由リ代價ヲ納付シタル後ニアラ
ザレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトニ其代價ハ事案成功
ノ後拂受人又ハ其保證人ナシテ所轄官署ニ納付セシムヘシ但事案成功
ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ
納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトヲ得
第五條 賣渡ノ願書ヲ提出シタル後ハ該賣渡願書ニ添付シタル願書ニ
據リ又ハ事案ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許スルコトアルヘ
シ
第六條 事案ノ成功期限ハ十五年以内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他
ノ事由ニ由リ事案ノ中止ニ依リ中途拂受人ニ於テ事案ノ方法又ハ成功期
限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地方官官署ハ其拂受人ナシテ更ニ事案
ノ方法書及收買費書ヲ添付シ且該願書ヲ提出シ本大臣ノ指揮ヲ請フ可シ
第七條 賣渡ノ願書ヲ提出シタル土地ノ使用料等ハ該賣渡願書ニ添付セシムル

ノトス
第八條 左ニ記載スル條項ハ拂受人ナシテ之ヲ遵守セシムヘシ
一 賣渡願書ニ係ル土地ハ所轄官署ノ許可ヲ得ズシテ他人ニ賣渡
スルコトヲ得ズ
二 賣渡願書ニ添付スル願書及土地目録ハ其賣渡願書ニ添付スル
人其賣出ニ任スヘキコト
三 拂受人ハ賣渡願書ヲ提出シ且該願書ニ添付シタル願書ニ
事案ニ着手スヘキコト
四 拂受人ハ前年ニ於テ事案ノ功程ヲ翌年一月中ニ所轄官署ニ報告
スヘキコト
五 拂受人ニ於テ事案ニ着手シ且事案ノ成功セシムルトキハ十日以内
ニ所轄官署ニ報告ス可キコト
六 賣渡願書ニ添付シタル土地目録ニ在ル木竹其他指定セタル物件ハ拂受人ノ
契約ヲナスニアラザレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取セザルコトヲ得
七 地方官官署ニ於テ官署ヲ選定シ事案ノ進否及方法ヲ検査セシムルト
キハ之ヲ拒ムルコトヲ得ズ
八 拂受人ハ賣渡願書ヲ提出シ且該願書ニ添付シタル願書ニ
キコト
九 事案ハ必ズ事案ノ方法書ニ依リテ之ヲ爲ス可キコト
第九條 拂受人ハ第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セシムルコトニ其義務ニ
業成功セシムルコトハ其義務ニ對シテ其義務ニ對シテ其義務ニ對シテ其義務
ノ履行ニ對シテ其義務ニ對シテ其義務ニ對シテ其義務ニ對シテ其義務ニ對シテ
前項ノ場合ニ於テ該土地ニ係ル所有權ハ官署ニ於テ之ヲ賣出シタル後
地ニ在ル物件等ハ相當ノ期ヲ定メ之ヲ取調ハシムルコトヲ得
第十條 從前隨意契約ノ爲メ原野賣渡願書ヲ提出シタル者ハ其賣渡願書ニ
契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニ據リ取扱フ可シ

官有原野ヲ開墾牧畜ノ爲メ

豫約賣渡手續ノ準據方

明治三十年十二月農商務省訓令第三十六號
官有原野ヲ開墾牧畜ノ爲メ豫約賣渡ハ當分ノ内明治二十三年(七月)本省
第三十四號ヲ以テ府縣ニ訓令シタル條項ニ準シ取扱フヘシ

帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則

明治三十一年五月勅令第九十二號
朕帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布
セシム
帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則
第一條 文部大臣ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ帝國大學資金所屬森
林原野ノ賣渡及其ノ產物ノ賣却ヲ爲スコトヲ得
一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ賣渡シ若ハ建築材料ヲ
賣渡スルトキ
二 見積借地料一箇年二百圓ヲ超エサル森林原野ヲ賣渡スルトキ
三 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若ハ土石ヲ賣
渡スルトキ
四 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ賣渡スルトキ
五 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
六 部分木ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ
第二條 文部大臣ハ該準入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セズ該準入札
ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代
價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ該準之ヲ賣拂フコトヲ得

第十四類 社 寺

第一篇 神社佛堂及神官僧侶

ニ關スル諸則

●社寺取扱概則

明治十一年九月 内務省乙達第五十七號

社寺取扱之儀左之通概則相定候條此旨相達候事

社寺取扱概則

第一條 社寺ノ創設ハ、民有地ニ建設スルモノ、神官住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ)連署長長奥書ヲ以テ願出永續財産ノ目途且其地所建社寺ノ體(社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏)ヲ具フル者ニ限リ允許スルヲ得ヘシ再興復舊等總テ之ニ準ス(明治十三年乙第二十八號達ヲ以テ「社寺ノ體」ノ下註文十二字ヲ加フ)但別紙書式ニ依ヒ其都度當省ヘ届出ツヘシ

第二條 同上移轉廢合或社寺改稱ハ、其條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ、開屆毎月未取當省ヘ届出ヘシ尤廢合社寺或建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通但式内神社改文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ前以テ當省社寺局ヘ照會ヲ經ヘシ

第三條 邸内社堂並掛所遺掛引直及寺讀公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出永續目途或建物ノ體(堂宇ハ方六尺以上)ヲ具フルモノニ限リ、開屆別紙書式ニ依ヒ毎月未取當省ヘ可届出(同上「願出」ノ下註文共二十字ヲ加フ)

第四條 前條條ノ外社寺例格ノ改定或社寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都度當省ヘ届出ヘシ (別紙書之)

●神社改正規則

明治六年十二月 布告第四百二十一號

去ル明治四年辛未五月中相達候神社改正規則今般左之通更定候條此旨相

心得神社官ハ布告スヘキ事

神社改正規則

- 第一 (明治二十年開令第四號ニ依リ本條消滅)
- 第二 (明治二十年内務省令第十八號ニ依リ本條消滅)
- 第三 (同上「社」ノ寂察及土地政ハ人民ニ係ル事件ハ其地方官ノ權限ヲ受クルコト勿論ナリ)
- 第四 (明治七年第十二號布告ヲ以テ本條ヲ改正シカカ明治二十年内務省令第十八號ニ依リ消滅ス)
- 第五 府縣社以下ハ地方官ノ管轄ニ屬スト雖其社格等定メ或ハ之ヲ増減スル等郡ヲ同省ヘ上申シテ其處分ヲ請フヘシ其他ノ事件ト雖モ四時議決モノ亦之ニ同シ
- 第六 (同上法令ニ依リ消滅ス)

●官國幣社保存費ニ關スル件

明治三十年三月令第五十四號

- 第一條 官國幣社保存費ニ關スル件ヲ總可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第二條 官國幣社保存費中各社共通ノ費込ニ充テル金額ハ内務大臣ニ於テ内務省社寺局長ヲシテ之ヲ保管セシメ其ノ收支ヲ取算ハシムルコトヲ得
- 第三條 前條ノ金額ハ預金トシテ金庫ニ貯託スヘシ
- 第四條 附則
- 第五條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●官國幣社神官ヲ廢シ更ニ神職ヲ置ク

明治二十年三月 關令第四號

官國幣社ノ神官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司 宮主

欠

MISSING

下ノ罰金ニ處ス
第五條 本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

町村鎮座氏神氏子去就禁否

處分方 明治十五年五月
內務省達乙第二十八號

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信
否ニ任セ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已協合有
之申社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協同ノ上
雙方運署爲届出明細引直シノ儀當省ヘ可申出此旨相違候事但雙方協同
不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

第二篇 社寺財産ニ關スル諸則

神社佛寺古來所傳ノ什物並

寄附ノ諸器祠堂金等ノ類處

分方

明治六年七月
布告第二百四十九號

神社佛寺古來所傳ノ什物並寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶
ハ勿論氏子檀家ノモノトモ自儘ニ處分可致筋無之候若得不已儀有之
候ハハ委拜具狀ヲ以テ教部省ヘ可申立候此旨布告候事

社寺什物取締方

明治十二年五月
內務省達第二十二號

社寺寶物古文書等之儀ハ各管廳ニ於テ取締相立厚ク保護可致答ニ有之候
テハ各管内府縣社以下神社寺院共所藏ノ寶物古文書等別紙書式
ニ照準取調目錄帳爲差出調査之上本年十月限取調當省ヘ可届出此旨相違
候事
(別紙略之)

寺院什物帳調製方

明治六年三月
布告第八十九號

今般僧侶身代限規則制定候ニ付テハ寺院所有ノ田圃建屋什物什器種家
具等附ノ分又ハ法用ニ必用ナル分並ニ古來傳承ノ中寶等ノ部分別然相
立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ野附帳什物帳相調製シ可申候
一 野附帳ニハ何年何月何日何種野附ノ田圃及別動什物等數額種別ノ實分
ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ
一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ野附ノ區別ヲ記載スヘシ
一 右二帳ニニテ相調製シ檢査法類共剛人以上並ニ其地ノ月長檢査ノ
上各姓名ヲ署シ之レニ漏印ノ一部ハ月長役場ニ漏シ一部ハ其寺院ニ
漏シ置クヘシ

府縣社以下神社什物取締方

明治十年七月內務省布告第十三號

府縣社以下社寺什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布告候事
一 什物ハ各管廳ヲ分テ其品類以數額詳細帳簿ニ記載シ檢査ノ野附ニ
保ルモノハ其年月姓名等ヲ記載スヘシ

第一類 寶物古文書

第二類 祭具什器並持漆之田畝附屬之建屋等

右廢澤二部ヲヲ編製神官並氏子(氏子無之向ハ其地ノ僧職人總代二名以
上尙該地之區月長連署調印一部ハ區月長役所ヘ一部ハ其社ヘ以テ漏ヘシ

社寺ニ於テハ穀借入方

明治十年五月布告第四十三號

神社寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ル
ル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除ク)外建屋什器ノ寶物古文書類ヲ除クノ
外)等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ
要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ
右ノ抵當アルモ其數ナキモノト爲スヘシ

社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方

明治十二年七月内務省通乙第三十九號
本年當省乙第三十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之概制送候ニ就テ...

寺院附屬地所建物什物ノ抵當賣買其他財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス

明治十七年十月内務省通乙第三十七號
一 神佛敎務所(敎院敎會所法務所社務所ノ類)敎所(敎院)ニ行...

社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財產等取調方

明治十四年七月
各管内社寺總代人ノ職(氏子代表ナキモノハ信託)相應ノ財產有シ...

社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ禁ス

明治六年七月
社寺境内ノ樹木ハ但令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共毀ニ伐木不相成候...

社寺伐木取扱概則

明治十五年八月
社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年第二十五號公布並八年第七號公...

社寺境内伐木取扱概則
第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木(口通寸間二拘ハラズ)...

古社寺保存法
第一條 古社寺ニシテ其ノ建築物及寶物類ヲ維持修理スルコト...

社寺總代人ノ職
第一條 社寺總代人ノ職(氏子代表ナキモノハ信託)相應ノ財產...

社寺境内ノ樹木
第一條 社寺境内ノ樹木ハ但令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共...

社寺伐木取扱概則
第一條 社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年第二十五號公布...

社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財產等取調方
第一條 各管内社寺總代人ノ職(氏子代表ナキモノハ信託)相應...

社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ禁ス
第一條 社寺境内ノ樹木ハ但令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共...

社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財產等取調方
第一條 各管内社寺總代人ノ職(氏子代表ナキモノハ信託)相應...

編ノ規定ヲ準用ス但此場合ニ於テ檢査ノ命ハ執行文ノ效力ヲ有ス
第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意ニ由リ國寶ヲ
亡失若ハ毀損シタルトキハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其
ノ損害ヲ賠償スルモノトス但其ノ評價額ニ關シテハ裁判所ニ出訴スル
コトヲ得ス

附則

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ内務大臣ハ第十條
乃至第十二條ヲ適用スルコトヲ得
第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セザルモノト雖所有者ノ請
求アルトキハ第七條第一項ニ掲ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ
之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得
第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セザルモノト雖仍不法ヲ準用ス
ルコトヲ得
第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

古社寺保存法施行細則

明治三十年十二月内務省令第三十五號

古社寺保存法施行細則左ノ通相定ム

第一條 古社寺保存法第一條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ
願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ之ヲ内務省ニ提出スルハシ
一 出願ノ事由
二 修理スヘキ物件ノ名稱、所在、種類、品質、員數、形狀、寸尺、構造、坪
數並歴史ノ記載、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優秀等ヲ詳見スルニ足ルヘ
キ事項
三 建築又ハ製作ノ年代及其ノ後之ニ加ヘタル修理ノ年月
四 修理ニ要スル工費豫算或設計仕様等

五 竣成期限
六 出願者ノ實力ヲ證スルニ足ルヘキ事項
第二條 特別保護建築物及國寶ノ修理費ニ對シ國庫ヨリ補助スル場合ニ
於テハ當該社寺ノ少クとも其ノ半額ヲ負擔スヘキモノトス但特別ノ
事情アルモノニ限リ其ノ負擔額減額スルコトヲ得
第三條 保存金下付ノ後ニ於テ設計仕様ノ變更若ハ竣成期限ノ延期ヲ要
スルハ其事由及變更設計仕様等ヲ具シ内務大臣ノ許可ヲ受ケルヘシ
内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ該保存者ノ提出スル設計仕様ノ變更
ヲ命スルコトヲ得ルヘシ
第四條 修理費ヨリ出陳シタル物件ハ其計算書ヲ添ヘ二箇月以内ニ内務大臣ニ提出
スルヘシ
第五條 本令ノ規程ニ違反シ若ハ保存金下付ノ條件ニ違反シタルトキハ
内務大臣ハ保存金ノ全部若ハ一部ノ返付ヲ命スルコトヲ得ルヘシ
第六條 國寶ハ分ツテ左ノ三種トス但シ神社ノ祭神若ハ寺ノ本尊ハ此ノ
限ニ在ラス
甲種 製作ノ優秀ナルモノ
乙種 由緒ノ特殊ナルモノ
丙種 歴史ノ記載ナルモノ
甲種ハ製作ノ優秀ノ程度ニ依リ一等乃至四等ノ四等ニ分ツ
第七條 内務省ニ特別保護建築物及國寶ノ修理費補助額ヲ備置スルモノトス
第八條 特別保護建築物ノ名稱ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス
一 名稱
二 所有者及所在地
三 創立及沿革
四 構造、形式
五 寸尺
第九條 國寶並稱ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス
一 名稱
二 所有者及所在地
三 作者及傳來

第六條ノ種別等級

五 種類
六 員數
七 品質
八 形狀
九 寸尺
第十條 特別保護建築物若ハ國寶ヲ審視シ登記シタルトキハ特別保護建
造物證書若ハ國寶證書ヲ其ノ物件所有者ニ交付ス
第十一條 古社寺保存法第六條第一項ニ依リ別ニ監守者ヲ置カントスル者
ハ其ノ氏名、職稱、資産額等ヲ添ヘ設置ノ事由ヲ詳記シテ内務大臣ニ願
出ツヘシ
第十二條 特別保護建築物若ハ國寶ニシテ亡失毀損アリタルトキハ其ノ
實況ヲ詳記シ五日以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ
第十三條 補給金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス
甲種一等 五十圓以下三十五圓以上
同 二等 三十五圓以下二十圓以上
同 三等 二十圓以下十圓以上
同 四等 十圓以下二圓以上
乙種 二十圓以下二圓以上
丙種 六圓以下二圓以上

第十四條 前條ノ補給金ハ月割ヲ以テ計算シ一箇月ニ滿タサル日數及
風位未滿ハ切捨トス
第十五條 博物館ニ於テ國寶ヲ受領シタルトキハ受領證書ヲ交付シ又國
寶ヲ返付スルトキハ該證書ヲ引換フヘシ
第十六條 博物館ニ於テ國寶ヲ受領シタルトキハ其ノ都度内務大臣及當
該地方長官ニ報告スヘシ
第十七條 從前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シテハ古社寺保存法第十七
條ニ依リ同法第十條乃至第十二條ヲ適用ス
第十八條 古社寺保存法第十九條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル
者ハ第一條ノ規程ニ準據シテ願書ヲ提出スヘシ

古社寺保存法施行ニ關スル

明治三十年十二月
勅令第四百四十六號

古社寺保存法施行ニ關スル條件ヲ詳記シ之ヲ公布セシム
第一條 古社寺保存法第七條ニ依リ國寶ヲ博物館ニ出陳セシムルトキ
ハ當該博物館ニ國寶監守ヲ置ク
國寶監守ハ命令ヲ内務大臣ニ奉ケ出陳國寶ノ監守ニ關スル一切ノ責任
ヲ之ニ充ツ
第二條 國立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館ノ責任待遇以上ノ員數ヲ以
テ之ニ充ツ
公立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ
第三條 國寶監守ハ身元保證金ヲ納ムヘシ
前項ノ身元保證金ニ關シテハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及明
治二十三年勅令第四號ヲ準用ス
第四條 國寶監守故意ニ由リ其ノ監守スル國寶ヲ亡失若ハ毀損シタ
ルトキハ賠償ノ責任ニ任スヘシ
第五條 古社寺保存法第八條ニ依リ支給スヘキ補給金ハ國寶一箇ニ此キ
一箇年二圓以上五十圓以下トシ内務大臣ハ出陳ヲ命スル程度之ヲ定ム
但シ國寶ニシテ特別貴重ナルモノアルトキハ内務大臣ハ古社寺保存會
ニ諮詢シ五十圓以上百圓以下ヲ支給スルコトヲ得
第六條 出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ總テ當該博物館ニ於テ支拂スヘキ
モノトス出陳ノ義務ヲ解除シタルトキ返送ニ要スル荷造運搬費等亦同
第七條 古社寺保存法第十五條ニ依リ損害賠償ヲ要スルトキハ内務大臣
ハ賠償金額ヲ決定シ古社寺保存會ノ請求ニ附ス
前項ニ依リ古社寺保存會ニ於テ判決シタル金額内務大臣ノ決定金額ニ
相違シタルトキハ内務大臣ノ決定額ト古社寺保存會ノ請求額トヲ介セ

之ヲニ除シタル額ヲ以テ賠償ノ實額トス
第八條 本令ニ定ムルモノノ外社寺保存法施行ニ要スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム
〔參照〕明治二十三年(一月二十日)勅令第四號ハ出納官吏元保證金ノ件ナリ

第十五類 學事 天象及曆時

第一篇 學事

第一章 通則

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ建ムルコト遠祖ニ繼テ樹タルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ在ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ知能ヲ啓發シ無善ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國體ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠貞ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ繼承スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ變ラズ之中外ニ施シテ皆ラズ朕爾臣民ト俱ニ奉奉服膺シテ成其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日

教育ニ關スル勅語ニ附訓示

今般教育ニ關シ
勅語ヲ下シタマヒタルニ付其原本ヲ頒テ本大臣ノ訓示ヲ發ス管内公私立學校ヘ各一通テ交付シ能ク
聖意ノ在所ヲシテ貫徹セシムヘシ

同上(直轄學校ニ達ス)

明治二十三年十月文部省訓令

今般教育ニ關シ
勅語ヲ下シタマヒタルニ付其原本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク
聖意ノ在所ヲシテ貫徹セシムヘシ
(別紙勅語ハ前出ニ付キ之ヲ奉ス)
訓示

國ヲ惟フニ我カ
天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ熱心ヲ示シテ
勅語ヲ下シタマヒタルニ付其原本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク
聖意ノ在所ヲシテ貫徹セシムヘシ
勅語ヲ奉承シテ忠實ヲ盡シテ
勅語ノ原本ヲ作リ習フ之ヲ全國ノ學校ニ頒テ凡ソ教育ノ職ニ在ル者皆之ヲ
常ニ留意シ奉體シテ研窮進歩ノ務ヲ怠ラサルヘク茲ニ學校ノ式日及其他
便宜日時ヲ定メ生徒ヲ召集シテ勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ理解會シ生
徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

御影並 勅語謄本奉置方

管内學校ヘ下賜セラレタル
天皇陛下
皇后陛下ノ 御影或教育ニ關シ下シタマヒタル 勅語ノ謄本ハ校内一定
ノ場所ヲ撰ビ最モ尊重ニ奉置セシムヘシ

地方學事通則

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地方學事通則
第一條 町村ハ教育事務ノ爲め令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設テ
町村學校組合ニハ町村制第七十七條ヲ適用ス

明治二十三年十月
法律第八十九號

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲メ之ヲ敷置三分置ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設キトキハ市制第百十三條町制第百十四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業ハ店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但シ其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ノ區長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應ズヘシ

第五條 町村學校組合若クハ其區ノ區長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議ヲササルコトハ郡縣議會ニ於テ之ヲ議決スヘシ兒童教育事務ノ委託ニ對シテ報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議ヲササルコトモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ設クヘシ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ設クヘシ

第七條 市町村立學校長其他校長學務委員及職員其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依リノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ

區ハ學校基本財産ヲ設ケルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ其學校ノ爲メ之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲メ之ヲ設ケルコトヲ得

學校基本財産ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ(明治二十九年四月法律第八十一號ヲ以テ本項ヲ改ム)

學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル附屬金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但シ附屬者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書籍使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得

府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歲入ノ變分ヲ增加セテ學校基本財産トナスコトヲ得(同上)

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入セシムルモノハ本法實施後二年間ハ府縣議會ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣郡市町村町村制ニ規定セラルル府縣大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ內務省府縣大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣ノ定ム

●諸學校通則第一條ニ依リ學校書籍館ノ管理ヲ願出テタル場合ニ於ケル取扱方

明治三十年八月文部大臣訓令

明治十九年勅令第十六號諸學校通則第一條ニ依リ各種ノ學校又ハ書籍館ノ管理ヲ出願スル者アルトキハ其學校又ハ書籍館ヲ維持スルニ充分ナル利子ヲ生スヘキ確實ナル基金ヲ附スルニテアツラシメ今後許可セザルニ心得ヘシ

前項ニ依リ各種ノ學校又ハ書籍館ノ管理ヲ許可セントスルトキハ其財產ノ管理ニ關スル規則ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ右訓令ス

●幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則

明治二十四年文部省令第十八號

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第四十二條ニ基キ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則

第一條 幼稚園盲啞女子ニシテ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府縣知事ノ免許ヲ得タル者トス

第二條 盲啞學校教員及各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府縣知事ノ免許ヲ得タル者トス

第三條 市町村立幼稚園盲啞學校及各種學校校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事ニ行フヘシ

第四條 私立幼稚園盲啞學校及各種學校校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ許可シタル幼稚園ノ保育規程盲啞學校及各種學校ノ教則教科用圖書ハ文部大臣ニ開申スヘシ

●學校清潔方法

明治三十年一月 文部省訓令第一號

學校ノ清潔ハ衛生上最ニ重要ナル事ナリ故ニ學校衛生規則ニ關シテ左ノ清潔方法ヲ標準トシテ各學校校長及教員ノ注意ヲ要スルベシ

一 教室及習字會ハ毎日八ナキ時ニ於テ先ツ窓戶ヲ開キ掃除ヲ以テ少シク掃除及掃除ヲ勤メテ掃出シタル埃布ヲ以テ器具等ヲ拭クヘシ但シ掃除ノ爲メニ室内ヲ潤カスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテ充分乾燥シテ行フヘシ

二 教室及習字會ニハ其人員ニ應ジ紙屑箱ト少量ノ水ヲ置クヘシ且シ紙屑箱ト他物ト混ス紙屑箱ニ投入シ紙屑箱ハ必ス蓋ニ於テシテ室内塵下等ニ放ラセシムルヘカラス

紙屑箱及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ

甲 日常清潔方法

清潔方法ヲ分テテ日常清潔方法及定期清潔方法及洒水設備清潔方法トス

- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用井ル服物ヲ禁スヘシ但止ムテ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 四 靴ノ塵屑昇ルル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應ジ靴拭キ備フヘシ
- 五 寝具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆履衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ
- 六 便所ノ尿瀝及注糞等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ風呂ハ湯布ヲ以テ拭フヘシ
- 七 糞箱内ニハ防臭藥トシテ粗製過新炭酸加里、粗製樟腦兒滿徳(以上百倍乃至三百倍)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燼土粉、灰等ヲ撒布シ期々ラヌ汲取ラシムヘシ
- 八 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時時窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ滲滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘラカス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ床面ヲ潤ホシ食後ニハ湯布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ
- 九 芥莖場ノ不潔物ハ期々運ラヌ搬送セシムヘシ
- 十 下水ハ常に疏通セシメ炊事湯、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ
- 十一 庭園、體操場、遊戯場、庭下、樓下等モ亦常に清潔ヲ保シムヘシ
- 乙 定期清潔方法
 - 十二 先少教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ銅キタル後如露ヲ以テ床板及廊下ナ泗ホシ、天井、四壁、床板、廊下等處ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ粗汚染物ニ基シテ部分及器具等ハ熱湯汁若ハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ
 - 十三 窓下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及窓廻リハ乾吐水等ヲ以テ洗拭スヘシ
 - 十四 寝具、寢臺、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラサルモノハ先少其塵ヲ掃ヒ書簡文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ

十五 器具、敷具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス

第二章 初等教育

●小學校令 明治二十三年十月 勅令第三百十五號

朕小學校令ヲ訂可シ之ヲ公布セシム(明治二十三年二月勅令第二十號)實業學校令第十九條ノ規定ニ依リ本令中初等學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ同令施行ノ日ヨリ效力ヲ失フ)

小學校令

- 第一章 小學校ノ本質及種類
 - 第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道徳教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必要ナル普通ノ知識技能ヲ授ケルヲ以テ本旨トス
 - 第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス
 - 第三條 市町村若ハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシテ一人若ハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス
 - 第四條 尋常小學校ノ種類トス
 - 第五條 尋常小學校ノ教員ト高等小學校ノ教員トナシ併セ置ケルコト
- 第二章 小學校ノ編制
 - 第三條 尋常小學校ノ教員日ハ修身讀書作文算術體操トス
 - 第四條 高等小學校ノ教員日ハ修身讀書作文算術日本地理日本歴史外國地理理科國語唱歌體操トス又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノトス
 - 第五條 尋常小學校ノ教員日ハ修身讀書作文算術日本地理日本歴史外國地理理科國語唱歌體操トス又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノトス

- 第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置ケコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス
- 第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置ケコトヲ得
- 第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス
- 第九條 専修科補習科「徒弟學校及實業補習學校」ノ教員日及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十條 小學校ノ某教科日ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科日トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得
- 第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教員日ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第四十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第五十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第六十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第八十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十一條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十二條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十三條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十四條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十五條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十六條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十七條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十八條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第九十九條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第一百條 併置キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

サレ間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス
 前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ始メヨリ生スルモノトス
 第二十一條 貧窮ノ爲メ又ハ兒童ノ疾病ノ爲メ其他已ムテ得サル事故ノ爲メ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムルハ必要ナリト認ムルトキハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ検査ヲ行フコトヲ得
 市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ検査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不潔ノ行爲アル兒童又ハ服藥ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス
 前項ニ關スル規則ハ府縣知事ノ之ヲ定ム
 第二十四條 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事ノ之ヲ定ム
 第四節 小學校ノ設置
 第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス
 町村組合ニシテ組合テ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテ之ヲ一町村ト同視ス
 第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
 町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ

聞キ之ヲ定ム府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十七條 郡長ハ一町村ノ實力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ員數ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ヲ定ムヘシ
 第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合若クハ困難アルカ爲メ適宜ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ
 一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ヲ定ムヘシ
 二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全體若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ
 郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ斷絶若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ
 郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘシ
 第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡縣知事ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ヲ定ムルトキモ亦同シ
 郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村町村學校組合及郡縣知事ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校設置アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シテ又ハ市ヲ分區シテ數區トシテ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル員數ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得
 郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ相當スルモノアルト

キ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分區シテ數區トシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル員數若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得
 一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校設置アルトキ
 二 町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアリトキ
 三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ其一部内ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアリトキ
 本條第一項ノ處分ヲシテ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ
 本條第二項ノ處分ヲシテ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモノ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關シテ免レシムルコトヲ得
 郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモノ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一區ニ關シテ免レシムルコトヲ得
 本條ノ場合ニ於テハ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ郡長ノ許可ヲ受クテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ム郡長ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解散シムルトキハ關係町村及郡縣知事ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 郡長ハ町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若ク

ハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 第三十三條 町村ハ一町村限リノ員數ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ此ノ例ニ依リ尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ費用ヲ削減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受クテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數位置ハ其學校組合ヲ設ケルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定ム郡長ノ許可ヲ受クヘシ
 第三十四條 前條ノ町村學校組合ノ郡長ノ許可ヲ得ルニテララレハ之ヲ解散コトヲ得
 郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指撥ヲ受クヘシ
 第三十五條 府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ議シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得
 私立小學校代用ニ關スル規則ハ文武大臣ノ之ヲ定ム
 第三十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クテ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得
 第三十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受クテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得
 郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指撥ヲ受クヘシ
 本條ノ學校組合ニ就キテハ第二十四條ノ適用ス
 第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規則ハ特別學校及實業補習學校ニ關シテ之ヲ適用ス
 第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條三類ノ小學校ノ設置ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ
 第四十條 市町村ハ幼稚園附屬幼稚學校其他小學校ニ關スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十八

九條ノ規程ヲ適用ス
 第四十一條 私立ノ小學校幼稚園圖書館音樂學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ
 第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 第五十條 小學校ニ關スル府縣知事市町村ノ負擔及授業料
 第四十三條 市町村小學校ノ設置ニ關シ市町村及町村學校組合設置ノ負擔ノ概目左ノ如シ
 一 校舍校地校具體操場農樂練習場ノ供給及支持
 二 小學校教員ノ俸給旅費等
 三 小學校ニ關スル諸費
 第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ
 授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス(明治三十年勅令第四百七號ヲ以テ本條ヲ改ム)
 一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得
 市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ
 授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得
 第四十五條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校教員アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲシテ其教授中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得
 郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得
 本條ノ處分ヲシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受ケヘシ
 第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ實力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部ヲ町村

ノ實力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡長ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
 前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡費率會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指撥ヲ受ケヘシ
 第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡長ハ郡費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
 前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡費率會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指撥ヲ受ケヘシ
 第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ實力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣知事ハ府費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
 前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府費率會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指撥ヲ受ケヘシ
 第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ實力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣知事ハ府費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
 前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府費率會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指撥ヲ受ケヘシ
 第五十條 區長其代理者及學務委員ニ於テ區ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス區區長及其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス決テ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得
 第五十一條 郡縣學ノ給料旅費運送料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ
 第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノハ小學校教員用圖書費委員及審定ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
 第六十條 小學校長及教員
 第五十三條 小學校ノ教員中小學校ノ某科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス

小學校ノ教員中小學校ノ科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員トス
 第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ
 第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス
 檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス
 檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 第五十六條 小學校長及教員ノ任用解職其他選退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 第五十七條 市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依リ
 第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ
 第五十九條 市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之レヲ兼任スルモノトス(明治二十六年勅令第二百六十號ヲ以テ本條ヲ改ム)
 第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ以テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ(明治三十年勅令第二號ヲ以テ本條ヲ改ム)
 市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ
 前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得
 第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス
 第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ輕略シ若クハ職務上過當スヘキ指命ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ罰金罰則並免職等ニ關スルモノトス
 私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其職務ヲ停止シ又ハ免職狀ヲ發給スヘシ
 免職若クハ職務停止シ又ハ免職狀發給ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得
 市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並私立小學校長及教員ノ職務停止及免職狀發給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 第六十五條 小學校教員懲罰以上ノ罰ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ懲戒ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免職狀ヲ發給セラルルモノトス
 第七十條 管理及監督
 第六十六條 郡ニ郡學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス
 郡學ハ府縣知事ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受ケルモノトス
 第六十七條 郡學ハ郡長ノ指撥命令ヲ受ケテ郡内ノ教育事務ヲ監督ス
 第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣知事ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命ジテ郡學ノ名稱ヲ以テ其職務ヲ行ハシム
 第六十九條 郡學ニ對シテ郡學處分ハ官定懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ
 第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル區ノ教育事務ヲ管理シ市町村立小學校ヲ管理ス但學務委員若クハ首座教員ノ管理ニ關スル事務ハ之ヲ監督ス
 第七十一條 市町村長ニ對シテ郡學處分ニシテ區ノ教育事務ヲ取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第四百二十四條市制第四百二十八條ヲ適用ス
 第七十二條 市ノ教育事務ノ爲メ市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依リ之ヲ廢止ス
 委員ニハ市立小學校教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員より出シル者ハ市長之ヲ任免ス
 第七十三條 市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス
 第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナシ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得
 第七十五條 市ノ教育事務ノ爲メ市條例ノ規程ニ依リ市內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
 委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス
 第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長及其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得
 第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル
 一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第二百二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
 二 市制第二百二十四條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス
 第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得
 第七十九條 町村ノ教育事務ノ爲メ町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルニ在ラス
 委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得
 第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス
 第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナシ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ノ教育事務ノ爲メ町村條例ノ規程ニ依リ町村內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
 委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス
 第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長及其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得
 第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル
 一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
 二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス
 第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得
 第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ
 町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
 委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス
 第八十七條 町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス
 府縣知事ハ町村學校組合內ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得
 第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル
 一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
 二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス
 第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得
 第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ反ルモノアルトキハ府縣知事ニ命ジテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得
 第九十二條 前條ニ據クル教育事務トハ專ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ
 第八章 附則
 第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其ノ施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム
 第九十四條 幼稚園園長並小學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但該等小學校設置ノ義務就學ニ關スル規程ハ此限リニ在ラス
 第九十五條 本令ニ依リシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其效力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム
 第九十六條 明治十五年(四月)勅令第十四號小學校令ニ依リ施行スル規程ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其ノ施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第一條 尋常小學校補習科ノ教科目ハ修身、讀書、作文、算字及算術トス
 土地ノ情況ニ依リ日本地理、日本歷史、理科、國語、手工ノ一科ヨリ若クハ數科ヲ加ヘ女兒ノ爲メニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得
 第二條 高等小學校補習科ノ教科目ハ修身、讀書、作文、算字及算術トス
 女兒ノ爲メニハ裁縫ヲ加フルモノトス
 土地ノ情況ニ依リ日本地理、日本歷史、外國地理、理科、國語、幾何、外國語、商業、手工ノ一科ヨリ若クハ數科ヲ加フルコトヲ得
 第三條 補習科ノ修業年限ハ三學年以內トス
 第四條 第一條又ハ第二條ニ依リ補習科ノ教科目ヲ加ヘ若クハ第三條ニ依リ補習科ノ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ市會事會又ハ町村長ニ於テ私立學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

隨意科目等ニ關スル規則
 明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第十條ニ基キ隨意科目等ニ關スル規則ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ
 隨意科目等ニ關スル規則
 第一條 尋常小學校ノ教科目ニ中體操、日本地理、日本歷史、國語、唱歌、手工及裁縫ハ隨意科目トナスコトヲ得
 第二條 高等小學校ノ教科目ニ外國地理、唱歌、幾何ノ初歩、外國語、農業、商業及手工ハ隨意科目トナスコトヲ得
 第三條 補習科ノ教科目ハ修身、讀書、作文、算字及算術トナスコトヲ得
 第四條 小學校ノ教科目ニ唱歌、體操等ハ其學校長ニ於テ兒童ノ身體及教育上ノ利益ニ從ヒテ認ムルコトヲ得
 第五條 第一條乃至第三條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ隨意科目トナスニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市會事會又ハ町村長ニ於テ私立學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

補習科ノ教科目及修業年限

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第九條ニ基キ補習科ノ教科目及修業年限ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ
 補習科ノ教科目及修業年限

小學校令施行ニ關スルノ件

明治二十四年一月勅令第五號
 朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ其全部施行シ難キ事狀アル地方ニ限リ府縣知事ノ具狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

小學校設備準則

明治二十四年四月 文部省令第二號

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第十九條ニ基キ小學校設備準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校設備準則

第一條 校地ハ日常好ク且成ルヘク開闢整頓ナルヲ要ス

校地ハ噴間ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道徳上礙忌スヘキ場所、修繕セル池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近スヘカラス
校地ヲ擇フニ方リ衛生上ノ利害明ナラサルトキハ醫師ノ意見ヲ問フコトヲ要ス

第二條 校舍ニハ

天皇陛下及
皇后陛下ノ御影或教育ニ關スル 勅語ノ標本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條 校舍ハ成ルヘク平展造ナルヲ要ス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クコトヲ要ス
校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ爲シ又成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第四條 各教室ノ大サハ其内ニ入ルヘキ机或座席ノ數、大サ及排置方ニ應ジテ之ヲ定メ生徒四人ニ付凡一坪ヨリ小ナルヘカラス
各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ルルヨリ大ナルヘカラス

第五條 校舍ハ生徒ノ朝、傘、雨衣、足駄等ヲ置クヘキ場所ヲ備ルヲ要ス
校舍ハ成ルヘク講堂、物置等ヲ備フルヲ要ス
裁縫ノ科日ヲ設ケル小學校ハ男女ヲ區別シ教授セザル場合ニ於テハ該科目ノ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ其校舍ニ備フルヲ要ス
手工又ハ工科ヲ設ケル小學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ爲特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス

ナリ附シテ之ヲ規定スルヲ要ス
第十五條 校舍、校具等ノ掃除及保存ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス
第十六條 設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス
俱備整スヘカラサル事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

小學校教則大綱

明治二十四年十一月 文部省令第十一號

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第十二條ニ基キ小學校教則ノ大綱ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教則大綱

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育ス

徳性ノ涵養ハ教育上最モ重要ナルヲ要ス故ニ何レノ教科目ニ於テモ道徳教育國民教育ニ關連スル事項ハ殊ニ留意シテ教授セシムコトヲ要ス
知識技能ハ確實ニシテ實用ニ適センコトヲ要ス故ニ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ビテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ課ルコトナク互ニ相連絡シテ裨益セシムコトヲ要ス
第二條 修身ハ教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キ兒童ノ其心ヲ啓蒙シテ其徳性ヲ涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルヲ以テ要旨トス
尋常小學校ニ於テハ孝悌、友愛、仁慈、信實、禮敬、義勇、恭敬等實踐ノ方法ヲ授ケ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養フコトヲ務メ又國家ニ對スル義務ノ大要ヲ指示シ兼テ社會ノ制裁廉耻ノ重シムヘキコトヲ知ラシメ兒童ヲ誘キテ風俗品位ノ純正ニ趨カント注意スヘシ
高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ陶冶ノ功ヲ堅固ナラシメンコトヲ務ムヘシ

大ナル小學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス
第六條 體育場ハ成ルヘク校舍ニ傍ラテ備フルヲ要ス
第七條 農業補習所ハ成ルヘク校舍ニ連テカラサレタラス
第八條 校舍ニハ廊下又ハ水道等ニ依リテ飲料水ヲ供給スルノ備アルヲ要ス
第九條 便所ハ校舍外ニ於テ男女ヲ區別シテ備フルヲ要ス
第十條 校舍ニ傍ラテ成ルヘク學校長若クハ首席教員ノ住居及倉庫ヲ設クルヲ要ス
第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トス
甲種ノ校具ハ亦ウ教授ノ用ニ充テラシムル器具トス尋常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、直尺、三角板、圓規、定規、直尺、白紙、水入、博物標本、理化器機、國畫ノ手木、國畫用具、裁縫用具、樂器、體操器械ヲ備フルヲ要ス其他ハ學校ノ地位、學級ノ編制又ハ教科若クハ科目ノ種類ニ應ジテ備フルヘキモノトス
乙種ノ校具ハ國旗、門札、生徒用及教員用ノ机及腰掛(腰掛用フル學校ニ限ル)時計、踏鞴、曬箱、附屬品、紙、書籍、櫥、戸棚、日用品其他學校ニ備付クルヲ必要トスル物件ニシテ甲種ノ校具ニ屬セザルモノトス
第十二條 生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生上ニ當テラシメ且生徒ノ監視上等ニ便利ナラシムルヲ要ス
第十三條 第二條ニ掲ケル場所、校舍ノ内部外部ノ照、校舍ノ床、階梯、出入口、廊下、扉、教室ノ天井、戸、障、便所、體操場、農具陳列場、教員住居及井戸等ノ構造或教室天井ノ高サ、教室ノ幅及其ノ割、煙道、通風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス
第十四條 校具ハ構造排置等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況

女兒ニ在リテハ殊ニ貞淑ノ美德ヲ養フコトニ注意スヘシ
修身ヲ授ケルニハ近身ノ儀容又高直等行等ヲ例シテ勵戒ナシテ教員身自ラ兒童ノ模範トナリ兒童ヲシテ清潔整潔ヲシムコトヲ要ス
第三條 讀書及作文ハ普通ノ言語並日常須知ノ文字、文句、文章ノ讀ミ方、綴リ方及意圖ヲ知ラシメ適當ナル言語及字句ヲ用ヒテ正確ニ意思ヲ表シスルノ能ク養ヒ兼テ習熟スルヲ以テ要旨トス
尋常小學校ニ於テハ近身ノ儀容ニ就キ平易ニ談話シ其言語ヲ練習シテ假名ノ讀ミ方、綴リ方ヲ知ラシメ次ニ假名ノ短文及近身ナル漢字交リノ短文ヲ授ケ漸ク進ミテハ讀書作文ノ教授時間ヲ別テ設ケ假名文及近身ナル漢字交リノ短文ヲ授ケ作文ハ假名文、近身ナル漢字交リ文、日用書類等ヲ授ケヘシ
高等小學校ニ於テハ讀書ハ普通ノ漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ漢字交リ文及日用書類等ヲ授ケヘシ
讀書作文ヲ授ケル際單語、短句、短文等ヲ書取ラシメ若クハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ熟シムヘシ
讀本ノ文章ハ平易ニシテ普通ノ國文ノ構法アルヘキモノナルヲ要ス故ニ兒童ニ理解シ易クシテ其心情ヲ快活純正ナラシムルモノヲ採ルヘク又其事項ハ修身、地理、歴史、理科其他日常ノ生活ニ必須ニシテ教授ノ趣味ヲ添フルモノナルヘシ
作文ハ讀書又ハ其他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ行文平易ニシテ音韻明瞭ナラシメンコトヲ要ス
言語ハ他ノ教科目ノ教授ニ於テモ常ニ注意シテ練習セシメンコトヲ要ス

第四條 習字ハ通常ノ文字ノ書キ方ヲ知ラシメ漢字ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス
尋常小學校ニ於テハ片假名及平假名、近身ナル漢字交リノ短句、通常ノ人名、苗字、物名、地名等ノ日用文字及日用書類ヲ習ハシムヘシ
高等小學校ニ於テハ前項ノ事項ヲ擴メ更ニ日常須知ノ文字ヲ習シ又日用書類ヲ習ハシムヘシ

漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ行書若クハ楷書トシ高等小學校ニ於テハ楷書行書草書トス

習字ヲ授ケル際ニ姿勢ヲ整ヘ執筆及運筆ヲ正シクシ字行ハ整正ノ向ヒ運筆ハ務メテ速カナラシメノコトヲ要ス

他ノ教科目ノ教授ニ於テ文字ヲ書カシムルコトアルトキハ亦常ニ其字形及字行ヲ正シクセシメノコトヲ要ス

第五條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ兼テ思想ヲ精密ニシテ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初メハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ハ方及加減除及通分ノ數ヲ隨園ヲ擴メテ萬以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル加減乘除及通分ノ數ヲ計ヘ方ヲ授ケヘシ

初年ヨリ漸ク度量衡貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ之ヲ日常ノ事物ニ應用シテ其計算ニ習熟セシムヘシ

尋常小學校ニ於テ算術若クハ珠算ヲ用ヒ又ハ筆算珠算ヲ併セ用フルハ土地ノ情況ニ依ルヘシ

高等小學校ニ於テハ筆算ヲ用ヒ初メハ度量衡貨幣及時刻ノ計算ヲ練習セシメ漸ク通分トシテ簡易ナル比例問題ト通常ノ分數小數トヲ併セ授ケ又學業ノ修業年限ニ應ジ更ニ稍複雑ナル比例問題及日常適切ノ百分算ヲ授ケ土地ノ情況ニ依リテハ開平開立及扇形ナル乘積若クハ日川海龍ノ概略ヲ授ケ又ハ球算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授ケヘシ但尋常小學校ニ於テ球算ノミヲ學ビタル者ニハ最初筆算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授ケヘシ

算術ヲ授ケルニハ理合精密ニ運算習熟シテ應用自在ナラシメノコトヲ務メ又常ニ正確ナル算術ヲ用ヒテ運算ノ方法及理由ヲ説明セシメ殊ニ暗算ニ熟達セシメノコトヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項ヲ適用シ又ハ土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ノモノヲ選ブヘシ

第六條 日本地理及外國地理ハ日本ノ地理及外國地理ノ大要ヲ授ケテ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ理會セシメ兼テ愛國ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ郷土ノ地形方位等兒童ノ

日常目撃セル事物ニ就キテ編綴ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形氣候、著名ノ都會、人民ノ生活等ノ概略ヲ授ケ更ニ地球ノ形狀、水陸ノ別、其他重要ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準シテ前詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ運動、晝夜四季ノ原因ヲ理會セシメ外國地理ハ大洋大洲五帶ノ別、各大洲ノ地形、氣候、產物、人種及支那朝鮮其他本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ概略ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應ジ既ニ授ケタル日本地理ヲ復習シテ前詳ニ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ授ケ兼テ簡易ナル經濟上ニ關係ヲ理會セシムヘシ

地理ヲ授ケルニハ實地ノ觀察ニ基キ又地球儀地圖等ヲ示シ兒童ノ熟知セル事物ニ依リ比較推測セシメテ確實ナル知識ヲ得シメ又常ニ歷史上ノ事實ニ連絡セシメノコトヲ要ス

第七條 日本歷史ハ本邦國體ノ大要ヲ知ラシメテ國民タルノ志氣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本歷史ヲ加フルトキハ郷土ニ關スル史蹟ヨリ始メ漸ク建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠貞賢智ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來等ノ概略ヲ授ケ國體ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ノ大要ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シテ前詳ニ國體ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ授ケヘシ

日本歷史ヲ授ケルニハ成ルヘク圖畫等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ人物ノ言行等ニ就キテハ之ヲ其身ニ於テ授ケタル格旨等ニ照ラシテ正邪是非ヲ辨別セシメノコトヲ要ス

第八條 理科ハ通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精密ニシ其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於ケル植物動物及自然ノ現象ニ就キテ兒童ノ目撃シ得ル事實ヲ授ケ就中重要ナル植物動物ノ形狀構造及生活發育ノ狀態ヲ觀察セシメテ其大要ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應ジ更ニ植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係、通常ノ物理上化學

上ノ現象、通常兒童ノ目撃シ得ル器械ノ構造作用等ヲ理會セシメ兼テテ人身ノ生理及衛生ノ大要ヲ授ケヘシ

理科ニ於テハ務メテ農業工業其他人民ノ生活上ニ適切ナル事項ヲ授ケ殊ニ植物動物等ヲ授ケル際ニ於テ製スル重要ナル人工物ノ製法効用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授ケルニハ實地ノ觀察ニ基キ若クハ標本模型圖畫等ヲ示シ又ハ簡單ナル試驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメノコトヲ要ス

第九條 圖畫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ養ヒ兼テ意匠ヲ練リ形體ノ美ヲ辨知セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ直線曲線及其單形ヨリ始め時直線曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシメ漸ク進ミテハ簡單ナル形體ヲ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ諸般ノ形體ニ移リ實物若クハ手本ニ就キテ畫カシメ又時時自己ノ工夫ヲ以テ圖案セシメ兼テ簡易ナル用器畫ヲ授ケヘシ

圖畫ヲ授ケルニハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ編綴ヲ尚フノ習性ヲ養ハノコトヲ要ス

第十條 唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シテ容易キ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ音樂ノ美ヲ辨知セシメ德性ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ通常諸歌ヲ用ヒシテ容易キ單音唱歌ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ單音唱歌ヲ授ケヘシ

歐國及樂譜ハ成ルヘク本邦古今ノ名家ノ作ニ保ルモノヨリ之ヲ採ヒ雅正ニシテ兒童ノ心緒ヲ快活純美ナラシムルモノナルヘシ

第十一條 體操ハ身體ノ成長ヲ均齊ニシテ健康ナラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守ルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ最初適宜ノ遊戲ヲナサシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ男兒ニハ便宜兵式體操ノ一部ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ男兒ニハ主トシテ兵式體操ヲ授ケ女兒ニハ普通體操ヲ授ケハ遊戯ヲ授ケヘシ

土地ノ情況ニ依リテハ體操ノ教授時間ノ一部若クハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲナサシメ又夏季ニ於テハ水泳ヲ授ケルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成セル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメノコトヲ要ス

第十二條 縫製ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ衣服ノ縫方及裁方ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ縫製ヲ加フルトキハ選針法ヨリ始めテ簡易ナル衣服ノ縫方ヲ授ケ又便宜通常ノ衣服ノ縫方等ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ通常ノ縫方裁方ヲ授ケヘシ

縫製ノ品類ハ日常所用ノモノヲ採ヒ之ヲ授ケル際用具ノ種類、衣服ノ保存方法及洗濯方等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハノコトヲ要ス

第十三條 手工ハ眼及手ヲ練習シテ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ養ヒ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ長スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、粘土、漆、漆器等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授ケヘシ

高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、粘土、木、竹、銅線、鐵線、鉛等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授ケヘシ

手工ノ品類ハ成ルヘク有用ナルモノヲ採ヒ之ヲ授ケル際材料及用具ノ種類等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハノコトヲ要ス

第十四條 高等小學校ノ教科ニ幾何ノ初步ヲ加フルトキハ簡易ナル線角關係ノ性質及種類ヲ知ラシメ尙進ミテハ三角形ノ同形關係及勾股定理ノ關係等ヲ理會セシムヘシ

幾何ノ初步ヲ授ケルニハ先テ器具家屋地形等ヲ觀察セシメ更ニ其模型若クハ圖ヲ示シ兒童ヲシテ之ヲ畫キ其尺度又ハ角度ヲ測定比較シテ其性質關係ヲ知ラシメ又實驗ニ依リテ證明シ又既ニ授ケタル事項ヲ應用シ諸種ノ線形等ヲ構成シテ其度量ヲ計算セシメ之ヲ實地ニ應用スルノ能ヲ養ハノコトヲ要ス

第十五條 高等小學校ノ教科ニ外國語ヲ加フルハ將來ノ生活上其知識ヲ要スル兒童ノ多キ場合ニ限ルモノトシ讀方、譯解、習字、書取、會話、文法及作文ヲ授ケ外國語ヲ以テ簡易ナル會話及通信等ヲナスコトヲ得シムヘシ

外國語ヲ授クルニハ常ニ其發音及文法ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ聽解セシメントトテ要ス

第十六條 高等小學校ノ教科ニ農業ヲ加フルトキハ地理理科等ノ教授ニ連絡シテ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶等ニ關シ土地ノ情況ニ鑒切ニシテ兒童ノ理解シ易キ事項ヲ授ケ便宜ニテ實習セシメテ農業ノ趣味ヲ長シ餘ヲ節約利用、勤儉儲蓄ノ習慣ヲ養フヘントテ要ス

第十七條 高等小學校ノ教科ニ商業ヲ加フルトキハ算術地理等ノ教授ニ連絡シテ商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理解シ易キモノヲ撰ビ習慣及法令等ニ基キテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授ケシム

第十八條 府縣知事ハ第二條乃至第十七條ニ掲ケル範圍内ニ於テ學級ノ編制及修業年限ニ應ジ便宜各教科目教授ノ程度ヲ規定スルヲ要ス

第十九條 尋常小學校ノ教授ト高等小學校ノ教授ト一校ニ併セ置クトキハ兩教科ヲ連絡セシメンカ爲メ便宜各教科目教授ノ程度ヲ斟酌スルコトヲ得

第二十條 小學校長若クハ首席教員ハ小學校教則ニ從ヒ其小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十一條 小學校ニ於テ兒童ノ學業ヲ試驗スルハ專ラ學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スルヲ以テ目的トスヘシ

第二十二條 小學校長若クハ首席教員ハ修業年限ノ終リニ於テ兒童ノ學業ノ成績ヲ考ヘ小學校教則ニ定メタル課程ヲ完了セリト認定スルトキハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十三條 補習科ノ尋常小學校若クハ高等小學校ニ於テ兒童ノ既ニ學習シタル事項ヲ練習補充シ殊ニ之ヲ實地ニ應用スルノ法ヲ授ケテ處世ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

第三章 實業教育

實業學校令 明治三十二年二月 勅令第三十九號

第一條 實業學校ハ工業農業商業等ノ實業ニ從事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校及實業補習學校トス

第三條 工業學校ハ工業學校ノ種類トス

第四條 農業學校ハ農業學校ノ種類トス

第五條 商業學校ハ商業學校ノ種類トス

第六條 實業補習學校ハ他ノ道府縣立實業學校ニ附設スル場合ニ限リ文部大臣ハ土地ノ情況ニ應ジ必要ナル實業學校ノ設置ヲ府縣ニ命シ得

第七條 前條ノ實業學校ノ設置ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ設置トス

第八條 郡市町村ハ北海道及沖繩縣ノ區ヲ合シ又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育ノ施設上補助ヲ協合ニ限リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第九條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第十七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

實業學校設置廢止規則

明治三十二年三月文部省令第十二號

第一條 工業學校農業學校商業學校及商船學校ヲ設置セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ但實業學校令第三條ニ依リ設置スル場合ニハ第八條ノ事項ヲ具スルコトヲ要セズ

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

實業學校教員養成規程

明治三十二年三月文部省令第十三號

實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ實業學校教員養成規程ヲ定ムルコト

實業學校教員養成規程

第一條 東京帝國大學農科大學本科若クハ實科高等商業學校及東京工業學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニハ學費ヲ補助スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ學生生徒ハ農科大學ニ於テハ同大學長高等商業學校及東京工業學校ニ於テハ當該學校長ノヲ選定ス

第三條 農業補習學校教員養成ノ爲農科大學長ニ於テハ農科大學長ノシテ之ヲ管理セシム

第四條 第一條ノ學生生徒ノ員數及各養成所ノ募集スヘキ生徒ノ員數ハ毎年文部大臣ノヲ定ム

第五條 農業教員養成所ノ修業年限ハ一箇年トス

第六條 第一條ノ學生生徒ニハ最終ノ學年ニ於テ教育學及教授法ヲ學習セシム

第七條 農業教員養成所ノ學科目ハ倫理、農業常識、農藝化學、耕種、畜産、農業、經濟教育學、教授法、體操トス

商業教員養成所ノ學科目ハ倫理、商業作文、商業算術、商業地理、商業歷史、簿記、商品、經濟學、商業學、商法、商業實踐、英語、教育學、教授法、體操トス

工業教員養成所ニ本科及遠成科ヲ置キ本科ヲ分テテ金工科、木工科、染織科、窯業科、應用化學科、工業圖案科トシ遠成科ヲ分テテ金工科、木工科、染織科、窯業科、陶器科、漆工科トス但各學科ノ科目ハ本科ニ在リテハ左ニ掲グルモノトシ遠成科ニ在リテハ別ニ之ヲ定ム

金工科、木工科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、圖畫、無機化學、應用化學、工場用具及製作法、工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習ノ外金工科ニ在リテハ電氣工業大意、發動機、機械圖、木工科ニ在リテハ構造用材料、家具及建築洗滌、染織構造、衛生學、製圖及染色トス

染色科、窯業科、應用化學科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、化學、圖畫、工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習ノ外染色科ニ在リテハ染織及染色トシ窯業科ニ在リテハ窯業品製造トシ應用化學科ニ在リテハ特別應用化學、電氣及電機トス

工業圖案科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、化學、圖畫、圖案材料、機械圖、工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習トス

第八條 各養成所ニ入學スヘキ者ノ資格ハ年齡十七年以上コシテ師範學校中學校若クハ之ト同等以上ノ實業學校卒業ノ程度トス但工業教員養成所遠成科ニ入學スヘキ者ノ資格ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 各養成所生徒ニハ一箇月六箇以內ノ學費ヲ補助ス但假入學ノ時ハ學費ヲ補助セズ

第十條 工業教員養成所管理若クハ卒業生ニ研究生トシテ尙一箇年以內ニ在學トスルコトヲ得但研究生ニ補助スル學費ハ前條之額ヨリ增加スルコトヲ得

第十一條 第一條ノ學生生徒及各養成所ノ生徒ハ卒業ノ日ヨリ學費ノ補助

給テ受ケル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第十二條 第一條ノ學生生徒及各養成所ノ生徒ハ中途ニシテ退學シ若クハ前條ノ義務ヲ避ケサルトキハ補助シタル學費ヲ償還スヘキモノトス但文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第十三條 工業教員養成所ニ附屬工業補習學校ヲ置キ工業教員養成所生徒ヲシテ實地教授ヲ練習セシム

第十四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 本令施行ニ關スル各教員養成規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ各養成所之ヲ定ム

第十六條 明治三十二年文部省令第十二號工業教員養成規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治三十七年文部省令第十二號工業教員養成規程第六條ニ依リ義務ヲ有スル者ハ本令第十一條ノ例ニ依リ

第十八條 工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以內延長スルコトヲ得

第十九條 工業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以內トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第二十條 工業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、圖畫、英語、體操ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歷史、博物、外國語、經濟、法規、簿記及其他ノ科目ヲ任意附加スルコトヲ得

第二十一條 工業學校ノ附設スルコトヲ得

第二十二條 工業學校ノ修業年限ハ二箇年以內トス

第二十三條 工業學校ノ授業時數ハ每週三、四時以內トス

第二十四條 工業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、算術、地理、歷史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

工業學校規程

明治三十二年二月

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第八條及第十三條ニ基キ工業學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以內延長スルコトヲ得

第二條 工業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以內トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 工業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、圖畫、英語、體操ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歷史、博物、外國語、經濟、法規、簿記及其他ノ科目ヲ任意附加スルコトヲ得

第四條 工業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第五條 工業學校ニハ理科ヲ附設スルコトヲ得

第六條 理科ノ授業時數ハ每週三、四時以內トス

第七條 理科ノ學科目ハ修身、讀書、作文、算術、地理、歷史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第八條 工業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第九條 工業學校ニハ理科ヲ附設スルコトヲ得

第十條 理科ノ授業時數ハ每週三、四時以內トス

第十一條 理科ノ學科目ハ修身、讀書、作文、算術、地理、歷史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第十條 工業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ工業ニ必要ナル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十一條 工業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ工業ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ専攻セントスル者ノ爲ニ専攻科ヲ設クルコトヲ得

第十二條 専攻科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十三條 工業學校ノ學科及徒弟學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得

第十四條 土地ノ情況ニ依リ本令規定ノ工業學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル工業學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條 工業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限
- 三 授業日數
- 四 休業日
- 五 學科目及其程度
- 六 各學科目毎週授業時數
- 七 入學進學ノ規程
- 八 試驗法
- 九 實習ノ規程
- 十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)
- 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
- 十二 前各條ノ外學校管理上必要ノ事項

第十六條 工業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十七條 工業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツルキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第十八條 工業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、工業實習場、其他必要ノ附室ヲ備フルコトヲ要ス

第十九條 工業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、實習用諸機械、體操用具等ヲ備フルコトヲ要ス

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

附則
●農業學校規程 明治三十二年二月
文部省令第九號

明治三十二年勅令第二十九號農業學校令第八條及第十三條ニ基キ農業學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

農業學校規程

- 第一條 農業學校ハ甲乙ノ二種トス
- 第二條 農業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス
- 第三條 甲種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ毎週三十時以内トス但其實習時數ハ農事ノ要ニ應シ適宜之ヲ定ム
- 第四條 甲種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ農業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法規、無肥、園藝及其他ノ科目ヲ兼宜加設スルコトヲ得
- 第五條 農業學校ノ學科目ハ土質、肥料、作物、園藝、農具製造、畜産、養蠶、養魚、氣候、林學大意、獸醫學大意、水産學大意等ヨリ選擇シ又ハ兼宜分合シテ之ヲ定ム
- 第六條 甲種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得
- 第七條 乙種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ毎週二十時以内トス但其實習時數ハ農事ノ要ニ應シ適宜之ヲ定ム
- 第八條 乙種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、算術、理科、體操並ニ農業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、經濟、園藝及其他ノ科目ヲ兼宜加設シ又土地ノ情況ニ依リ短期ノ教授ヲ必要トス

スル場合ニハ修身及實業ニ關スル科目ノ外一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得

實業ニ關スル科目ハ土質、肥料、作物、農産製造、家畜、養蠶、病蟲害、氣候等ヨリ選擇シ又ハ兼宜分合シテ之ヲ定ム

第九條 乙種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ム

第十條 甲種農業學校ニハ附科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 附科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 附科ノ授業時數ハ毎週二十時以内トス

第十三條 附科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、理科、園藝、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第十四條 附科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ム

第十五條 農業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ農業ニ必要ナル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十六條 修業期一箇年以内ノ乙種農業學校ノ教場及別科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ分設スルコトヲ得

第十七條 甲種農業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ農業ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ専攻セントスル者ノ爲ニ専攻科ヲ置キ又更ニ高等ノ農業學校ニ入ラントスル者ノ爲ニ補習科ヲ設クルコトヲ得

第十八條 専攻科及補習科ノ修業年限ハ各二箇年以内トス

第十九條 甲乙兩種ノ農業學校ノ學科及第二十六條ノ學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得

第二十條 農業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限
- 三 授業日數
- 四 休業日
- 五 學科目及其程度
- 六 各學科目毎週授業時數

- 七 入學進學ノ規程
- 八 試驗法
- 九 實習ノ規程
- 十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)
- 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
- 十二 前各條ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十一條 農業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十二條 農業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツルキ相當ノ場所及實習用ニ供スルキ必要ノ農地ヲ設クルコトヲ要ス

第二十三條 農業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、圖書、園藝場等ノ附室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十四條 農業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、農具、標本、體操用具等ヲ備フルコトヲ要ス

第二十五條 農業學校、山林學校、獸醫學校及水産學校ハ第四條第八條ノ外總テ前各條ニ準ス

第二十六條 農業學校、山林學校、獸醫學校及水産學校ノ學科目ハ左ノ如シ

甲種ノ學校ニ在リテハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ農業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法規、無肥、園藝及其他ノ科目ヲ兼宜加設シ又土地ノ情況ニ依リ短期ノ教授ヲ必要トスル場合ニハ修身及實業ニ關スル科目ノ外一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得

甲乙兩種ノ學校ノ各學科ノ實業ニ關スル科目ハ左ニ掲グル事項ヨリ選擇シ又ハ兼宜分合シテ之ヲ定ム

- 一 農業學校ニ在リテハ農産肥料生理及病蟲害、養蠶及製蠶、製紙、桑樹

栽培、氣候、農學大意等

一 山林學校ニ在リテハ造林及森林保護、森林利用、森林測量及土木、測樹術及林價算法、森林經理、氣候、農學大意等

一 獸醫學校ニ在リテハ解剖及組織、生理、藥物及調劑法、蹄鐵法、及蹄病論、内科、外科、寄生動物、畜産、衛生、獸疫、産科、剖檢法等

一 水産學校ニ在リテハ水産動物植物、漁撈、製造、養殖、地文及氣象、漁撈製造用諸機械大意、漁船構造及運用等

附則

第二十七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條 明治二十七年文部省令第十九號簡易農學校規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

商業學校規程

明治三十二年二月 文部省令第十號

明治三十二年勅令第二十九號商業學校令第八條及第十三條ニ基キ商業學校規程ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

商業學校規程

第一條 商業學校ハ甲乙ノ二種トス

一 土地ノ情況ニ依リ甲種商業學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル商業學校ヲ設ケルコトヲ得

第二條 甲種商業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以内延長スルコトヲ得

第三條 甲種商業學校ノ授業時數ハ每週三十三時以内トス

第四條 甲種商業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算學、地理、歴史、外國語、經濟、法規、簿記、商品、商標要項、商業實踐、體操トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

第五條 甲種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第六條 乙種商業學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第七條 乙種商業學校ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第八條 乙種商業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、簿記、商標要項、體操トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

第九條 乙種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十一年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 甲種商業學校ニハ理科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 理科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 理科ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第十三條 理科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、外國語、理科、體操トス但理科ニ於テ理科及算術ヲ加設シヨルトキハ之ヲ缺クコトヲ得

第十四條 理科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 甲種商業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ肉體ニ關スル一科ヲ修メテハ理科ニテ卒業セントスル者ノ爲ニ算術ヲ附設スルコトヲ得

第十六條 商業學校ハ商業科ヲ限リ算術セントスル者ノ爲ニ算術科ヲ設ケルコトヲ得

第十七條 算術科及算術科ノ修業年限ハ各二箇年以内トス

第十八條 甲乙兩種ノ商業學校ノ學科及附屬學校ノ學科ヲ一校ニ併設スルコトヲ得

第十九條 商業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ得

一 學校ノ目的

二 修業年限

三 授業日數

四 休業日

五 學科目及其程度

六 各學科目毎週授業時數

七 入學試驗ノ規程

八 試驗法

九 貸附ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)

十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設ケル場合)

十二 前各條ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十條 商業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應ジ相當ノ教員ヲ設ケコトヲ要ス

第二十一條 商業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設ケルコトヲ要ス

第二十二條 商業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、商業實踐室、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十三條 商業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本、體操用具等ヲ備フルコトヲ要ス

附則

第二十四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十五條 明治十七年文部省令第一號商業學校通則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

商船學校規程

明治三十二年二月 文部省令第十一號

明治三十二年勅令第二十九號商業學校令第八條及第十三條ニ基キ商船學校規程ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

商船學校規程

第一條 商船學校ハ甲乙ノ二種トス

一 土地ノ情況ニ依リ甲種商船學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル商船學校ヲ設ケルコトヲ得

第二條 甲種商船學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス但實習ヲ課スルコトキハ相當ノ期間之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 甲種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 甲種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、算學、物理、地理、外國

語、圖畫、體操等ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外化學、法規其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲ケル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合セテ之ヲ定ムヘシ

一 航海科 運用品、航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二 船舶科 船舶構造、船舶製圖、力學、應用力學、電氣學大意等

三 一級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

四 二級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

五 三級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

六 四級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

七 五級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

八 六級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

九 七級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十 八級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十一 九級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十二 十級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十三 十一級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十四 十二級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十五 十三級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十六 十四級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十七 十五級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十八 十六級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

十九 十七級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十 十八級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十一 十九級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十二 二十級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十三 二十一年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十四 二十二年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十五 二十三年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十六 二十四年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十七 二十五年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十八 二十六年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

二十九 二十七年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

三十 二十八年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

三十一 二十九年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

三十二 三十年級航海科 航海術、航海術大意、海上氣象學大意、造船學大意

海上若クハ工場農園ニ有スル者其他海事ニ關スル學科日ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 甲種商船學校ノ學科及乙種商船學校ノ學科ヲ一校內ニ併置スルコトヲ得

第十七條 商船學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的

二 修業年限

三 授業日數

四 休業日

五 學科目及其程度

六 各學科目毎週授業時數

七 入學退學ノ規程

八 試驗法

九 賞罰ノ規程

十 授業科規程(授業料ヲ徵收スル場合)

十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設ケル場合)

十二 前各條ノ外學校管理上必要ノ事項

第十八條 商船學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應ジ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十九條 商船學校ニシテ校舍ヲ陸上ニ設置シタルトキハ其校地內若クハ其附近ニ於テ繫留船泊ヲ以テ校舍ニ代用スルトキハ陸上ニ於テ體操場ニ充テヘキ相當ノ場所ヲ設ケルコトヲ要ス

第二十條 商船學校ニ於テハ通常教室、特別教室、實習場、其他必要ノ設備ヲ備フルコトヲ要ス

第二十一條 商船學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機噐、標本、模型、實習用機噐及諸機噐、體操器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附則 第二十二條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

實業教育費國庫補助法

明治二十七年六月法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾等實業教育費國庫補助法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ國庫ノ每年度金二十五萬圓ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スルヘシ(明治三十一年六月法律第十八號ヲ以テ十七萬圓ヲ二十五萬圓ト爲ス)

第二條 公立ノ工業農林商船學校、特別學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金を交付スルヘシ(同法令ヲ以テ本條ヲ改ム)

第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル

第四條 補助金受テヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル必要ノ條件ヲ充タスモノニ限ル

第五條 此ノ法律ニ依リ補助金受テヘキ學校ノ設立者ハ補助金額其ノ學校經營ヲ繼續文出スルノ義務アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス前期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不慮當ナリト認ムルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ盡スコト前ハサルトキハ補助金額同ト量補助金停止若ハ停止スルコトヲ得

第七條 第二條ニ掲ケル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一條ニ掲ケル金額ヨリ五分ノ一以內ヲ支出シ其ノ費用ニ充テラルコトヲ得(同上)

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

實業教育費國庫補助法施行規則

明治三十三年三月 文部省令第二十號

明治二十七年文部省令第十四號實業教育費國庫補助法施行規則ヲ改正スルコトヲ左ノ如シ

實業教育費國庫補助法施行規則

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助金受ケントスルトキハ學校管理責任者ヨリ文部大臣ニ申請スルヘシ但シ實業補習學校ニ在リテハ明治三十三年文部省令第十二號實業學校設置停止規則第一條第一項各款ノ事項ヲ具スルヘシ

第二條 補助金受ケル學校ノ收支豫算ハ毎會計年度前ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但年度內ニ追加豫算ヲ請求シタルトキハ其都度文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 收支豫算ハ毎會計年度經過後府縣郡市町村會又ハ組合會ノ認定ヲ經テ上直ニ文部大臣ニ報告スルヘシ

第四條 補助金受ケル實業補習學校ニ於テ明治三十三年文部省令第十二號實業學校設置停止規則第一條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セんとスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第九號ノ事項ヲ變更セタルトキハ文部大臣ニ申請スルヘシ

第五條 道府縣郡市ニアラサル學校ノ管理者ニ異動アルトキハ其都度文部大臣ニ申請スルヘシ

第六條 道府縣郡市ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地方長官ヲ經由スルヘシ

第七條 申請書ヲ通過スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ付シ併シテ其地方實業ノ情況ヲ具申スルヘシ

第八條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第七條 此規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

實業教育費國庫補助金交付手續並補助金受ケル學校ノ豫算決算ニ關スル規程

明治三十三年三月文部省令第二十一號

實業教育費國庫補助法ニ依リ補助金交付ノ手續並補助金受ケル學校ノ豫算決算ニ關スル規定ヲ改正スルコトヲ左ノ如シ

實業教育費國庫補助法施行規則

第一條 實業教育費國庫補助金ハ補助金受ケル月ヨリ月計ヲ以テ計算ス

第二條 實業教育費國庫補助金ハ毎會計年度二期ニ區分シ當該年度ノ四月十日ニ交付ス但新ニ補助金許可シタル場合ニ於テ其期ヨリ算スル補助金ハ本文ノ期月ニ拘ラズ之ヲ交付ス

第三條 實業教育費國庫補助法施行規則第二條ノ收支豫算書ハ前年度豫算額及之ニ對シテ比較増減ヲ示シ且ツ其細目ニ就キ說明ヲ付スルヘシ

第四條 實業教育費國庫補助法施行規則第二條ノ收支豫算書ハ明治三十三年會計檢査院第四號書式ニ依リ調製シ正副二通ヲ提出スルヘシ

第五條 收支豫算書ニハ地方長官ニ於テ各科目ノ金額ト帳簿及附屬書トヲ對照シ其調齊一過ヲ調製シ之ヲ添付スルヘシ

第六條 基本財産ヲ有スル學校ハ前年度十二月末現在ノ種類數量及價格ヲ記載シ收支豫算書ニ添付スルヘシ

附則

第七條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第四章 中等教育

中學校令 明治三十二年二月

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 中學校令
第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應ジ一箇以上ノ中學校ヲ設

中學校編制及設備規則

- 第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者
第十四條 公立中學校職員ノ俸給及職務其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部
第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第十六條 公立中學校ニ於テハ教授料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於

- 第一條 一學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但特別ノ事情アルトキハ六百
第二條 一學校ノ生徒數ハ三百人以下トス
第三條 一學校ノ生徒數ハ三十五人以下トス但特別ノ事情アルトキハ五
第四條 一學校ノ生徒數ハ三十五人以上トス但特別ノ事情アルトキハ五
第五條 舍監ハ二人以上トシ生徒數ニ應ジテ相當ノ員數ヲ備フヘシ
第六條 書記ハ二人以上トシ學校ノ事務ニ差支ナキ相當ノ員數ヲ備フ

第二十四條 既設中學校ノ體操場ニシテ特別ノ事情ニ依リ第二十二條第二號ノ期限内ニ修正ヲ爲スコト能ハサルトキハ此規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ文部大臣ノ認可ヲ受テ修正期ヲ延期スルコトヲ得

第二十五條 第一條第二號第九條第十五條又ハ第十八條ニ規定セル既設中學校ノ編制及設備ハ此規則施行ノ日ヨリ一箇年以上ノ期限内ニ修正セントスルトキハ此規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其計畫ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

中學校ニ於テ臨時ニ一箇月以上休業セントスル時ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘキノ件

明治三十二年二月 文部省令第四號

「尋常」中學校ニ於テ臨時ニ一箇月以上休業セントスルトキハ公立中學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立中學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ理由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

高等女學校令

明治三十三年二月 勅令第三十一號

高等女學校令ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム

第一條 高等女學校ハ女子ニ必要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應ジ文部大臣ノ指揮ヲ奉ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及府縣ニ於テハ外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村(北海道及府縣ノ區々)又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ必要ニシテ其區域内小學教育施設上妨ケル場合ニ限リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置停止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

第八條 公立高等女學校ノ設置ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業タル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝科ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ其條件ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 高等女學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニシテ地方長官ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

第十五條 高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タル者ニシテ其ノ者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本令ノ規程外ニ有キ者ヲ以テ之ニ充テラレトコトヲ得

高等女學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料ハ學科等ニ關スル規則ハ公立中學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立中學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

高等女學校編制及設備規則

明治三十二年二月 文部省令第五號

高等女學校編制及設備規則

第一條 一學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ増員スルコトヲ得

第二條 一學校ノ生徒數ハ三十五人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ五十八人マテ増員スルコトヲ得

第三條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スヘシ

修身、算術、音樂、體操及手藝ニ限リ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ教授スルコトヲ得

第四條 教員ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級ニ付二人以上トシ五學級以上ノ學校ニ於テハ一學級以上ノ割合ヲ以テ増員スヘシ但シ一學

級ニ付少クモ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヨリ兼務セザレトコトヲ要ス

第五條 校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル面積ヲ有シ道端上位ニ衛生上ニ當ラザル所タルヘシ

第六條 校舎ハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 生徒各學級ニ應ジテ通常教室

二 理科、裁縫、圖畫、音樂等ノ各特別教室

三 兩中體操場

四 講堂

五 圖書室、器樂室、標本室

六 職員室、生徒控室、其他所要ノ諸室

前項ノ諸室ハ必要ナル限リニ於テ兼宜兼用スルコトヲ得

第七條 教室ノ大サハ一學級ノ生徒ヲ容ルルニ足ルサ度トシ生徒一人ニ付容積百二十立方尺以上トス

第八條 道廳府縣立高等女學校ニ於テハ寄宿舎ヲ設ケヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ設ケザルコトヲ得

第九條 寄宿舎ニハ自修室、浴室、盥洗室、廁所、給食室、調理室、浴室、禮堂等ヲ備フヘシ但シ自修室及禮堂ハ便宜之ヲ兼用スルコトヲ得

第十條 自修室ハ生徒一人ニ付容積三百二十四立方尺以上禮堂ハ四百八十六立方尺以上トス

第十一條 校地内ニ成ルヘク學校長、教員、舎監ノ住宅ヲ設ケヘシ

第十二條 圖書、器樂、標本、標置等ハ高等女學校ノ學科ヲ數授スルニ必要ナル之ヲ備フヘシ

附 則

第十三條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 既設高等女學校ニシテ第一條ノ規定ニ依リ種々事情アルトキハ明治三十二年三月三十一日マテニ其事由ヲ具シテ文部大臣ノ指揮ヲ受ケルヘシ

第十五條 既設高等女學校ニシテ第六條乃至第十條ノ規定ニ依リ種々事情

既設高等女學校生徒ノ入學資格ニ關スル件

既設高等女學校ニ於テ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令第十條ノ規定ニ依リ其入學資格ニ變更ヲ生シタルトキハ其現在生徒ニ就キテハ該生徒既修ノ學科及其程度ヲ明治三十二年文部省令第七號高等女學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ニ對照シ其相當學年ヲ定ムヘシ但現在生徒ニシテ高等女學校令第十條ノ入學資格ニ該ラサル者アルトキハ明治三十三年三月三十一日マテ在學セシムルコトヲ得

中學校及高等女學校設置廢止規則

明治三十二年勅令第二十八號中學校令第七條及同年勅令第三十一號高等女學校令第七條ニ基キ中學校及高等女學校設置廢止規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

中學校及高等女學校設置廢止規則

第一條 中學校又ハ高等女學校ヲ設置セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ

- 一 名稱
- 二 位置(私立學校ニ限ル)
- 三 學則
- 四 生徒定員
- 五 收入支出豫算表
- 六 職員數及俸給額ノ豫定
- 七 設立者ノ履歷(私立學校ニ限ル)

第七條 中學校分校ノ設置廢止等ニ關シテハ此規則ヲ適用ス

第八條 此規則ハ明年三月二十二日四月一日ヨリ施行ス

第五章 大學校及大學院

帝國大學令

第一條 帝國大學ハ國家ノ要ニ應ズル學術技術ヲ教授シ及其發展ヲ促進スルヲ以テ目的トス

第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技術ノ發展ヲ促進シ分科大學ハ學術技術ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授ク

第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入リ學術技術ノ發展ヲ促進シ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ學位ヲ授ク

第五條 帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學内部ノ秩序ヲ保持ス

第六條 帝國大學ニ評議會ヲ設ク

評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス

第七條 教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之ヲ命ス

前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再選セラレルコトヲ得

第八條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス

- 第一 各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件
- 第二 講座ノ種類ニ付諮詢ノ件

八 法人又ハ組合ノ設立ニ係ルモノハ其寄附行為、定款又ハ組合契約及其沿革但寄附行為又ハ定款ニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ添付ヲ要セス

公立學校ニ關シテハ地方長官ハ同時ニ位置ヲ選定シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第一項第一號乃至第四號及公立學校位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第八號ノ變更ハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第二條 學則ニハ少クトモ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 學年、學期、休日ニ關スル事項
- 二 學科課程、授業時間ニ關スル事項
- 三 試驗ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入退學ニ關スル事項
- 五 授業料ハ學科等ニ關スル事項
- 六 宿費ニ關スル事項
- 七 寄宿舎ニ關スル事項
- 八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 中學校又ハ高等女學校ノ校舍、寄宿舎ヲ設ケントスルトキハ校舍、寄宿舎及校地ノ周圍ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項校舍ノ周圍ハ其所有者、團體、地主、團體、區區及團體並ニ附近ノ情況ヲ記載シ且飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

校地、校舍又ハ寄宿舎ヲ變更セントスルトキハ其部分ニ係ル周圍ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第四條 學校長ヲ任免シタルトキハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ其都度文部大臣ニ開申スヘシ但任用ノ場合ニハ履歷書ヲ添付スヘシ

第五條 中學校又ハ高等女學校ヲ廢止セントスルトキハ其事由並ニ生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ

第六條 道廳府縣立ニアラザル中學校並ニ高等女學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但設置廢止ノ稟申ニ關シテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ

第三 大學内部ノ關係但勅令又ハ省令ヲ設スルノ必要アルモノハ其ノ範圍案

第四 學位授與ノ件

第五 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大学文科大學理科大學農科大學トス

第十條 分科大學長ハ分科大學ノ學術ヲ總理ス

第十一條 各分科大學ノ教官ハ教授及助教授トス

第十二條 必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ評議員ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上成績アル者ニ對シ勳章ニ由リ又ハ文部大臣ノ發給ニ由リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條 各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス

第十五條 分科大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第十六條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

- 第一 分科大學ノ學科課程ニ關スル件
- 第二 學生試驗ノ件
- 第三 學位授與資格ノ審定
- 第四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

第十七條 分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教授又ハ囑託教授ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十八條 各分科大學ニ講座ヲ設ケ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム

教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教授又ハ囑託教授ヲシテ講座ヲ擔任セシムルコトアルヘシ

第十九條 講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

帝國大學改稱ノ件

明治三十年六月勅令第二百八號
帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱ス

京都帝國大學設置ノ件

明治三十年六月勅令第二百九號
朕京都帝國大學ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 京都帝國大學ヲ置キ京都帝國大學ト稱ス
第二條 京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學
醫科大學文科大學及理工科大學トス
第三條 京都帝國大學ノ分科大學及分科大學中ノ各學科開設ノ期日ハ文
部大臣之ヲ定ム

東京帝國大學大學院規程

第一條 大學院ニ入ル學生ハ其特ニ攻究セント欲スル學科ヲ定メテ帝國
大學總長ニ願出シシテ學力優等品ヲ呈正シテ限リ評議會ノ議ヲ經テ
之ヲ許可ス
第二條 帝國大學總長ハ大學院學生ノ攻究セント欲スル學科ノ主管分科
大學長ニ諮詢シ教授ノ中ヨリ其指導ヲ擔當スヘキモノヲ指定シ學生ハ
其指導ニ從ヒ攻究ノ業ニ從事スルモノトス
第三條 大學院學生ハ學術若クハ技術攻究ノ爲メ入學ノ初メ二箇年開分
科大學ニ於テ研究生タルヲ要ス
第四條 大學院學生ノ學位試驗ハ大學院入學五箇年ノ後帝國大學總長特
ニ委員ヲ選定シテ之ヲ行フ
第五條 大學院學生ニシテ其攻究期限內ニ於テ品行不具學業懈怠若クハ
疾病ニ罹リ成業ノ目的ヲ失フ者ハ之ヲ除名ス

東京帝國大學大學院入學規程

第六條 大學院學生ハ授業料ヲ徵收セス
第一條 分科大學卒業生ニシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ卒業後
第一號書式ノ願書ヲ其分科大學長ヲ經テ帝國大學總長ニ出スヘシ
第二條 分科大學ノ卒業生ニアラスシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ
第二號書式ノ願書ニ卒業履歷書(及第三條ニ掲タル卒業證書アルモノ
ハ其證書)ヲ添ヘ毎年三月三十一日マテニ帝國大學總長ニ出スヘシ
第三條 前條ノ願書者ハ大學院規程ニ依リ學力檢定ノ試問ヲ受ケ且高等
學校大學預科若クハ之ニ準スル學科ノ設ケアル高等中學校又ハ文部大
臣ニ於テ大學預科ニ準スル學科程度ヲ具備スルト公認シタル學校ノ卒
業證書ヲ受領シタル者ニアラザレバ更ニ學業試問ヲ受ケヘキモノ
トス
第四條 第二條ノ願書者ハ受驗料金三拾圓ヲ帝國大學會計課ニ納ムヘシ
但シ試問施行ノ前ニ於テ自己ノ都合ニ依リ入學願ノ取消ヲ乞フコト
アルトキハ其受驗料ヲ返付ス
第五條 入學許可ヲ得タルモノハ書式ヲ行ヒ大學院學生證ニ記名スヘシ
(書式ハ之ヲ準ム)

第六章 師範教育

師範教育令 明治三十年十月
勅令第三百四十六號
朕師範教育ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 高等師範學校ハ師範學校規程中學校及高等女學校ノ教員タルヘ
キ者ヲ養成スル所トス
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ

養成所トス

第一條 師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
前二項ニ記載シタル學校ニ於テハ順其信愛誠重ノ德性ヲ涵養スルコト
ヲ務ムヘシ
第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範
學校ハ北海道及各府縣ニ一校若クハ數校ヲ設置ス
第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範
學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
第四條 師範學校ノ經費ハ(北海道及沖繩縣ヲ除ク)府縣稅又ハ地方稅ノ
負擔トス
第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後
ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學費ハ文部大
臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ
前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學費生テ置クコトヲ得
第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並
ニ教科書ハ文部大臣之ヲ定ム
第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保母講習科ヲ置ク
コトヲ得
附則
第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範
學校ト改正セラレタルモノト看做ス

尋常師範學校設備規則

明治二十五年七月文部省令第十二號
明治十九年(四月)勅令第十三號師範學校令第五條ニ基キ尋常師範學校設

第十條 尋常師範學校ニ附屬小學校ヲ設ケルハ附屬小學校ノ設備ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 女生徒ノ爲ニ尋常師範學校ニ便宜附屬幼稚園ヲ設ケルヘシ

第十二條 土地ノ情況ニ依リ便宜學校長舎監舎ノ住宅ヲ設ケルヘシ

第十三條 學校ノ位置ヲ選定シ又ハ校舍ヲ建築スルニハ地方長官ニ於テ敷地建物ノ圖面坪數飲料水ノ定性分析表建築ノ設計及學校近傍ノ情況等ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受ケルヘシ

●師範學校生徒定員

明治三十年十月勅令第三百七十七號

師範學校生徒定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 師範學校ハ道府縣管内學齡兒童數三分ノ一ニ對シ一學級七十名ノ割合ヲ以テ算出スル全年級數ノ二十分ノ一以上ニ相當スル卒業生ヲ出スニ足ルヘキ生徒ヲ毎年募集スルヘシ

第二條 男女生徒員數ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ニ開申スルヘシ

第三條 地方ノ情況ニ依リ女生徒ヲ置カサルトキハ其事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ルヘシ

附則

第四條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

設備ノ都合ニ依リ已ムテ得ザル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項期限ヨリ一箇年以内生徒定員ニ關スル從前ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

●尋常師範學校生徒募集規則

明治二十五年七月文部省令第十號

明治十九年(五月)文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校生徒募集規則

第一條 (前條)

第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其身體品行學力等ヲ檢定シテ之ヲ選ブヘシ

一 身體健全品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ナリト認ムル者

二 尋常小學校ノ本科准教員タルヘキ免許狀ヲ有シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

三 男子ハ年齡十六年以上二十年未満女子ハ年齡十五年以上二十年未満ノ者但特別ノ事情アルトキハ二十年以上二十五年以下ノ者ヲ入學セシムルコトヲ得

第三條 尋常師範學校ノ各學級ニ缺員アルトキハ前條第一款ノ資格ヲ有シ學力年齡トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第四條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スルヘシ但土地ノ情況ニ依リ第二種ノ生徒ヲ募集セザルコトヲ得

第一種 郡長市長ノ推薦ニ依ル者

第二種 直ニ尋常師範學校ニ願出タル者

前項ノ郡長市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ郡長市長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スルヘキ者之ヲ行フヘシ

第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ四箇月以内應ニ入學セシムル其性質品行等ヲ檢定シ適當ト認ムルモノニ限リ入學ヲ許可スルヘシ但尋常師範學校ノ候補科卒業生ヲ入學セシムル場合ニ於テハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第六條 此規則ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムルヘシ

●師範學校私費生規則

明治二十年十月文部省令第二十二號

師範學校私費生規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 師範學校ニ於テ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

第二條 私費生ハ文部省令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルモノノ外總テ公費生ト同シキモノトス

第三條 私費生ニ關シ必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第四條 此省令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●尋常師範學校ニ於テ支給スルヘキ生徒ノ學費ニ關スル規定

明治二十四年十一月

明治十九年(四月)勅令第十三號師範學校令第九條ニ依リ尋常師範學校ニ於テ支給スルヘキ生徒ノ學費ハ食物被服及雜費ノ三種目トシ其支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經ルヘシ但明治二十五年度ニ在リテハ其經費豫算ノ決定シタルモノハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス

明治十九年(六月)文部省令第四號ハ廢止ス

●尋常師範學校退學生徒學費償還方

明治二十二年十月

尋常師範學校生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命スルモノアルトキハ在學中給與シタル學費ヲ償還セシムヘシ

●尋常師範學校卒業生服務規則

明治二十五年七月

明治十九年(五月)文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則ヲ改正ス

尋常師範學校卒業生服務規則

第一條 尋常師範學校卒業生ハ左ノ服務年限其道府縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但第二條ノ義務ヲ卒業タル者ハ小學校ニテアラサル公立公立學校教員ノ職務ヲハ服務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得

一 男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十年トス

二 女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五年トス

第二條 義務ヲ卒業タル者ニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ得

第三條 尋常師範學校卒業生ニシテ第一種ノ生徒タル者ハ其服務年限(郡市區内ニ適當ノ地位ヲキトキニ限リ)ニ於テ第二種ノ生徒タル者ハ其道府縣内ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官府縣知事ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

一 男子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五年間

二 女子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二年間

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ卒業タル者ハ其服務年限中其其理由ヲ具長官府縣知事ニ提出スルヘシ

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ履行スルハサレノ事故アル者ハ其理由ヲ具シテ北海道廳長官府縣知事ノ指撥ヲ請フヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ第一條第二條ニ依リ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ許可スル者又ハ前項ニ依リ義務ヲ免除スル者ニ就キ其情狀ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ一部ヲ償還セシムルコトヲ得

第五條 尋常師範學校卒業生ハ其服務年限中毎年米服務ノ情況ヲ當該尋常師範學校ニ報告スルヘシ又服務ヲ卒業タル後ト雖其身分職業等ニ異動ヲ生シタルトキハ其程度報告スルヘシ

第六條 尋常師範學校卒業生服務中ノ者ニシテ左ニ掲タルモノアルトキハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府縣知事ハ在學中給與シタル學費ノ全部

若クハ幾部ヲ償還セシムヘシ
 一 罰ノナク第一條第二條ノ義務ヲ盡ササル者
 二 免許狀觀覽ノ處分ヲ受ケタル者
 第七條 此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

尋常師範學校卒業生服務年限ニ關スル件
明治三十一年二月 文部省令第四號

明治二十五年文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第一條ノ服務年限ハ私費卒業生ニ關シテハ男子卒業生ハ三箇年、女子卒業生及同科卒業生ハ二箇年トス又同條第一項但書、第二項及第三條ハ私費卒業生ニ適用セズ

高等師範學校生徒募集規則
明治三十年七月文部省令第十號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ヲ改正スルコト左ノ如シ
高等師範學校生徒募集規則
 第一條 高等師範學校本科生徒及官費專修生ハ尋常師範學校官立尋常中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ノ學力ヲ有シ且テ私立尋常中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ願フ高等師範學校校長其ノ中ヨリ試驗ノ上選拔スルモノトス
 第二條 高等師範學校本科生徒及官費專修生ハ毎年一回之ヲ募集シ其ノ期日及員數ハ其ノ都府縣尋常師範學校ノ地方長官ニ通知スルモノトス
 第三條 第一條ニ依リ募集スルモノノ外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試驗ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 新學生ハ四月以内限ニ入學セシム其ノ費品行等ヲ觀察シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可スルモノトス
 第五條 研究私費專修生及預科生ノ募集ニ關スル規程ハ高等師範學校長之ヲ定ム文部大臣ノ許可ヲ受ケルヘシ
附則
 第六條 明治二十七年文部省令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
〔參照〕 明治二十七年文部省令第二號ハ高等師範學校生徒募集方ノ件ナ

女子高等師範學校生徒募集規則
明治三十年十月 文部省令第二十二號

女子高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
女子高等師範學校生徒募集規則
 第一條 女子高等師範學校本科生徒及官費專修生ハ師範學校女子部、他學年限四箇年ノ高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ願フ女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試驗ノ上選拔スルモノトス但本科生徒ハ年齡十七年以上二十二年未満ニシテ夫ヲ有セザル者ニ限リ
 第二條 女子高等師範學校本科生徒ハ毎年一回官費專修生ハ臨時之ヲ募集ス其ノ期日及員數ハ其ノ都府縣女子高等師範學校ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス
 第三條 第一條ニ依リ募集スルモノノ外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試驗ノ上入學セシムルコトヲ得
 第四條 新學生ハ四月以内限ニ入學セシム其ノ費品行等ヲ觀察シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可スルモノトス但入學ノ生徒ハ自費トス
 第五條 研究生私費專修生及預科生ノ募集ニ關スル規程ハ女子高等師範

學校長之ヲ定ム文部大臣ノ許可ヲ受ケルヘシ

第六條 明治二十六年文部省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
〔參照〕 明治二十六年文部省令第十一號ハ高等師範學校女子高等師範學校生徒補充ニ關スル規定ナリ

高等師範學校卒業生服務規則
明治三十年七月 文部省令第十一號

明治十九年文部省令第十九號高等師範學校卒業生服務規則ヲ改正スルコト左ノ如シ
高等師範學校卒業生服務規則
 第一條 高等師範學校本科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其ノ間教育ニ關スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年同ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
 第二條 高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年トシ其ノ間教育ニ關スル義務ニ從事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年同ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
 第三條 第一條第二條ノ義務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ提出シ
 第四條 第一條第二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得
 第五條 第一條第二條ノ卒業生ハ其ノ服務年限中毎年末服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ
 第六條 第一條第二條ノ卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾分ヲ償還セシム
 一 第一條第二條ノ義務ヲ盡ササル者但第四條ニ依リ文部大臣ノ許可

女子高等師範學校卒業生服務規則
明治三十年七月 文部省令第十二號

ナ得タル者ハ學費ノ全部若クハ幾部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
 二 服務年限中疾病免狀又ハ免許狀觀覽ノ處分ヲ受ケタル者
 第七條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ分科大學高等師範學校研究私費專修科及預科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ
 指定義務ヲ終リタル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス
附則
 第八條 明治十九年文部省令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
〔參照〕 明治十九年文部省令第六號ハ師範學校卒業生服務規則ニ從事スル者服務ノ狀況報告方ノ件ナリ

第五條 卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ一部ヲ償還セシム

一 第一條ノ義務ヲ盡シサル者但第三條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學費ノ全部若クハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

二 服務年限中懲戒免職又ハ免狀狀課ノ處分ヲ受ケタル者

第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ研究科專修科及講科ニ入學志願ノ者アルトキハ時立ニ依リ許可スルコトアルヘシ

指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルコトアルヘシ

第七章 學校職員

●小學校教員檢定等ニ關スル規則

明治二十四年十一月 文部省令第十九號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第五十五條ニ基キ小學校教員檢定等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一章 府縣ニ於ケル檢定等

第一條 小學校教員檢定委員ハ府縣官更並ニ尋常師範學校長及教員ヲ以テ組織シ府縣知事ノ之ヲ命スヘシ

府縣知事ハ檢定委員中ニ該委員長ヲ命スヘシ

第二條 小學校教員檢定委員ハ此規則ニ依リ檢定ヲ行ヒ委員長ヨリ其成員ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第三條 府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ相當ノ免狀狀ヲ授與スヘシ但第七條第七款ニ該當スル者ニ正教員免狀狀ヲ授與スル場合ニハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ經ヘシ

第四條 正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 准教員ノ免狀狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシモノ但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス

二 年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上

三 身體健全

四 品行方正

第五條 准教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ十七年以上女子ハ十五年以上

二 身體健全

三 品行方正

第六條 檢定ハ之ヲ別チテ左ノ二種トス

甲種 認定

乙種 試驗

第七條 甲種ノ檢定ハ左ノ諸條ノ者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ該條ノ科目及程度ヲ參照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校教員免狀狀ハ檢定ハ之ヲ行ハス

一 高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生

二 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免狀狀ヲ受ケタル者

三 文部省直轄諸學校ニ於テ其科目ニ關シテ該員ノ職ニ關スル教育ヲ受ケタル卒業生

四 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免狀狀ヲ有スル者

五 從前ノ成績ニ依リ小學校教員免狀狀又ハ小學校教員免狀狀ヲ受ケタル者

六 准教員ノ免狀狀ヲ有スル者

七 其他學力品行等ニ關シテ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認ムル者

第八條 乙種ノ檢定ハ學力ノ試驗ヲ行フモノトス但尋常小學校教員免狀狀ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

第九條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其程度ハ左ノ如シ但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分ニ該科トシテ得又或ハ女子ニ限リ人倫道徳ノ要旨

教育 教授ノ原理學校管理ノ方法及實施地 國語 尋常師範學校ノ程度ニ準ス 算術 尋常師範學校ノ程度ニ準ス 地理 日本地理外國地理ノ大要 歴史 日本歴史ノ大要 習字 楷書行書草書 圖畫 自在畫法ノ大要 音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要 體操 普通體操及兵式體操(男子ニ限ル) 縫紉 通常衣服ノ縫方裁方

尋常小學校本科准教員ノ試驗科目ハ前項ニ同シ其程度ハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第十條 高等小學校本科男教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、漢文、數學、簿記、地理、歴史、博物、物理、化學、習字、圖畫、音樂、及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分ニ該科トシテ得前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第十一條 高等小學校本科女教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、數學、地理、歴史、理科、家事、習字、圖畫、音樂、及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分ニ該科トシテ得

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第十二條 高等小學校專科教員ノ試驗科目ハ圖畫、音樂、體操、縫紉、家事、手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目トス但何レノ科目ニ就キテモ授業法ヲ附帶シテ試驗ヲ行フモノトス

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ニ於ケル程度ト同等以上ノ准教員ニ關シテハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

專科正教員ニ就キテハ讀書、習字及算術ニ關シテ普通ノ學力ヲ有スル者ニ非サルハ試驗ヲ行ハス

第十三條 左ニ掲グル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請フ者ハ其學力ヲ第九條乃至第十二條ニ該條ノ科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルコトアルヘシ

至第十二條ニ掲グル科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルコトアルヘシ

一 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免狀狀ヲ受ケタル者

二 文部省直轄諸學校ニ於テ其科目ニ關シテ該員ノ職ニ關スル教育ヲ受ケタル卒業生

三 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免狀狀ヲ有スル者

四 從前ノ成績ニ依リ小學校教員免狀狀又ハ小學校教員免狀狀ヲ受ケタル者

五 准教員ノ免狀狀ヲ有スル者

六 中學校卒業生

七 文部大臣ニ於テ尋常中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル小學校ノ卒業生

第十四條 正教員ノ免狀狀ハ其府縣限リ其員有數トス

准教員ノ免狀狀ハ其府縣限リ有數トス其有數期限ハ七箇年以内ニ於テ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第十五條 府縣知事ハ小學校教員候補者ノ名簿ヲ作リ免狀狀ヲ授與シタル者アル都度其氏名等ヲ之ニ登錄スヘシ

府縣知事ハ前項ノ登錄ヲ了リタルトキハ其氏名等ヲ管内ヘ告知スヘシ

第十六條 小學校教員免狀狀ヲ有スル者現ニ該員ノ職ニ在ラザルモ免狀狀ヲ復舊セラルヘキ教員ト同權ノ行為アルトキハ府縣知事免狀狀ヲ復舊スヘシ此場合ニ於テハ其族譜氏名簿等由テ具シテ文部大臣ニ關申スヘシ

第十七條 府縣知事ハ檢定ヲ請フ者及免狀狀ヲ受ケタル者ヲ之ニ相當ノ手数料ヲ納メシムルコトヲ得

第十八條 免狀狀ノ格式ハ左ノ如シ但准教員免狀狀ノ格式ハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第十九條 本科教員免狀狀ヲ有シテ圖畫、音樂、體操、家事、手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目ヲ教授シ得ル者ハ專科教員トシテ得ルモノトス

第二十條 此規則ニ關スル規則ハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第二章 文部省ニ於ケル檢定等

第二十一條 左ニ掲ケル者ハ府縣知事文部省直轄學校長等ノ具申ニ基キ文部大臣之ヲ檢定シテ小學校教員普通免許狀ヲ授與ス

一 小學校正教員免許狀又ハ從前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀若クハ小學校正教員卒業證書ヲ受得シ五箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リテ品行方正ニシテ學術及授業適格ノ者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校卒業生ニシテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者

三 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生ニシテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者

小學校教員普通免許狀ハ全國ニ適シテ終身有效ノモノトス

第二十二條 第十六條及第十九條ノ規程ハ小學校教員普通免許狀ヲ有スル者ニ關シ之ヲ適用ス

第二十三條 小學校教員普通免許狀ノ書式左ノ如シ

(書式ハ之ヲ參ス)

●私立小學校ニ於テ一箇年以
上准教員ノ職ニ在リシ者ハ
正教員ノ檢定出願資格ニ依
準シ取扱フノ件

明治二十六年三月
文部省令第三號

市町村立小學校ニ代用スル私立學校又ハ設立以來三箇年ヲ経過シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ教育上相應ノ成績アリト認ムル私立小學校ニ於テ一箇年以上准教員ノ職ニ在リシモノハ明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第四條第一款ニ準シ取扱フコトヲ得

●小學校教員檢定等ニ關スル
規則第七條第一第三第四ニ
掲ケル者等ノ檢定方

明治二十七年三月文部省令第九號

一 明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第七條第一第三第四ニ掲ケル者ハ資格ヲ具フルコトヲ要セス

二 小學校教員檢定等ニ關スル規則第十三條ハ高等師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ヲ修リタル者及高等女學校卒業生ニ適用ス

三 小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ乙種檢定ヲ受ケタル者其ノ試題ニ合格セザルモ一部ノ成績優良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ三箇年間有效ノ證明書ヲ授與シ其ノ有効期間ニ於テ更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載セタル部分ノ試題ヲ缺クコトヲ得

●小學校教員檢定等ニ關スル
規則施行以前ニ授與シタル
小學校教員免許狀等ノ有效
延期

明治二十六年三月
文部省令第三號

明治二十四年十一月文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則施行以前ニ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校正教員卒業證書ニシテ同規則施行以後ニ有效期限ノ滿タルモノヲ所持スル者ニ於ケルハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ免許狀又ハ卒業證書ノ有效期限ヲ同規則施行ノ時ヨリ起算シ五箇年以内ニ延期スルコトヲ得

●小學校教員檢定等ニ關スル
規則施行以前ニ授與シタル
小學校教員免許狀等ノ有效
延期滿了後更ニ延期方

明治二十九年十月文部省令第十號

明治二十六年文部省令第三號ニ依リ有效期限滿シタル小學校教員免許狀又ハ小學校正教員卒業證書ヲ所持スル者ニ就キテハ地方長官ニ於テ其學力及經歷ヲ調査シ免許狀又ハ卒業證書ノ有效滿期後更ニ延期ヲ定メ若クハ期限ヲ定メス當分ノ内延期スルコトヲ得

●尋常師範學校尋常中學校高
等女學校教員免許規則

明治二十九年十二月文部省令第十二號

尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ハ文部省ノ檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス但左ニ掲ケル者ニハ文部大臣ノ適當ト認ムル科目ニ限リ當該學校長ノ稟申ニ依リ教員免許狀ヲ授與ス

一 高等師範學校及女子高等師範學校卒業生

一 高等師範學校及女子高等師範學校專修科 攝科卒業生、高等師範學校附屬音樂學校師範部卒業生

一 東京美術學校特別課程卒業生

一 元東京音樂學校師範部卒業生

一 元體操傳習所卒業生

●檢定ハ試驗ニ依リ之ヲ行フ但第十條ニ掲ケル者ニシテ試驗ヲ要セズト認メタルモノハ此限ニテナス

第二條 檢定ハ試驗ニ依リ之ヲ行フ但第十條ニ掲ケル者ニシテ試驗ヲ要セズト認メタルモノハ此限ニテナス

試驗ヲ分テテ試驗試驗、本試驗ノ二種トシ試驗試驗ハ圖書經由ノ地方廳長官ニ於テ之ヲ行ヒ本試驗ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ但東京府廳長官出願シタル者ノ試驗試驗ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ又試驗試驗ニ合格セタル者ニアラザレバ本試驗ヲ受ケルコトヲ得ス尤モ學科ノ種類ニ依リ又ハ學科目ヲ限リテ試驗ヲ施行スル場合ニアリテハ試驗試驗者ヨリアルヘシ(明治三十一年十月文部省令第二十二號ヲ以テ本項改正)

第三條 試驗ハ毎年一回第九條ノ各學科目ヲ通シテ施行スルモノトシ時宜ニ依リテハ其學科目ヲ限リテ施行スルコトアルヘシ

第四條 試驗施行ノ場所期日等ハ檢定委員之ヲ告示ス

第五條 檢定ハ文部大臣ノ命シタル檢定委員之ヲ行フ

第六條 檢定ヲ出願スル者ハ年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上身體健全品行方正ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セザルモノアルヘシ(同上法令ヲ以テ本條改正)

一 重罪ヲ犯シタル者但國家犯ニシテ復讐シタル者ハ此限ニテアラハス

二 定役ニ關スルハ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若クハ家産分割ノ宣告ヲ受ケ復讐セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第七條 檢定ヲ出願スル者ハ族籍、氏名、住所、生年月日及志願ノ學校、學科目ヲ記シタル願書(願書式)ニ左ノ事項ヲ添ヘ地方廳長官(地方廳長官ハ差出スル地方長官ハ本人ノ品行ニ就キ意見ヲ附記スルコトヲ要ス)

一 學業、職務、實績等ニ關スル履歷書(願書式)及學業證書、免許狀ノ寫

二 明治三十一年勅令第二號ニ依リ囑託セラレタル學校及ノ身體検査
 令第七號第一條若クハ第二條ニ該當スル資格アル教師ノ検査書ヲ以
 テスルモ妨ケナシ又實地身體ノ検査ヲ必要ト認メタル者ニ就キテハ
 試驗ノ際檢定委員之ヲ施行ス(同上法令ヲ以テ本條ヲ改正)

第八條 檢定ヲ出願スル者ハ其一學校ニ限レモノトス(二學校以上ニ涉ル
 ノトニ拘ハラス出願學科一科目ニ付檢定手数料金貳圓二科目以上ハ
 一科目毎ニ金壹圓ヲ加ヘ納ムヘシ但第十條第一項ニ依リ檢定ヲ出願
 スル者ハ檢定料ヲ納ムルヲ要セス)

左ノ各款ニ記載セル一學科目若クハ數學科目ノ檢定ヲ出願スル者ハ前
 項ノ檢定手数料ニ關シテハ其一款ヲ以テ一學科目ト同視ス

一 歷史 算術代數幾何 萬國史
 一 數學 算術代數幾何 萬國史
 一 毛筆畫及用器畫 毛筆畫
 一 鉛筆畫及用器畫 鉛筆畫

第九條 檢定ハ左ノ學科目ニ就キテ行フ
 尋常師範學校教員檢定學科目

倫理	國語	國語	漢文
地理	地誌	地誌	漢文
物理	生理	化學	植物
動物	生理	礦物	植物
毛筆畫及用器畫	普通體操	鉛筆畫及用器畫	習字
音樂	佛語	兵式體操	英語
手工	佛語	農業	英語
尋常中學校教員檢定學科目			
倫理	國語	漢文	漢文
地理	國語	地誌	漢文
物理	生理	化學	植物
動物	生理	礦物	植物
毛筆畫及用器畫	普通體操	鉛筆畫及用器畫	習字
音樂	佛語	兵式體操	英語
手工	佛語	農業	英語
植物	生理	礦物	植物
化學	漢文	植物	植物
動物	漢文	植物	植物
植物	漢文	植物	植物
植物	漢文	植物	植物

毛筆畫及用器畫 鉛筆畫及用器畫
 唱歌 普通體操 兵式體操 英語
 國語 佛語 農業 商業

尋常師範學校女子部教員檢定學科目(同上法令ヲ於テ本科日中改正)

修身 教育 國語 漢文
 日本史 萬國史 地理 地誌
 算術、代數、幾何、物理、化學、植物、動物、生理、礦物
 家事 習字 毛筆畫
 鉛筆畫及用器畫 習字 普通體操

高等女學校教員檢定學科目(同上)

修身 國語 漢文 日本史
 萬國史 地理 地誌 算術、代數、幾何
 家事 習字 毛筆畫
 鉛筆畫及用器畫 習字 普通體操

第十條 左ノニ掲ケル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シテ
 二掲ケル者ハ其免許ノ學科目ニ關シテ三掲ケル者ハ其教授シタル學科
 目ニ關シテ試驗ヲ須キスレバ檢定ヲ行ヒ免許スルコトヲ得ヘシ(同上法
 令ヲ以テ改正)

一 帝國大學分科大學卒業生
 帝國大學農科大學實科卒業生
 元東京大學卒業生
 元工部大學卒業生
 帝國大學分科大學預科畢業生
 帝國大學文科大學元古典語言科畢業生
 帝國大學理科大學元醫藥科畢業生
 帝國大學農科大學元農學科畢業生
 高等學校卒業生

元高等中學校卒業生
 札幌農學校卒業生
 元駒場農學校卒業生
 元東京農林學校卒業生
 高等商業學校卒業生
 元東京商業學校卒業生
 東京工業學校卒業生
 工業教員養成所卒業生
 元東京職工學校卒業生
 東京美術學校卒業生
 高等師範學校附屬音樂學校卒業生
 元東京音樂學校卒業生
 高等商業學校附屬外國語學校卒業生
 學習院高等科大學科卒業生

二 教員ヲラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員
 免許狀ヲ有スル者

三 教員ヲラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ
 於テ一箇年以上教員タル者若クハ教員タル者

陸軍教導團步兵科卒業生ハ兵式體操ニ關シテ前項一ニ準スルコトヲ得
 第十一條 前條ニ掲ケル者ハ隨時檢定ヲ出願スルコトヲ得但試驗ヲ必要
 ト認メタル學科目ニ就キテハ次ノ試驗時期ニ於テ更ニ手数料ヲ納ムス
 シテ直ニ本試驗ヲ受ケルコトヲ得セシム

第十二條 第十條第一項一ニ掲ケル者ハ當該學校長ヲ經テ檢定ヲ出願ス
 ルコトヲ得其三ニ掲ケル者ニシテ文部省直轄學校ニ係ルモノ亦之ニ準
 ス

前項ノ場合ニ於テハ當該學校長ハ本人ノ學力、品行、身體ニ關シ意見ヲ
 付シテ具申スヘシ又第七條ニ依リ願書ニ添ヘテ差出スヘキ書類ハ願書
 齊ノ外ニ之ヲ要セス

第十三條 本試驗ニ於テ一學科目ノ全部ニ合格セザルモ其一部分ノ成績
 佳良ナルトキハ其部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトヲ得ヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ハ其後ノ試驗時期ニ於テ前ニ出願セル學科目
 ニ就キ更ニ檢定ヲ出願スルコトキハ證明書ニ記載セル部分ヲ省キ其他
 ノ部分ニ就キ試驗ヲ行フ但證明書ハ三年間有效ノモノトス

第十四條 免許狀ヲ授與シタル者ハ免許ノ學科程度及免許狀ヲ以テ
 之ヲ公告ス

第十五條 第十條第一項ニ依リ更ニ免許狀ヲ受ケントスル者ハ免許狀
 ナ損亡失シ若クハ氏名ヲ變更シタル等ノ爲其舊換ヲ出願スル者ハ免
 許狀一通ニ付手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十六條 檢定手数料及免許手續料ハ登記印紙ヲ用キ願書ニ貼付スヘ
 シ其既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第十七條 免許狀ヲ有スル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其免許狀ヲ廢棄
 ス

一 禁烟以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用者トシテ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ
 罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監禁ニ付セラレタル者

二 破産又ハ家産分數ノ宣告ヲ受ケタル者

三 荒蕪暴飲其他違法行為ノ罪ヲ犯シタル者

第十八條 地方長官ニ於テ前條ノ處分ヲ要スト認ムル者アルトキハ文部
 大臣ニ具申スヘシ

附則
 第十九條 明治十九年文部省令第二十一號明治二十五年文部省令第十三
 號明治二十七年文部省令第八號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本規則第九條檢定學科目中數學ノ試驗ハ明治三十六年以前ニ
 フリテハ算術、代數、幾何、三角法及解析幾何大意、積分分大電マツテ
 併セテ出願スルニテアラザラシ檢定ヲ行ハス
 (舊式ノ之ヲ要ス)

第八章 教科用圖書檢定
 師範學校小學校及中學校教

科用圖書ノ檢定ニ關スル規

則 明治二十年五月 文部省令第二號

明治十九年(五月)文部省令第七號科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

科用圖書檢定規則

第一條 科用圖書ノ檢定ハ師範學校令中學校令小學校令及教則ノ旨ニ合シ科用圖書ニ關スルコトヲ認メテ定ムルコトス

第二條 圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

第三條 圖書ノ檢定ハ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校ニ添ヘ地方圖書ニ關シテ文部省ニ請フニ付其手數料及該圖書ニ關シテ檢定額ヲ手數料金十五圓ヲ納ムヘク又檢定ヲ得タル後檢定額ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中或シテ修正ヲ加フヘキ檢定額ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其原額檢定額者ニ指シスルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、日付、トスル學校或學科ノ種類、版權免許又ハ出版屆ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、版權免許又ハ出版屆ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更正ノ報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ得サル圖書ノ出版者ハ原額ニ依リテハ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指シスルコトアルヘシ

科用圖書檢定願書樣式

明治二十年五月文部省令第四號

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更正ノ手續料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ規定アルニ合スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定額ハ該圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校ニ添ヘ地方圖書ニ關シテ文部省ニ請フニ付其手數料及該圖書ニ關シテ檢定額ヲ手數料金十五圓ヲ納ムヘク又檢定ヲ得タル後檢定額ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ又ハ文字句讀ヲ增減若クハ校訂シ又ハ校訂數字體等ヲ變更シ又ハ紙質印刷等ヲ變更シ又ハ註解附録等ヲ加減若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ原額檢定額トキハ六箇月間内ニ其原額檢定額ヲ該圖書ノ檢定額トシテ檢定額内ニ修正額ヲセサルトキハ該圖書ハ檢定額トス

第十四條 檢定額何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校科用圖書ニ在リテハ仍生徒用圖書ノ別ヲ附記スヘシ

第十五條 檢定額何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校科用圖書ニ在リテハ仍生徒用圖書ノ別ヲ附記スヘシ

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五圓以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十七條 圖書ハ其全部檢定額トシテ檢定額トス

第十八條 同一ノ圖書ニ關シテ第十五條ノ犯罪罰金ニシテトキハ事實ニ依リ其圖書ノ檢定效力ヲ取消スコトアルヘシ

本年(五月)文部省令第七號科用圖書檢定條例第二條ニ依リ科用圖書ノ檢定ヲ請フ者ハ該圖書一種毎ニ左式ノ檢定願書ヲ提出スヘシ

檢定願書樣式 (用紙ハ半紙トス)

左記ノ圖書檢定額下度檢定願書ノ部及手數料金ノ相添ヘ此段相願候也

圖書ノ名稱	冊數	著譯者ノ姓名	出版者ノ姓名	版權免許又ハ出版屆ノ年月日	目的トスル學科ノ種類
冊數	著譯者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名
冊數	著譯者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名	出版者ノ姓名

何道(府)(縣)(何郡區町(村)(何番地居住(寄留))
何道(府)(縣)(何族(平民))
姓 名 印
年 月 日
文部大臣爵姓名 殿

肥後方心得

圖書ノ名稱 改正增補等ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ

冊數ノ記載 一巻ニ卷前編後編上中下或ハ一號二號三號等ノ別ヲ掲ク冊數若クハ軸數等ノ總計ヲ記スヘシ

著譯者ノ族籍住所姓名 姓名ノ下ニ著述翻譯編纂等ノ別ヲ記スヘシ

出版者ノ族籍住所姓名 分版ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト分版者ノ族籍住所姓名トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト翻刻者ノ族籍住所姓名トヲ並記スヘシ

版權免許又ハ出版屆ノ年月日 改版ニ係ルモノハ改版ノ年月日ヲ記シ分版ニ係ルモノハ原出版者ノ年月日ト分版者ノ年月日トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原出版者ノ年月日ト翻刻者ノ年月日トヲ並記スヘシ

目的トスル學科ノ種類 小學校科用圖書ニ在リテハ生徒用若クハ教員用ノ別及學年ノ程度等ヲモ記載スヘシ

小學校ノ科用圖書生徒用

教師用ノ二種トシ作文、手工、唱歌、裁縫、體操ニ關スル圖書ハ教師用ノ檢定スルノ件 明治二十五年九月 文部省令第九號

科用圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ指示ヲ請フ者出願

明治二十年(五月)文部省令第七號科用圖書檢定條例第八條ニ依リ檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ指示ヲ請フ者ハ指令ノ日ヨリ六十日間ニ違ハズ出願スヘシ

科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル圖書ノ效力

明治二十年(五月)文部省令第七號科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル圖書ハ本年(五月)文部省令第七號科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル圖書ノ同一ノ效力ヲ有スルモノトス

科用圖書檢定ニ關スル標

準ニ關スル件

自今小學校教科用圖書ノ檢定ハ本年三月文部省令第三號教科用圖書檢定期則第一條改正ノ旨趣ニ基キ明治二十四年十一月文部省令第十一號小學校教科用圖書檢定ニ關スル件ニ適合セザルモノハ檢定セズ但シ本年三月二十四日迄ニ檢定シタル圖書ハ従前ノ規則ニ依リテ檢定シタルモノトス

一 教科用圖書ハ全部揃ヒタルモノニテラサレハ檢定セズ

教科用圖書檢定ニ關スル調査規程

文部大臣訓令
明治二十五年七月

- 一 教科用圖書檢定ハ圖書課ニ於テ取調テ了シタルトキハ理由ヲ詳具シテ提出スヘシ
- 一 圖書課ニ於テ取調テ了シタル圖書ハ文部大臣ニ於テ更ニ之ヲ審査委員ニ付シテ審査セシムルコトアルヘシ
- 一 審査委員ハ本省及直轄各部職員中ニ就キ豫テ選命シ置キ審査ヲ要スル部類一圖書毎ニ右委員中ヨリ三名以上ヲ指名シテ擔當セシムルモノトス
- 一 審査委員ニ於テ圖書課ノ成案ニ不同意ナルトキハ先ツ圖書課ト協同シテ返クヘシ協議一致セザルトキハ不同意ノ理由ヲ記シテ提出スヘシ

小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號
小學校令第十六條ニ基キ小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則

- 一 教科用圖書審查等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則
- 一 府縣高等官及學務主任官定各一名
- 一 地方官
- 一 府縣學事會員二名(府縣制ヲ施行セザル地方ニ於テハ府縣會常置委員二名)
- 一 尋常師範學校長
- 一 尋常中學校長一名
- 一 尋常師範學校教員二名
- 一 小學校教員三名(乃五名)
- 一 審査委員長ハ府縣高等官ニシテ審査委員タルモノヲ以テ之ニ充テ
- 一 審査委員自己又ハ其親族ノ關係ヲ避テ選命シ置キ其職務ヲ履行スルコトヲ得ズ但シ已メテ得ザル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス
- 一 審査委員ニ於テ審査了了ルトキハ委員長ヨリ其結果ヲ府縣知事ニ具中スヘシ
- 一 府縣知事ハ前條ノ具中ニ依リ相當ト認ムル圖書ハ之ヲ其府縣小學校教科用圖書ト定ムヘシ
- 一 府縣知事ハ四箇年ヲ經ルニ非サレハ小學校ノ教科用圖書ヲ更定スルコトヲ得ズ但本項ノ例ニ依リテ圖書ヲ更定スルコトハ文部大臣ノ指授ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得
- 一 前項ニ依リ更定シタル圖書ハ小學校ニ用アルニハ之ヲ圖書トシテ最下學年ノ兒童ヨリ用ルヘシ其他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ用ルヘシムヘシ但本項ノ例ニ依リ圖書ヲ更定スルコトハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ設立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケテヘシ
- 一 此規則施行前府縣知事ニ於テ定ムル小學校教科用圖書ハ仍舊效力ヲ有スルモノトス
- 一 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

小學校圖書審查委員組織中追加ニ關スル件

明治二十六年九月
勅令第四百四號

朕小學校圖書審查委員組織ニ關スル件ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令第十六條第二項ニ規定シタル小學校圖書審查委員ノ組織ニ尋常中學校長ヲ加フ

府縣制ヲ施行セザル地方ニ於テハ府縣會常置委員ヲ以テ府縣學事會員ニ代ヘ圖書審查委員トス

採定小學校教科用圖書定價變更ノ場合ニ於ケル效力

明治二十九年十一月文部省令第十一號

此省令發布以前ニ地方長官ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ニシテ成規ノ手續ヲ經テ其定價ヲ變更シタルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ更ニ審査ヲ要セシテ仍舊採定ノ效力ヲ有セシムルコトヲ得

小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限

明治二十七年十二月文部省令第七號

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ本大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ採定ニ係ルモノ及地方長官ニ於テ本大臣ノ認可ヲ受ケタルモノノ外ハ採用セシムヘカラス但地方長官ニ於テ一旦本大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

第九章 學位令

第十五類 第一篇 學事

學位令

明治三十一年十二月
勅令第三百四十四號

- 一 學位ハ法學博士、醫學博士、農學博士、工學博士、文學博士、理學博士、農林學博士、林學博士、獸醫學博士ノ九種トス
- 一 學位ハ文部大臣ニ於テ左ニ規定スルモノニテ之ヲ授ク
- 一 帝國大學大學院ニ入リ定期ノ試驗ヲ經タル者又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ帝國大學分科大學教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認ムルモノ
- 一 博士會ニ於テ學位ヲ授クヘキ學力アリト認ムルモノ
- 一 帝國大學分科大學教授會ニハ當該帝國大學總長ノ推薦ニ依リ文部大臣ニ於テ學位ヲ授クルコトヲ得
- 一 學位ヲ有スル者其ノ職務ヲ履行アルトキハ博士會ノ議ヲ經テ文部大臣其ノ學位ヲ廢奪ス
- 一 明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ授與シタル學位ハ本令ノ學位ト同一ノモノトス
- 一 本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

學位令細則

明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第五條ニ基キ學位令細則ヲ定ム

- 一 學位令細則
- 一 學位ハ學位受領者ノ專攻シタル學科ノ區別ニ從ヒテ之ヲ授ク
- 一 帝國大學大學院ニ入リ定期ノ試驗ヲ經タル者アルトキハ當該帝國大學總長ハ其試驗成績ニ照シテ學位ヲ請求スルモノヲ具中スヘシ
- 一 論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ其專攻シタル學科ノ範圍内ニ屬スル自著ノ論文ニ關シテ學位ヲ請求スルモノヲ提出スヘシ
- 一 分科大學教授會ヲ指定シテ文部大臣ニ申請スヘシ

第四條學位記ノ様式左ノ如シ
(様式ハ之ヲ略ス)

第二篇 天象及曆時

第一章 天象

天象觀測及曆書調製ヲ文部大臣ニ管理セシム

明治三十一年十二月廿九日勅令第八十一號
天象觀測及曆書調製ハ自今文部大臣ヲシテ之ヲ管理セシム

中央氣象臺氣象通報規程

明治二十九年三月文部省令第二號

中央氣象臺氣象通報規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

中央氣象臺氣象通報規程

第一條 中央氣象臺ニ氣象ノ通報ヲ依頼スル者ハ此規程ニ遵ルヘシ
第二條 氣象ノ通報ヲ依頼スル者ハ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
日納付シタル手数料ハ如何ナル事故アルモ返付セズ
第三條 氣象通報一回ノ手数料金額ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ定ム但シ暴風警報ハ警戒及解除ノ通報ニ併セテ一回トス

種別	普通電報ヲ以テ通報スル料金	至急電報ヲ以テ通報スル料金
氣象區天氣豫報	金 貳拾五錢	金 五拾五錢
同上高低氣壓ノ位置及氣壓度付	金 參拾五錢	金 六拾五錢
東京地方天氣豫報	金 貳拾五錢	金 四拾五錢

内外國航船ニ係ル海上氣象報告方

明治三十一年十二月廿九日勅令第八十一號

明治十九年陸軍省令第四號第六條ニ據テ内國航船外國航船ニ係ル海上氣象報告方ハ左ノ如シ
第一條 中央氣象臺ニ氣象通報ヲ依頼スル者ハ此規程ニ遵ルヘシ
第二條 檢定シタル器機ニハ器機ニ示シタル檢定記ヲ交付ス

中央氣象臺氣象器機檢定規程

明治二十九年三月文部省令第三號

中央氣象臺氣象器機檢定規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 中央氣象臺ニ氣象器機ヲ檢定シ依頼スル者ハ此規程ニ遵ルヘシ
第二條 檢定シタル器機ニハ器機ニ示シタル檢定記ヲ交付ス

全國天氣實況	金 六拾五錢	金 壹圓貳拾五錢
暴風警報	金 四拾五錢	金 八拾五錢

第四條 別便配達ヲ乞フ者及野邊配達ヲ要スル者ハ第三條ニ規定スル手数料ノ外一回毎ニ金貳拾錢ノ加算ニ在リテハ金四拾錢ヲ併納スヘシ
第五條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規程ニ據テ外儀ニ應ヒテ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル
第六條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ規定シタル符號式ニ依ル
第七條 氣象ノ通報ハ中央氣象臺ニ於テ發送シタル後一不達ノコトアルモ該臺ハ其責ニ任セズ
第八條 氣象ノ通報ヲ依頼セントスル者ハ左式ノ依頼書ヲ作リ其手数料金ニ相當スル登記印紙ヲ貼付シ中央氣象臺ニ提出スヘシ

年號改元ノ詔勅

明治元年九月

今般御即位大禮既済先例之通舊年號改元ノ詔勅ハ是迄百餘年之儀凡そ國ノ慶賀有之儀得共自今第一一代一號ニ定之改元四年可爲明治元年爲明治元年自今以後年易萬曆一世一元以爲永式主有施行
戊辰九月八日

改曆ノ詔書

明治五年十一月

今般御即位之儀別詔書ノ通改元ノ詔書ハ是迄百餘年之儀凡そ國ノ慶賀有之儀得共自今第一一代一號ニ定之改元四年可爲明治元年爲明治元年自今以後年易萬曆一世一元以爲永式主有施行
戊辰九月八日

第二章 曆時

前項ノ檢定記ヲ分テ甲乙二種トス蓋シ、齊整ニシテ精密ナル觀測用ニ適スト認ムル者ニハ甲種記ヲ交付シ其乙種記ヲ交付ス
第三條 氣象器機ノ檢定ヲ依頼スル者ハ登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
第一日納付シタル手数料ハ如何ナル事故アルモ返付セズ
第四條 氣象器機檢定手数料ノ金額ハ器機ノ種類檢定ノ難易ニ依リ本條各項ノ範圍内ニ於テ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル
一 水銀晴雨計 金壹圓乃至壹圓
一 空室晴雨計 金拾錢乃至壹圓
一 寒暑計 金拾錢乃至壹圓
一 雨量計 金拾錢乃至壹圓
一 風力計 金拾錢乃至壹圓
第五條 第四條ニ記載セサル氣象器機ト雖モ時宜ニ依リ檢定ノ依頼ニ應シ且檢定記ヲ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其手数料ハ中央氣象臺長ノ定ムル所ニ依ル
第六條 時日ヲ檢定シ依頼スル者アルトキハ時宜ニ依リ之ニ應スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ普通手数料ノ二倍ヲ徵收スヘシ但シ寒暑計ニ限リ同人ニシテ六箇以上ノ檢定同時ニ依頼スルモノノ外ハ普通手数料ノ五倍以内ヲ徵收スヘシ
第七條 檢定記ヲ紛失シ再度交付ヲ依頼スル者アルトキハ該記ノ寫ヲ交付スヘシ此場合ニ於テハ普通手数料ノ二倍ヲ徵收スヘシ
第八條 檢定ノ依頼ニ係ル器機ニハ中央氣象臺ニ於テ檢定中相當ノ保護ヲ加フヘシト雖モ若シ破損スルコトアルモ該臺ハ其責ニ任セズ
第九條 中央氣象臺ノ必要ト檢定スル所ノ器機ニ對シハ手数料ヲ徵收セズ
第十條 第四條又ハ第六條ノ檢定ヲ依頼セントスル者ハ第一書式又ハ第二書式ノ依頼書ヲ作リ第七條ノ檢定記再度交付ヲ依頼セントスル者ハ第三書式ノ依頼書ヲ作リ其手数料金ニ相當スル登記印紙ヲ貼付シ中央氣象臺ニ提出スヘシ
各種氣象器機檢定依頼書式左ノ如シ

一 時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事但是迄時辰時刻ナ何字ト唱來後處以後何時ト可稱事

一 諸祭典等舊曆月日新曆月日ニ相當シ施行可致事

太陽曆 一年三百六十五日 閏年三百六十六日(四年毎ニ置之)

一月大 三十一日 其一日 即舊曆壬申 十二月三日

二月小 二十八日(閏年二十九日) 其一日 同 正月四日

三月大 三十一日 其一日 同 二月五日

四月小 三十日 其一日 同 三月五日

五月大 三十一日 其一日 同 四月五日

六月小 三十日 其一日 同 五月七日

七月大 三十一日 其一日 同 六月七日

八月小 三十日 其一日 同 閏六月九日

九月大 三十一日 其一日 同 七月十日

十月小 三十日 其一日 同 八月十日

十一月大 三十一日 其一日 同 九月十日

十二月小 三十一日 其一日 同 十月十日

大小毎年曆ルコトナシ

時刻表

平時	子刻	一 時	子半刻	二 時	丑刻	三 時	丑半刻	四 時	寅刻	五 時	寅半刻	六 時	卯刻	七 時	卯半刻	八 時	辰刻	九 時	辰半刻	十 時	巳刻	十一 時	巳半刻	十二 時	午刻	
後午	九 時	戌半刻	十 時	亥刻	十一 時	亥半刻	十二 時	子刻																		

前午	四 時	寅刻	五 時	寅半刻	六 時	卯刻	七 時	卯半刻	八 時	辰刻	九 時	辰半刻	十 時	巳刻	十一 時	巳半刻	十二 時	午刻
----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	------	-----	------	----

●閏年ニ關スル件 明治三十一年五月 勅令第九十號

朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ按ニ之ヲ公布セシム
神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキ年ノ中更ニ四ヲ以テ其ノ商ヲ整除シ得サル年ハ平年トス

●頒曆 明治三年四月 布告

頒曆授時之儀ハ至重之典章ニ候處近來種種之類歷世上ニ流布候處御事ニ候自今頒曆者之外取裁候儀一切嚴禁御出候事

●弘曆者ヲ定メ一枚摺略曆一 般出版ヲ許ス 明治十五年四月 大政官布達第八號

本曆改略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ
一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得但明治九年(十月)内務省甲第三十九號布達ハ取消ス

●一枚摺略曆ニ記載事項ノ規程 明治二十三年十月 文部省令第二號

明治十五年(四月)太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ
一 一枚摺略曆ハ左ニ例記スル事項ニ限リ記載スルモノトス
一 年號及紀元ノ年數干支
一 毎月ノ一日
一 日月食其時間
一 大祭日及節日
一 日曜及甲子癸亥申酉巳未

- 一 二十四節氣及雜節
 - 一 新月滿月
 - 一 前各項ニ相當スル陰曆日干支及陰曆ノ朔日干支及之ニ相當スル陽曆日
- 以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但前各項規定ノ外本曆專本曆ニ掲載セサル事項ヲ記入スルハ此限ニ在ラス

●本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム 明治十九年七月 勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準ノ件ヲ裁可シ按ニ之ヲ公布セシム
一 英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス
一 經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス
一 明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

第十六類 產業

第一篇 農事

第一章 農業

府縣農事試驗場國庫補助法

明治三十二年六月法律第百二號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ府縣農事試驗場國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 府縣農事試驗場ノ事業ヲ獎勵確實ナラシムル爲メ國庫ハ毎年度金十五萬圓以內ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ
- 第二條 農商務大臣ノ定ムル府縣農事試驗場規程ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府縣農事試驗場ニ付農商務大臣必要アリト認メタルトキハ之ニ補助金ヲ交付スヘシ但シ一府縣一箇所ニ限ル
- 第三條 各試驗場ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル
- 第四條 此ノ法律ニ依リ補助金ヲ受ケル試驗場ノ設立者ハ補助年期間其ノ試驗場經費ヲ繼續支出スル義務アルモノトス
- 第五條 試驗場ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後尙必要アルトキハ之ヲ繼續スルコトヲ得但シ農商務大臣ニ於テ試驗場ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ府縣農事試驗場規程ニ違背シタルトキ又ハ第四條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖モ其ノ補助ヲ廢止スルコトヲ得
- 第六條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第七條 此ノ法律ハ農商務大臣ノ定ムル府縣農事講習所規程、府縣水產試驗場規程、府縣水產講習所規定ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府

縣農事講習所、府縣水產講習所ニ適用ス但シ其ノ補助金ハ第一條ニ定ムル金額以內ニ於テ支出スルモノトス

害蟲驅除豫防法

明治三十九年三月法律第百七號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
- 第二條 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム
- 第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
- 第四條 前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ得テ其費用ノ一部ヲ補助シテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得
- 第五條 害蟲驅除豫防シタルトキ又ハ驅除ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得
- 第六條 府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命令ヲ發シテ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得
- 第七條 夫役ノ賦課ノ種類ニ依リ田畑又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
- 第八條 夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得
- 第九條 本條ノ場合ニ於テ市町村第百二十三條及市町村制第百二十七條ヲ適用セ

第十六類 產業

第一篇 農事

第一章 農業

府縣農事試驗場國庫補助法

明治三十二年六月法律第百二號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ府縣農事試驗場國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 府縣農事試驗場ノ事業ヲ獎勵確實ナラシムル爲メ國庫ハ毎年度金十五萬圓以內ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ
- 第二條 農商務大臣ノ定ムル府縣農事試驗場規程ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府縣農事試驗場ニ付農商務大臣必要アリト認メタルトキハ之ニ補助金ヲ交付スヘシ但シ一府縣一箇所ニ限ル
- 第三條 各試驗場ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル
- 第四條 此ノ法律ニ依リ補助金ヲ受ケル試驗場ノ設立者ハ補助年期間其ノ試驗場經費ヲ繼續支出スル義務アルモノトス
- 第五條 試驗場ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後尙必要アルトキハ之ヲ繼續スルコトヲ得但シ農商務大臣ニ於テ試驗場ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ府縣農事試驗場規程ニ違背シタルトキ又ハ第四條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖モ其ノ補助ヲ廢止スルコトヲ得
- 第六條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第七條 此ノ法律ハ農商務大臣ノ定ムル府縣農事講習所規程、府縣水產試驗場規程、府縣水產講習所規定ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府

第十六類 產業

第一篇 農事

第一章 農業

府縣農事試驗場國庫補助法

明治三十二年六月法律第百二號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ府縣農事試驗場國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 府縣農事試驗場ノ事業ヲ獎勵確實ナラシムル爲メ國庫ハ毎年度金十五萬圓以內ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ
- 第二條 農商務大臣ノ定ムル府縣農事試驗場規程ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府縣農事試驗場ニ付農商務大臣必要アリト認メタルトキハ之ニ補助金ヲ交付スヘシ但シ一府縣一箇所ニ限ル
- 第三條 各試驗場ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル
- 第四條 此ノ法律ニ依リ補助金ヲ受ケル試驗場ノ設立者ハ補助年期間其ノ試驗場經費ヲ繼續支出スル義務アルモノトス
- 第五條 試驗場ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後尙必要アルトキハ之ヲ繼續スルコトヲ得但シ農商務大臣ニ於テ試驗場ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ府縣農事試驗場規程ニ違背シタルトキ又ハ第四條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖モ其ノ補助ヲ廢止スルコトヲ得
- 第六條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第七條 此ノ法律ハ農商務大臣ノ定ムル府縣農事講習所規程、府縣水產試驗場規程、府縣水產講習所規定ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府

- 第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲ニ必要ナルトキハ市町村費ヲ以テ津貼ヲ設ケ又ハ農作物、糞料、刈草、雜草ヲ採集スルコトヲ得
- 第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得
- 第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承ケル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得
- 第九條 府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得
- 第十條 蟲類以外ノ動物ト雖モ農作物ヲ害スルモノトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得
- 第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
- 第十二條 第六條及第八條ニ依リ官吏若ハ其ノ指揮ヲ受ケル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ二十日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第十三條 此ノ法律ハ北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セザル島嶼ニ之ヲ施行セズ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十四條 此ノ法律ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

肥料取締法

明治三十二年四月法律第百九十號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ肥料取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 此ノ法律ニ於テ肥料ト稱スルハ農産物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ
- 第二條 肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ地方長官(東京府ハ警視總監)ノ免許ヲ受ケルヘシ
- 第三條 地方長官(東京府ハ警視總監)ハ何時タリトモ官吏ヲ派シテ肥料

- ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第四條 肥料ノ製造販賣者又ハ販賣者ハ前條ノ檢驗ヲ拒ム又ハ検査ノ爲ニ必要ナル肥料ノ交付ヲ拒ムコトヲ得
- 第五條 第二條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 第四條ニ違背シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 肥料ヲ製造若ハ他ノ物料ヲ混和シテ販賣シ又ハ情ヲ知テ之ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料ハ沒收ス
- 第八條 第四條ニ違背シ又ハ第七條ノ刑ニ處セラレタル者ハ行政罰ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得
- 第九條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第十條 此ノ法律施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

農事試驗場分析手數料納付方

- 第一條 農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ム
- 一 土壤及肥料ノ定性分析ハ一成分毎ニ金三十錢トス
- 二 土壤ノ定量分析ハ一成分金一圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
- 三 土壤ノ普通含有セザル成分ノ定性ハ一成分毎ニ金二圓トシ其ノ定量ハ一成分毎ニ金五圓トス
- 四 肥料ノ定量分析ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金二十五錢ヲ加フ但水分及灰分全量ノ定量ハ各金十錢トス
- 五 農産物及飼料ノ有機質成分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金三十錢ヲ加フ但水分及灰分全量ノ定量ハ

- 六 各金十錢トス
- 七 農産物及飼料ノ灰分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス每ニ金三十錢ヲ加フ但灰分全量ノ定量ハ金十錢トス
- 八 農産製造品ノ定性分析ハ一成分每ニ金五十錢トス
- 九 農産製造品ノ定量分析ハ一成分金一圓五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス每ニ金一圓ヲ加フ
- 十 水ノ定性分析ハ一成分金二圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス每ニ金一圓ヲ加フ
- 十一 以上列記シタルモノノ外農産上ニ關係アル物料ノ分析手数料ハ前示ノ割合ニ準シ時時農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章 牧畜

種牡馬検査法 明治三十年三月 法律第十二號

- 第一條 種牡馬ハ此ノ法律ニ依リ毎年検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラザレバ種付ケニ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ種版ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ
- 第三條 證明書ノ効力ハ滿一箇年トス但地方ハ狀況ニ依リ此年限ニ依リサルコトヲ得
- 第四條 前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認めラルトキハ證明ノ効力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第五條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス
- 第六條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス
- 第七條 學術研究ノ爲メ種牡馬種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方

種牡馬検査法施行細則

明治三十年五月農商務省令第四號

- 第一條 種牡馬検査法施行細則左ノ通り相定ム
- 第二條 種牡馬ノ検査ヲ受ケントスル者ハ地方長官ニ願出アヘシ
- 第三條 種牡馬ノ検査ハ地方長官其期日ヲ告示シ二名以上ノ検査委員之ヲ行フ
- 第四條 検査委員ハ府縣官吏、獸醫又ハ農馬業ニ經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス
- 第五條 北海道、府縣ノ管下ニ屬スル島嶼ニ於テハ第一項ニ據ラザルコトヲ得
- 第六條 種牡馬ノ資格標準ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 一 年齡滿四歳以上
 - 二 體尺四尺五寸以上
 - 三 強壯ニシテ骨格及性質善美ナルモノ
 - 四 惡癖又ハ遺傳病ナキモノ
- 第七條 地方ノ狀況ニ依リ第一條第二條ノ制限ヲ適用シ種牡馬種付ケハ自由ニ認

- ノ外尚ホ必要ト認めル事項アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ適宜之ヲ施行スルコトヲ得
- 第四條 地方長官ハ前條ノ資格標準ニ合格シタル種牡馬ニハ種牡馬検査法第二條ニ依リ其種牡馬ノ左聲、鬃下若クハ蹄聲ニ烙印シ其所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ
- 第五條 地方長官ハ種牡馬検査法第三條但書ニ依リ證明書ノ年限ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第七條 地方長官ハ種牡馬種付ケタル種牡馬ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ依リ種牡馬ニ不適當ナリト認めラルトキハ種牡馬検査法第三條ニ依リ其證明ノ効力ヲ停止シ若クハ之ヲ取消スヘシ
- 第八條 證明書其効力ヲ失ヒ若クハ取消サレタルトキハ該證明書ノ所有者ハ三十日以内ニ之ヲ地方長官ニ返納スヘシ
- 第九條 前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ第四條ノ證明書ヲ烙印スヘシ
- 第十條 種牡馬ノ種付ケタル種牡馬ハ其所有者又ハ管理人ハ證明書ヲ携帶スヘシ
- 第十一條 證明書ハ當該官吏又ハ種牡馬所有者若クハ管理人ヨリ其閱覽ヲ請求スルコトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十二條 證明書ヲ毀損亡失シ若クハ證明書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其書換若クハ再渡テ地方長官ニ願出アヘシ
- 第十三條 種牡馬死シタルトキハ證明書ヲ添ヘ其旨願出アヘシ
- 第十四條 種牡馬ノ所有者又ハ管理人ハ種牡馬ノ種類、年齢、毛色、體尺、特徴、種付年月日及其所有者又ハ管理人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
- 第十五條 種牡馬所有者又ハ管理人ニ於テ産駒ノ血統證明書請求スルトキハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ之ヲ交付シ拒ムコトヲ得ス
- 第十六條 種牡馬検査委員其検査ヲ了シタルトキハ速ニ其成績ヲ地方長官ニ報告スヘシ
- 第十七條 地方長官ハ前項ノ報告ニ依リ證明書ヲ下付シタルトキハ種牡馬表ヲ附製シ其種類、年齢、體尺毛色及所有者ノ住所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ
- 第十八條 地方長官ハ毎年一回以上主任官吏ヲシテ種牡馬ノ狀況、産駒

第三章 蠶種及生絲

蠶種検査法 明治三十年三月 法律第十號

- 第一條 農商務大臣ノ認可ヲ經テ蠶種検査法ヲ制定シ之ヲ公布セシム
- 第二條 蠶種検査法
- 第三條 此ノ法律ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ノ總稱スルモノナリ
- 第四條 原種ハ種製ニスヘシ
- 第五條 蠶種ハ左ニ掲グル種ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス
 - 一 二種以上合同シテ作りタル種
 - 二 蠶種片断ナル種若ハ形状ヲ失スルコトヲ著シキ種
 - 三 蠶種片断ニシテ蠶種ノ全量百ニ對シ蠶種ノ量百ニ在リテハ八五以上ニ在リテハ六二以上ニ在リテハ五ノ種
- 第六條 蠶種ハ原種ヨリ產生シタル蠶種ヲ用キルニ非サレバ之ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第七條 蠶種製造者ハ收種後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ蠶種卵、製絲用種ニ在リテハ蠶種、卵ノ検査ヲ受ケヘシ
- 第八條 第三條ニ掲グル蠶種ハ收種後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存スヘシ

原種ノ結核菌種ノ製造ニ供用シタル菌及原種ノ製造ニ供用シタル母液ハ産卵後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ

第七條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テハ検査合格ノ證明ナキ蠶種ヲ賣渡シ又ハ譲渡スコトヲ得ス

第八條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テ必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地以外ニ於テ製造シタル蠶種ヲ買受又ハ譲受ヲ認許スルコトヲ得

第九條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ養蠶期中蠶種製造者ニ就キ結立蠶種製造者ハ前項ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 蠶種検査員其ノ職務ヲ行フトキハ證明ヲ携帯スヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲナスコトヲ得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但國庫ハ其ノ半額以內ヲ補助スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ土地ノ情況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地ニ於テ蠶種製造者ニ對シテ

第十四條 第三條第四條第五條第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ五十圓以上一圓九十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 此ノ法律中蠶種ノ製造及検査ニ關スル規定ハ自家用ノ蠶種ノ製造者ニ適用スルコトヲ得

第十八條 學術研究ノ爲農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得蠶種ヲ製造スル者及其ノ製造シタル蠶種ニハ本法ヲ適用セズ但賣渡スコトヲ得ス

第十九條 検査方法及此ノ法律施行ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ニ施行ス但第二條ノ規定ハ此ノ法律施行後一箇年間之ヲ適用セズ

第二十一條 明治十九年農商務省令第九號蠶種検査規則ハ本法施行ノ日ニ廢止ス

蠶種検査法施行細則
明治三十年六月農商務省令第八號

蠶種検査法施行細則

第一條 蠶種製造者ハ毎年二月十五日迄ニ蠶種第一號ニ檢テ其ノ年ノ原種ヲ立蠶及蠶種製造者地方長官ニ届出スヘシ

第二條 蠶種製造者ハ左ノ第一號ノ事項ヲ蠶種製造者第二號ノ事項ヲ検査員ニ其ノ蠶種ニ明記スヘシ

一 表面ニ春夏秋冬及別及其ノ名稱

二 製造年月日

第三條 蠶種製造者原種ヲ製造セントスルトキハ一區ニ一母液ヲシテ蠶種ヲ製造スヘシ

第四條 蠶種製造者夏秋蠶母液ヲ產生シタル蠶種ヲ以テ蠶種ヲ製造セントスルトキハ其ノ年ノ初期ニ於テ結立タル原種ヨリ蠶種製造者シタルモノニ限リ但初期結立タル原種ノ結立ハ産卵後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ

第五條 蠶種検査法第五條ニ檢テ検査ヲ受クヘキ蠶種ハ左ノ順序ニ檢テ其ノ検査ヲ行フ

一 表面ニ於テハ蠶種及其ノ原種ノ蠶殼

二 産卵後ニ於テハ蠶種及其ノ製造ニ供用シタル母液

三 原種ニ在リテハ前二號ノ外其ノ製造ニ供用シタル母液

第六條 前條第一號第二號ノ検査ハ蠶種製造者ニ就キ之ヲ行ヒ同條第三號及蠶種検査法第八條第二項ノ検査ハ蠶種検査員ニ於テ之ヲ行フ

第七條 蠶種製造者ハ第五條第一號ノ検査ヲ受クヘキ以前ニ於テ蠶種検査法第三條ニ該當スル蠶種ヲ除去シ其蠶種ノ樹量トシテ各別ニ量定シ區分シシ但名稱ノ異ナリタル蠶種ニシテ尚不完全ト認めタルトキハ蠶種検査員ハ再ヒ其ノ蠶種ヲ命スルコトヲ得

第九條 蠶種検査員第五條第一號ノ検査ヲ行ヒ蠶種検査法第三條第四條ニ違背セスト認めタルトキハ蠶種第二號ノ蠶種證明書ヲ付與スヘシ

第十條 蠶種検査員第五條第二號ノ検査ヲ行ヒ蠶種製造者出蠶及種蠶證明書ヲ照合シテ正當ト認めタルトキハ其ノ蠶種蠶紙ノ表面ニ原種ニ在リテハ蠶種第三號ノ原種用ノ印ヲ、製絲用種ニ在リテハ蠶種第四號ノ製絲用種検査合格證明印ヲ捺捺スヘシ

第十一條 蠶種製造者一枚ノ蠶種ヲ檢テ賣渡シ若クハ譲渡セントスルトキハ検査員ニ於テ蠶種蠶紙ノ表面ニ檢テ賣渡スヘキ蠶種蠶紙ノ印ヲ捺捺ス

第十二條 第五條第三號ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フ

一 蠶種ニ小孔鉢ニ容レ背性加里糖液若ハ糖液水少許ヲ加ヘテ此糖液ヲ其液ヲ蠶種ニ照シ蠶種子ヲ發見シタルトキハ蠶種第五號ノ有毒ノ印ヲ蠶種子ヲ發見セザルトキハ蠶種第六號ノ無毒ノ印ヲ其ノ産卵區表面ノ空所ニ捺捺シ其ノ蠶種ニ蠶種第七號ノ原種検査合格ノ證明印ヲ捺捺ス

第十三條 蠶種検査法第八條第二項ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フ

蠶種一枚ニ其ノ全面ヨリ蠶種凡ソ百粒ヲ取リ之ヲ十分分シ其ノ一分毎ニ之ヲ小孔鉢ニ容レ背性加里糖液少許ヲ加ヘテ此糖液ヲ其ノ液ヲ蠶種ニ照シテ每粒面蠶種子ノ有無ヲ檢シ之ヲ發見スルコト四粒面以下ノモノニハ蠶種蠶紙ノ表面ニ蠶種第四號ノ製絲用種検査合格ノ證明印ヲ捺捺ス

第十四條 原種ノ製造ニ供用シタル母液ニシテ蠶種ヘカクヤル事故ニ依リ死亡又ハ退縮シタルトキハ其ノ蠶種ニ對シテ蠶種蠶紙ノ印ヲ捺捺スコトヲ得

第十五條 蠶種製造者種蠶證明書ヲ檢査員ハ約失シタルトキハ所轄蠶種検査員ニ報告シ再下付ヲ請求スヘシ

第十六條 蠶種製造者種蠶證明書アル蠶種ノ全部若ハ其蠶種ヲ賣渡シ買受ケ若ハ譲渡シ譲受ケタルトキハ受渡者連署ノ上種蠶證明書ヲ添ヘ所轄蠶種検査員ニ種蠶證明書ヲ報告シ再下付ヲ請求スヘシ

第十七條 地方長官ハ蠶種検査員ノ位置及管轄區域ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

第十八條 蠶種検査員ニ對シテ蠶種検査法第八條第二項ノ検査開始期日ハ毎年九月一日以後トス

第十九條 蠶種検査員ハ品行方正ニシテ左ノ職務ノ一ヲ有スルモノヨリ地方長官之ヲ命スヘシ

一 農商務省農務課所屬農務局農務試驗場又ハ農務局農務試驗場農務課課長ノ認可ヲ有スル者

二 農務局ノ檢定試驗ニ及第シ其證書ヲ有スル者

三 地方長官ノ信託セラルル學校講習所講習員又ハ試驗場ニ於テ蠶種ニ關スル學科ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スルモノ其蠶種ニ關シテ蠶種蠶紙ニ檢査ニ精通セル者

第二十條 地方長官ハ蠶種検査員ヲ命ジタルトキハ其都府廳農務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

第二十一條 地方長官蠶種検査員ヲ命ジタルトキハ蠶種第八條ノ規定ヲ付與スヘシ

第二十二條 蠶種検査員證書ヲ發給シ若ハ約失シタルトキハ地方長官ニ届出テ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第二十三條 蠶種検査員證書ノ紛失ヲ届出タルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得タル學校講習所講習員

若ハ試驗場ニ於テ製造スル蠶種ハ蠶種検査法及本則ニ準シ検査ナリヒ原種トシテ蠶種スコトヲ得但シ此場合ニ於テハ該校所、揚名アル検査合格證印ヲ捺捺スヘシ

第二十五條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ蠶形第九條ニ據リ前年度ノ検査成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 第一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 蠶種検査員監督ノ方法及検査實施ニ關スル手續ハ地方長官之ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ
(書式ハ之ヲ參ス)

蠶種検査ノ手数料ニ關スル件
明治三十年六月
勅令第七十號

朕蠶種検査ノ手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 蠶種検査法ニ據リ蠶種ノ検査ヲ施行スル道廳府縣ハ蠶種検査請求者ヨリ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

一 原種 一 蠶區ニ付 一 區

二 製絲用種 一 枚ニ付 一 錢五厘

第二條 前條ニ依リ徴收シタル手数料ハ府縣ノ收入トス但北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ收入トス

府縣蠶種検査費ニ對スル國庫補助金額
明治三十年七月
勅令第二百四十九號

朕蠶種検査法第十二條府縣蠶種検査費ニ對スル國庫補助金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 蠶種検査法第十二條ニ依リ國庫ヨリ補助スル金額ハ蠶種検査ノ爲ニ要スル費額ノ十分ノ三トス但必要ノ場合ニ於テハ十分ノ二以内ヲ增加付スルコトヲ得

生絲検査所法
明治二十八年六月
法律第三十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル生絲検査所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

生絲検査所法

第一條 生絲検査所ハ横濱及神戸ニ之ヲ設ケ

第二條 本邦製造ノ生絲ヲ賣買スル者ハ内外人ナク同ハス検査ニ對シ生絲ノ検査ヲ請求スルコトヲ得但検査料ヲ徴セス

第三條 生絲検査所ハ農商務大臣ノ所管トシ此ノ法律施行ニ關スル細則ハ同大臣之ヲ定ム

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

生絲検査所法施行細則
明治二十九年四月農商務省令第三號

生絲検査所法施行細則左ノ通相定ム

生絲検査所法施行細則

第一條 生絲検査所ニ於テハ左ノ項目ニ付生絲ノ検査ヲ施行ス

一 原量

二 正量

三 再量

四 縮度

五 節節

六 強力及伸度

七 練度

第二條 生絲検査所法第二條ノ検査請求者ハ甲種蠶形ニ據リ検査ヲ要スル項目ヲ記シ請求書ニ添テ生絲検査所長ニ提出スヘシ

第三條 生絲検査所ニ於テ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ生絲検査所長ハ検査請求書一過ニ生絲搬入及其検査終了ノ時日ヲ記シ之ヲ検査請求者ニ交付ス

第四條 生絲ノ検査ハ請求書受理ノ順序ニ依リモノトス但第三條ニ依リ

指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入セザルトキハ此限ニアラス

第五條 生絲検査所所在地ニ在ラザル生絲検査請求者ハ生絲検査所所在地ニ代理者ヲ置キ検査ヲ請求スヘシ

第六條 検査請求者ハ第三條ニ依リ指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入スルトキハ每一箇ノ重量ヲ記シタル書面ヲ添付スヘシ

第七條 検査ヲ要スル生絲ヲ生絲検査所ニ搬入シタルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ乙種蠶形ノ預書ヲ交付ス

前項ノ預書ハ検査終了ノ後生絲ノ引渡ヲ受ケルトキ之ヲ生絲検査所ニ差出スヘシ

第八條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ荷造ヲ解クトキハ検査請求者ハ之ニ立會フコトヲ得

第九條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ検査ヲ終リタルトキハ生絲検査所ハ生絲一箇毎ニ丙種蠶形ノ検査証正副二通ヲ検査請求者ニ交付ス

第十條 生絲検査終了ノ後第一條第一號及第二號ノ検査ヲ請求セル生絲ヲ除キ生絲一括毎ニ検査済ノ証ヲ貼付ス

第十一條 第一條第一號及第二號ノ検査請求者ハ生絲ノ引渡ヲ受ケルトキ所員ノ立會ヲ請ヒ検査正書ヲ其ノ生絲ニ添ヘ荷造ヲナシ之ニ封印ヲ受ケヘシ

前項荷造ニ係ル費用ハ検査請求者之ヲ負擔スヘシ

第十二條 第十條ノ検査証又ハ第十一條ノ封印ナキ生絲ハ検査ノ效力ナキモノトス

第十三條 生絲検査所ニ於テハ検査請求者ノ搬入シタル生絲ニ對シ適當ノ保護ヲナスト雖モ不可抗力ノ爲損失ヲ致シタルトキハ其ノ責任ニ任セス

第十四條 第一條第三號乃至第六號ノ検査ニ供用シテ消費シタル生絲ハ還付セズ

第十五條 検査ヲ請求セル生絲ニシテ検査ヲ與フルノ價值ナシト認ムルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ其ノ請求ヲ取消サシムルコトヲ得

第十六條 生絲検査所ノ検査ヲ請求スル生絲ハ一箇(八貫目以上)以上ニ

指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入セザルトキハ此限ニアラス

第五條 生絲検査所所在地ニ在ラザル生絲検査請求者ハ生絲検査所所在地ニ代理者ヲ置キ検査ヲ請求スヘシ

第六條 検査請求者ハ第三條ニ依リ指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入スルトキハ每一箇ノ重量ヲ記シタル書面ヲ添付スヘシ

第七條 検査ヲ要スル生絲ヲ生絲検査所ニ搬入シタルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ乙種蠶形ノ預書ヲ交付ス

前項ノ預書ハ検査終了ノ後生絲ノ引渡ヲ受ケルトキ之ヲ生絲検査所ニ差出スヘシ

第八條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ荷造ヲ解クトキハ検査請求者ハ之ニ立會フコトヲ得

第九條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ検査ヲ終リタルトキハ生絲検査所ハ生絲一箇毎ニ丙種蠶形ノ検査証正副二通ヲ検査請求者ニ交付ス

第十條 生絲検査終了ノ後第一條第一號及第二號ノ検査ヲ請求セル生絲ヲ除キ生絲一括毎ニ検査済ノ証ヲ貼付ス

第十一條 第一條第一號及第二號ノ検査請求者ハ生絲ノ引渡ヲ受ケルトキ所員ノ立會ヲ請ヒ検査正書ヲ其ノ生絲ニ添ヘ荷造ヲナシ之ニ封印ヲ受ケヘシ

前項荷造ニ係ル費用ハ検査請求者之ヲ負擔スヘシ

第十二條 第十條ノ検査証又ハ第十一條ノ封印ナキ生絲ハ検査ノ效力ナキモノトス

第十三條 生絲検査所ニ於テハ検査請求者ノ搬入シタル生絲ニ對シ適當ノ保護ヲナスト雖モ不可抗力ノ爲損失ヲ致シタルトキハ其ノ責任ニ任セス

第十四條 第一條第三號乃至第六號ノ検査ニ供用シテ消費シタル生絲ハ還付セズ

第十五條 検査ヲ請求セル生絲ニシテ検査ヲ與フルノ價值ナシト認ムルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ其ノ請求ヲ取消サシムルコトヲ得

第十六條 生絲検査所ノ検査ヲ請求スル生絲ハ一箇(八貫目以上)以上ニ

蠶業講習所蠶種配附規則
明治二十九年農商務省令第五號

蠶業講習所蠶種配附規則左ノ通相定ム

蠶業講習所蠶種配附規則

第一條 本所ニ於テ蠶種配付スル蠶種ハ原種用トシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ無代價ニテ配付ス

第二段 以上ノ蠶種ヲ所有シ毎年二百枚以上ノ蠶實用蠶種ヲ製造スル者

第二條 蠶種配付ヲ請求スル者ハ講習所ノ證明ヲ得テ四月十五日マデニ蠶業講習所ニ出願スヘシ但本年ニ限リ六月三十日マデニ出願スヘシ

第三條 配付スヘキ蠶種ハ請求者一名ニ付五十塊分以上五百塊以下トス

第四條 蠶種ノ配付ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定メ十月三十日マデニ配付スヘシ配付ヲ受ケタル者ハ九月三十日マデニ其旨ヲ通知スヘシ

第五條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記書式ノ成績書ニ左ノ成績ヲ記載シ翌年八月三十一日マデ本所ニ送返スヘシ

二百塊分未満ノ蠶種ヲ受ケタル者ハ 一升以上

二百塊分以上ノ蠶種ヲ受ケタル者ハ 二升以上

第六條 前條ノ義務ヲ履行セザル者ハ爾後三年間蠶種ノ配付ヲ受ケタルヲ得ス

第七條 官立公立若クハ公費ノ補助ヲ受ケタル學校講習所等所屬及試驗場ニシテ蠶業研究ノ爲メ第二條ニ據リ出願スルトキハ第一條ノ資格ヲ有

モサルモ二十五歳分以内ノ獵獲ヲ配付ス但此場合ニハ第五條第六條ヲ適用セシム
(前記ハ之ヲ專ス)

生絲直輸出獎勵法廢止ノ件

明治三十一年五月法律第一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル生絲直輸出獎勵法廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治三十年法律第四十八號生絲直輸出獎勵法ハ之ヲ廢止ス
此ノ法律ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二篇 狩獵

狩獵法 明治二十八年法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル狩獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放電、鎗繩又ハ探テ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第二條 獵獲物、獵銃若ハ危險ナル器具及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケザルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取附規則ヲ設ケルコトヲ得)
第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若クハ銃丸ノ跡スヘキ銃アル建物船舶汽車ニ向テ銃撃ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墳場
- 七 欄柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及耕作中ノ他人ノ共同狩獵地但所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ懸ケルコトヲ得

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受ケルベシ但欄柵圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスルヲ許サズ者ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ノ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免狀ヲ受ケルコトヲ得但此ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣ノ定ム

第八條 免狀ヲ分テテ甲乙ノ二種トス
甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスルヲ許サズ者ニ付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ付スルモノトス

- 第九條 免狀ヲ受ケル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免狀ヲ納ムルベシ
一 第一等 所得稅十五圓以上若クハ地租
 甲種金五圓
 乙種金十圓
二 第二等 所得稅三圓以上若クハ地租四十圓以上納
 甲種金一圓五十錢
 乙種金三圓
三 第三等 第一等以外ノ者
 甲種金五十錢
 乙種金一圓

第十條 甲種免狀ノ有效期間ハ十月十五日ヨリ前年トシ乙種免狀ノ有效期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス
地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セザル者ヲ同伴スルコトヲ得
第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スルベシ
警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 免狀ヲ失シタルトキハ其ノ他ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツルベシ
免狀ヲ失シ若クハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ再換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムルベシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受ケルコトヲ得ス
第十五條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スルベシ

第十六條 遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受ケル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免狀納金其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス
飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ノ卵又ハ雛ヲ取リ若クハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス
第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲

ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得
有者鳥獸ヲ獵取スル爲必要ト認ムル場合ニ於テハ亦同シ

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ違背ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處罰ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス此ノ法律施行以前設定ノ免狀ヲ受ケタル獵者ハ其ノ免狀期間満了力ヲ有スルモノトス

狩獵法施行細則

明治二十八年三月農商務省令第四號

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

第一條 狩獵法第一條ニ掲ケル各種ノ網ハ緊要、技藝、醫術其他ノ振興トシテ網ハ流シ網、張網トシ又網ハ高網、平本網トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル
第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ得但氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ規定ヲ受ケタルコトヲ有ス

及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ
 第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙
 ナリテ納ムヘシ
 第五條 狩獵免狀ハ請求書ニ貼付消印スヘシ
 第六條 狩獵免狀ヲ受ケタルモノニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移
 轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ依リ)ニ其移轉
 ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ
 届出ツヘシ
 第七條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願ス
 ヘシ但シ建設費ハ出願者ノ負擔トス
 第八條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ
 (雛形略之)
 第九條 共同狩獵地ノ免狀ヲ受ケント欲スル者ハ免狀期限ヲ定メ其地形
 面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類
 ナリテ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
 第十條 共同狩獵地ノ免狀スルトキハ其地形面積及變更
 ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大
 臣ニ出願スヘシ
 第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易場所
 ナリテ左ノ雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其官所詳記官署ニ届出ツヘシ
 (雛形略之)
 第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免狀人第十一條ノ制限ニ從

ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免狀ヲ取消スコト
 アルヘシ
 第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ規定ニ準ジテ
 第十四條 左ニ掲ケル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス
 一 鶺鴒
 一 鶺鴒(若鷄ノ除ク)
 一 小雀
 一 二日雀
 一 四十雀
 一 五十雀
 一 椋鳥
 一 鶺鴒
 第十五條 左ニ掲ケル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコ
 トヲ禁止ス
 一 鶺鴒
 一 鶺鴒
 第十六條 左ニ掲ケル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコ
 トヲ禁止ス
 一 鶺鴒
 一 鶺鴒
 一 小雀
 一 鶺鴒
 一 鶺鴒
 一 小雀
 一 鶺鴒
 第十七條 左ニ掲ケル鳥類ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ捕獲スルコト
 ナリテ禁止ス
 一 鶺鴒
 一 鶺鴒
 第十八條 乾鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ捕獲スルコト
 月二十日マテ捕獲スルコトヲ禁止ス
 第十九條 北海道ニ於テハ第十七條ノ捕獲期外マテトモ鹿ノ捕獲ヲ禁止
 ス
 第二十條 狩獵ノ爲メ代價鳥獸ヲ捕獲スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨ
 リ二週日ヲ経過シタル日現在ノ名稱及其數ヲ三十日以内ニ所管官署
 官署ニ届出ツヘシ
 第二十一條 保護鳥獸ヲ捕獲スルコトキハ其受入ノ住所氏名年月日及
 鳥獸ノ名稱數ヲ三十日以内ニ所管官署官署ニ届出ツヘシ

狩獵免狀稅徵收ニ關スル件

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ狩獵免狀稅徵收ニ關スル法律ヲ制定シ之
 ナリテ公布セシム
 明治三十年三月法律第七號
 狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免狀稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ附設シ免狀
 書ニ貼付シテ納ムルコトトス
 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

臘虎臘肺獸獵法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ臘虎臘肺獸獵法ヲ制定シ之ヲ公布セシム
 明治二十八年三月
 臘虎臘肺獸獵法
 法律第十號
 第一條 臘虎臘肺獸ヲ獵獲セムトスル者ハ農商務大臣ノ免狀ヲ受ケヘシ
 第二條 臘虎臘肺獸保護ノ爲メ勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵槍、獵
 具、獵法ヲ制限シ獵獲ノ年輪ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得
 第三條 軍艦艦長、警務官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏
 ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ臘虎臘肺獸保護、獵具及獵獲物ノ検査ヲ行ヒ
 罰則者ト認ムヘキ者及捕具ヲ押前シ獵獲、獵具、獵獲物、船積證書及獵
 獲物ヲ差押フルコトヲ得
 第四條 禁獵區内又ハ禁獵期限ニ於テ臘虎臘肺獸ヲ獵獲シタル者ハ
 一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何
 人ノ所有ナクハス獵槍、獵具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス
 第五條 獵槍、獵具、獵法ノ制限及獵獲、年輪ニ依レンス獵獲ノ禁止ニ違
 背シ又ハ獵槍、獵具及獵獲物ノ検査ニ關スル規則ニ違背シタル者ハ十
 一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六條 第一條ノ免狀ヲ受ケスシテ臘虎臘肺獸ヲ獵獲シタル者ハ二圓以
 上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス
 第七條 第四條、第六條ニ依リ沒收セラレヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタル
 トキハ其ノ代價ヲ追徴ス

臘虎臘肺獸獵免狀規則

臘虎臘肺獸獵免狀規則左ノ通相定ム
 明治二十八年十二月農商務省令第十二號
 第一條 臘虎臘肺獸ヲ獵獲セムトスル者ハ其住所又ハ獵獲地
 場管轄ノ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ依リ)ヲ經由シテ農務
 務大臣ニ出願スヘシ
 第二條 前條免狀書ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ免狀書ニ於
 テ獵獲ヲ使用セス臘虎若クハ臘肺獸ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記
 載スルコトヲ要セス
 一 獵獲ノ種類
 二 本籍及住所
 三 獵獲ノ數及其船名
 四 獵獲地
 五 獵獲期
 六 獵獲法
 第三條 免狀書ヲ添付シタルトキハ左ノ雛形ニ依リ各欄ニ免狀書ヲ付
 ス
 (雛形略之)
 第四條 免狀書ヲ得タル者獵獲ニ從事スルトキハ出洋地管轄官署本分
 署ニ届出テ免狀ノ終了ニ際シ免狀書若クハ管轄地管轄ノ警察本分
 署ニ免狀書ヲ提出シ檢印ヲ受ケヘシ
 第五條 前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケタルコトニ對シテ免狀書ハ免狀ノ
 效力ヲ失フコトトス
 第六條 免狀書ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ請求書ヲ對シ免狀書ニ添付ス

二 船舶検査證書寫
三 船舶検査明細書
四 甲板ノ裝置
五 船内ノ區劃
六 船具及船員室ノ配置
七 漁艇及漁獲具ノ種類及數
八 乘組員數
九 漁獲長經歷書
十 船舶職員並水火夫以下員數
十一 漁獲日誌見書
十二 漁獲ノ種類及方法
十三 漁獲ノ場所及區域
十四 漁獲ノ時期
十五 漁獲物處理法

第二條 農商務大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ検査ノ場所及期日ヲ定メ當該官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ地方官廳ヲ經テ認許證書(舊式第一號)ヲ本人ニ下附スヘシ

第三條 認許證書ヲ受有スル漁業ニ従事スルトキハ毎年一回檢驗ノ検査ヲ受クヘシ

前項漁業ニ従事スルトキハ(一)發着地寄港地及期日ヲ其都府農商務省ニ届出ツヘシ

第四條 認許證書ノ常ニ船内ニ保持シ當該官吏其他職權アル者ニ於テ檢閱セシムトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第五條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ農商務省ヨリ下付セル漁獲日誌ヲ備ヘ同日誌記載心得ニヨリ各事項ヲ記入スヘシ

第六條 認許證書ヲ受有スル者漁獲ノ種類漁獲ノ場所船體機關ノ構造及積載並ニ乘組員數ヲ變更セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シムテ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ變更セタルトキハ其事由ヲ詳細シ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ認許證書ノ效力ヲ失フモノトス

第七條 認許證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其再發給ヲ申請スル事ニ變更シ生シタルトキハ其再發給ヲ申請スル事ニ變更スヘシ

第八條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル者會社解散又ハ破産シタルトキハ其清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第九條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ノ一ニ該当スルトキハ直ニ認許證書ヲ返納スヘシ

一 船舶ヲ賣渡、交換又ハ讓渡シタルトキ
二 漁獲業ヲ廢止シタルトキ
三 船舶ヲ喪失又ハ廢船シタルトキ
四 遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ停止セラレタルトキ

第十條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ發着ノ都府帝國ニ在テハ稅關、稅關支署、警察本分署又ハ捕役場外國ニ在テハ帝國領事館又ハ帝國貿易事務館ニ届出テ其證明ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 明治三十年勅令第七十六號第一條ニ指定セル漁獲又ハ同條ニ指定セル場所ノ漁業ニ従事セル者ハ漁業終了後農商務大臣ノ指定シタル官廳ニ於テ當該官吏又ハ其他特ニ委任セラレタル官吏ヨリ船舶乘組員數ヲ證明ヲ受クヘシ

第十二條 賣買交換又ハ讓渡ニ依リ認許證書ヲ受有ノ船舶ヲ取得シ其事業ヲ繼續セントスル者ハ第一條ノ書類ニ其事實ニ對シテ市町村長ノ證明書又ハ登記ノ簿本ヲ添ヘ農商務省ハ届出シ更ニ認許證書ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ要セスレバ認許證書ヲ下附スルコトアルヘシ

第十三條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業講習生ノ船舶ニ乘組シタルトキハ相當ノ待遇ヲ爲シ中途下船セシムルトキハ農商務大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シムテ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ下船セシムルトキハ其事由ヲ詳細シ更ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

遠洋漁業講習生ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 遠洋漁業講習生ヲ乘組シタル船舶ノ船長漁獲長ハ該講習生ヲシテ技術ヲ講習セシメ漁獲終了ノ後其狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命ジタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ報告スヘシ

第十六條 遠洋漁業獎勵金ヲ請求スルモノハ請求書(第二號舊式)ニ遠洋漁業明細書(第三號舊式)漁獲日誌及第十條第十一條ノ證明書其他漁獲ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添ヘ之ヲ農商務省ニ提出スヘシ

第十七條 農商務省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審查シテ遠洋漁業獎勵金ヲ下附スヘシ

第十八條 遠洋漁業獎勵法違反ニ關シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其該例ノ確定スル迄遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ中止ス

第十九條 遠洋漁業ニ従事スルコト一回五箇月ニ滿タザルトキハ二回以上ヲ通算シ五箇月ヲ經過シタルトキ獎勵金下附ノ請求ヲ爲スコトヲ得

漁業ノ期間一箇年以上ニ涉ルモノハ毎年度末ニ於テ之ヲ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 天災其他抗拒スヘカワラザル強制ニ因リ航行ニ堪ヘスシテ其船舶ヲ外國人ニ賣渡交換贈與買入賣入ヲシタルトキハ船長又ハ所有者ヨリ其事由ヲ具シ農商務省ニ届出ツヘシ

(舊式ハ之ヲ準ス)

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ場所ノ種類トス

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業講習生ノ船舶ニ乘組シタルトキハ相當ノ待遇ヲ爲シ中途下船セシムルトキハ農商務大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シムテ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ下船セシムルトキハ其事由ヲ詳細シ更ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ場所ハ左ノ洋海トス

支那海
臺灣海峽
東海
南海
朝鮮海峽
日本海
荷魯斯新見海
太平洋

第三條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶乘組員ハ左ノ如シ

登壇噸數	百噸以上	乘組定員	三十五名以下
同	二百噸以上	同	四十四名以下
同	二百五十噸以上	同	四十七名以下
同	三百噸以上	同	五十二名以下

●遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵
金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類場所
所並乘組定員

明治三十年六月
勅令第七十號
朕遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類及場所並乘組定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

前項所轄礦山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詳爲又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ特許ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ特許ヲ拒ミタルトキハ關係人ハ所轄礦山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 礦業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄礦山監督署ニ届出テ礦業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十條第三十三條及第三十六條ニ依リ農務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル礦物ノ採掘權ニ對シテ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ礦區ノ採掘權ヲ願出シタルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 礦業人ハ毎年一月前ニ採取シタル礦物ノ量數製産物其ノ販賣高販賣代價行日數及工數ヲ所轄礦山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 礦業人ハ農務大臣ノ定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ製シ製産物ノ數量販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 礦區

第四十一條 礦區トハ礦物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ云フ

礦區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一礦區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ礦物ハ三千坪以上トシ共ニ六千坪ヲ越エズルコトヲ得

第四十二條 出願ニ係ル礦區ノ位置形狀、礦床ノ位置形狀ト相違シ權利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄礦山監督署長ハ農務大臣ノ知シテ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正ヲ提出サザルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル礦區ノ位置形狀、礦床ノ位置形狀ト相違シ權利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄礦山監督署長ハ農務大臣ノ認可ヲ經テ六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セザルトキハ農務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スルコトヲ得

礦業人ハ前項特許取消ノ成分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 礦業人礦業ノ形狀ニ由リ礦區ノ境界若シ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正礦區圖及礦業特許證ヲ添ヘ農務大臣ニ提出シテ所轄礦山監督署ニ提出スヘシ

農務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ礦業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 礦業人礦區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄礦山監督署長其ノ負擔四檢ヲ必要ト認ムルトキハ礦業人ヲシテ出願費員ノ爲ニ前項ノ規定ニ當テ前納セシムヘシ

礦業人前項規定費員當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ納メザルトキハ其出願ヲ無効トス

第四十六條 礦區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割礦區圖及礦業特許證ヲ添ヘ所轄礦山監督署ヲ經テ農務大臣ニ提出スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

礦區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ越ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 採掘トハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄礦山監督署ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ其

區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ礦物ハ三千坪以上トシ共ニ六千坪ヲ越エズルコトヲ得

第四十二條 出願ニ係ル礦區ノ位置形狀、礦床ノ位置形狀ト相違シ權利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄礦山監督署長ハ農務大臣ノ知シテ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正ヲ提出サザルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル礦區ノ位置形狀、礦床ノ位置形狀ト相違シ權利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄礦山監督署長ハ農務大臣ノ認可ヲ經テ六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セザルトキハ農務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スルコトヲ得

礦業人ハ前項特許取消ノ成分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 礦業人礦業ノ形狀ニ由リ礦區ノ境界若シ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正礦區圖及礦業特許證ヲ添ヘ農務大臣ニ提出シテ所轄礦山監督署ニ提出スヘシ

農務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ礦業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 礦業人礦區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄礦山監督署長其ノ負擔四檢ヲ必要ト認ムルトキハ礦業人ヲシテ出願費員ノ爲ニ前項ノ規定ニ當テ前納セシムヘシ

礦業人前項規定費員當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ納メザルトキハ其出願ヲ無効トス

第四十六條 礦區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割礦區圖及礦業特許證ヲ添ヘ所轄礦山監督署ヲ經テ農務大臣ニ提出スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

礦區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ越ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 採掘トハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄礦山監督署ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ其

ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生ズルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テハ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ該地ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帯スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ礦業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ礦業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得

一 坑口ヲ開鑿スル爲

一 礦物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開鑿スル爲

一 礦業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サザルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シテ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ拂フヘシ土地貸渡人ハ借地料ノ保證金ヲシテ土地借受人ニ課シ土地貸渡人ハ土地ノ地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ貸入トナリタル土地ニ對シテ借地料及保證金ハ貸取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ關係人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ貸取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ノ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建築物アルトキハ六十日以内ノ期間ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ新築者ヲ以テ其ノ責ヲ公當スヘシ

土地借受人右期限內ニ取除ナサザルトキハ其ノ建築物等ハ土地貸取人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條 礦業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタル場合ニ於テ土地借受人ハ其ノ土地ノ全部ノ買取若シテ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ礦業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第五十四條 礦業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル日積アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸取人ハ關係人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ礦業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ礦業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地買取代價ニ付債務關係ハサルトキハ所轄礦山監督署長ニ其ノ判決ヲ請求スルコトヲ得

所轄礦山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ地ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ於テハ農務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若シ土地買取代價ニ於テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得

第五十六條 所轄礦山監督署長ノ判定又ハ農務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟法ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 礦業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄礦山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ買取代價ニ不服アルトキハ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケザルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 礦業警察

第五十八條 礦業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲グルモノハ農務大臣之ヲ監督シ礦山監督署長之ヲ行フ

一 坑内及坑外ニ關スル建築物ノ保安

一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
 一 地表ノ安全及公益ノ保護
 第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ預防ヲ命ジ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ
 所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ預防シ難キ場合ヲ除ク外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
 第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ預防ニ着手セザルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ預防ヲ執行スヘシ
 此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ預防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス
 第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
 第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ
 若シ右期限内除去セザルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ
 第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得
 第六十四條 鑛夫トシテ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ
 鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ
 第六十五條 鑛業人ハ鑛夫トシテ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ

十四日以前ニ通知スルコトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得
 第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時モトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得
 一 雇限以上ノ利ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ行爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セザルトキ
 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シテ雇限ノ所爲アリタルトキ
 一 身體健康ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
 一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ
 第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時モトモ其ノ雇役ヲ辭ムルコトヲ得
 一 身體健康ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ
 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セザルトキ
 第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ雇限ノ業務年限 本人ノ技能、其能及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
 鑛業人證明書ヲ與フコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不實ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署長ハ警察官ニ申告スルコトヲ得
 第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラザレバ物品ヲ以テ仕拂フコトヲ得ス
 第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ編ヘシ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ
 第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得
 一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
 一 十四歳以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト
 第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ
 一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ除療費及

一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
 一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補助シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト
 一 前項ノ負傷ニ由リ廢疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト
 第七三條 鑛業税及鑛區稅
 第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十圓ヲ納ムヘシ但一千坪未満ノ鑛數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス
 鑛業税ノ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セズ
 第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル處ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ買代價ニ依ル
 第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
 鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セズ
 第七十六條 鑛業人納稅期限内ニ鑛業税及鑛區稅ヲ納メザルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ取消受付日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第八章 罰則
 第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七十八條 特許ヲ得シテ採掘ヲ爲シタル者又ハ特許ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七十九條 認可ヲ得シテ採掘ヲ爲シタル者又ハ特許ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尚ホ採掘ヲ爲シタルモノハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者第五十九條ノ預防ニ着手セザル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ買得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス
 第八十二條 第十一條ノ買得代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス
 第八十三條 第三十九條ニ依リ出願出テヘキ事項ヲ詐シタル者ハ其ノ違稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ違稅ニ關セザル事項ニ係ルモノハ二圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ隠匿セズ若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐シ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違反シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ減額シ其罪ヲ問ハス
 第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減刑再犯加重數額供役ノ例ヲ用ル
 鑛業人未成年親類白濁又ハ瘡癩ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス
 第九章 附則
 第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得
 第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲セントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政
官第二百五十九號布告日本法廷ハ同日限之ヲ廢止ス

鑛業條例施行規則

明治三十二年二月農商務省令第三號

鑛業條例施行規則
第一條 鑛業ニ關スル願書、請求書、圖面及圖面ハ一件毎ニ調製スヘシ
願書ニ關スル願書又ハ其ノ添附圖面ニシテ本令ニ書式又ハ圖形ヲ定メ
タルモノハ其ノ書式又ハ圖形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業ニ關スル願書、請求書及願書ニシテ登録法第十四條又ハ
明治三十二年勅令第四號ニ規定シタル事項ニ係ルモノハ第十二條ノ
書式ニ準シ相當ノ收入印紙ヲ貼付シタル事項ニ係ルモノハ第十二條ノ
第三條 試掘願書及試掘地圖ヲ同時ニ提出シ難キトキハ願書ニ試掘地時
地圖ヲ添附シテ提出シ置キ試掘地圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ之ヲ
差出スヘシ

第四條 鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リ鑛區圖ヲ添附セシメテ探
掘願書ヲ提出ストキハ鑛區略地圖ヲ添附スヘシ
第五條 鑛業條例第四十七條ノ規定ニ依リテ測量ノ認可ヲ受ケントスル
者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ詳記シタル請求書ヲ提出スヘシ
前項ノ請求ニ因リテ測量認可証ヲ付スルトキハ鑛區監督署長ニ於テ
其ノ有效期間ヲ定メテ之ニ記載スヘシ
測量スヘキ土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ其ノ測量ヲ承諾シタルトキ
ハ認可ヲ受ケルコトヲ要セズ

第六條 試掘地時地圖及鑛區略地圖ハ出願地ノ位置及區域ヲ確定スル目
的ヲ以テ調製スヘシ
試掘地圖及鑛區略地圖ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ
調製スヘシ

第七條 出願區域ハ成レテ方形ニ近キ形狀ニ區別スヘシ
略地圖ヲ以テ試掘又ハ探掘ヲ出願スルトキハ出願地ノ各隅ト爲ルヘキ
測點ニハ不動物體ヲ測定スヘシ若シ不動物體ナキトキハ近傍ニ不動物
體ヲ測定シ測點ニ對シテ測點ヲ測定スヘシ
試掘地圖ヲ以テ試掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛區圖ヲ以テ探掘ヲ出願スル
トキハ願書ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘテ反對ノ位置ニ測定シテ之
ヲ基點ト爲ル測點ニ對シテ測點ヲ測定スヘシ若シ測點ヲ測點ナル不動
物體ニ符合スルトキハ之ヲ基點トナスヘシ
出願區域ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニハ標高ヲ標高計ヲ設置シ之ニ測點ノ
番號ヲ記載スヘシ若シ其ノ標高力不動物體ニ符合スヘキトキハ之ヲ設
置スルコトヲ要セズ

第八條 試掘地時地圖、鑛區略地圖、試掘地圖及鑛區圖ニハ左ノ事項ヲ明
示スヘシ
一 其點及不動物體並ニ其ノ名稱、標高
二 南北線及距離
三 出願地ヨリ五十間以内ニ他ノ試掘地、鑛區又ハ砂鑛採取地アルト
キハ之ト出願地トノ關係
四 出願地内又ハ其ノ附近ニ鑛業條例第二十四條又ハ第二十五條ニ定
メタルモノアルトキハ其ノモノ
五 出願地内又ハ其ノ附近ニ在ル鑛床、遺蹟及其走向、傾斜
第九條 試掘地時願書又ハ鑛區略地圖ニ添附スヘキ圖面ハ試掘地圖
又ハ鑛區圖ニ準シテ調製シ新區區域ヲ明示スヘシ
第十條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第三項ノ規定ニ依ルヘシ
第十一條 他人ノ試掘地又ハ鑛區ニ隣接シテ試掘地又ハ鑛區ヲ得ントス
ル者ハ中間二十間以上ノ距離ヲ要シ出願スヘシ但シ隣接他人ノ承諾ヲ
得タルトキ又ハ試掘地ニ於テ出願ノトキハ此ノ限ニ在ラズ
鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲メ必要ナルコト認ムルトキハ所轄鑛區監督
署長ハ前項ノ距離ヲ五十間延長スルコトヲ得
第十二條 試掘願書ハ探掘ヲ出願スル者、探掘特許證發給後第三日ヲ以テ新
區輸入ト爲ルヘキ者又ハ出願人變更願書ニ因リテ新區輸入ト爲ルヘキ

者二人以上ナルトキハ總代一名ヲ選定シテ之ヲ願書ニ記載スヘシ若シ
之ヲ記載セザルトキハ初筆出願人ヲ以テ總代ト看做ス
前項ノ總代ハ出願ノ取消及出願人ノ變更ヲ除外共同出願人ヲ代表ス
ルモノトス
第十三條 會社カ鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ願書ヲ提出ストキハ其
ノ願書ニ社印ヲ捺シ且會社ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ
第十四條 試掘又ハ探掘ヲ出願シタル者ハ其ノ出願區域ノ變更ヲ出願ス
ルコトヲ得ス
第十五條 探掘出願人ヲ變更セントスルトキハ新舊出願人ノ連署連印シ
タル願書ヲ所轄鑛區監督署長ニ提出スヘシ
第十六條 相鄰接スル鑛區ノ鑛業人カ鑛業條例第四十四條ノ規定ニ依リ
關係鑛區ヲ増減シテ相互ノ境界ヲ訂正セントスルトキハ連署連印シタル
鑛區訂正願書ニ改定境界ヲ圖示シタル現狀圖及別ニ調製シ
タル訂正鑛區圖ヲ添附スヘシ
第十七條 探掘權ニ對シテ抵當權ヲ有スル債主アル場合ニ於テ鑛區ノ液區
訂正ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ債主ノ承諾書ヲ添附スヘシ
第十八條 鑛業特許證書、換領書、鑛區訂正願書、鑛區合併願書、鑛區分割
願書、探掘特許證書、探掘ノ廢業願書及鑛業條例第九十條ノ規定
ニ依リ探掘特許證書ニハ鑛業特許證若ハ借取券ヲ添附スヘシ
第十九條 試掘願書、探掘願書、試掘地時願書、鑛區訂正願書、試掘地時
願書及試掘又ハ探掘ノ廢業願書ハ寄附郵便ヲ以テ提出スヘシ
前項ノ願書ヲ提出スル者ハ發送郵便局ニ於テ受付ノ年月日及時刻ヲ記載
シタル寄附郵便物受取證ヲ添附スヘシ
第三條又ハ鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リテ願書ト同時ニ提出
ササル試掘地圖又ハ鑛區圖及第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ
テ所轄鑛區監督署長ヨリ期日ヲ指定シテ修正又ハ補充ヲ命ゼラレタル
願書又ハ其ノ添附圖面ヲ提出ストキハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ但シ期限
ノ末日ニ提出ストキハ三日以内ニ寄附郵便物受取證ヲ提出スヘシ
第二十條 試掘、探掘、試掘地ノ訂正、鑛區訂正或ハ試掘延期ノ出願日時
及前條第三項ノ願書、圖面或ハ廢業願書ヲ提出日時ハ發送郵便局ヨリ

交付シタル寄附郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム
前條第二項ノ受取證ヲ提出シタル場合ニ於テ其ノ指定期日迄ニ之
ヲ提出サザルトキハ郵便物消印後ノ時時刻刻ニ書類又ハ圖面ヲ提出シ
タルモノト看做ス
第二十一條 鑛區監督署長カ試掘願書又ハ探掘願書ヲ受理シタルトキハ
其ノ出願地ノ地方長官ニ其ノ願書ノ要旨ヲ通知スヘシ
地方長官ハ出願地ノ試掘又ハ探掘ニ付キ意見アルトキハ前項ノ通知ヲ
受ケタル日ヨリ五十日以内ニ其ノ意見書ヲ所轄鑛區監督署長ニ送付ス
ヘシ
第二十二條 鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ圖面力不備ナルトキハ所
轄鑛區監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ之ヲ修正又ハ補充セシム
ヘシ
第二十三條 試掘又ハ探掘ノ出願區域ノ一部カ鑛業條例ニ依リ鑛業ヲ許
可スヘカラザルモノナルトキ又ハ他人ノ試掘地若ハ鑛區ト重疊スルト
キハ所轄鑛區監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ願書及圖面ヲ修正
セシムヘシ試掘地又ハ鑛區ノ訂正願書ニ付テモ亦同シ
第二十四條 探掘出願地ニ鑛物ノ存在スル事實ヲ認定スル爲メ必要ナル
ト認ムルトキハ所轄鑛區監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ鑛床ニ
關スル證明書又ハ鑛物ノ標高ヲ提出シタルコトヲ得
第二十五條 鑛區監督署長ハ公益上預防ノ設備ヲ命ズル必要アリト認ム
ルトキハ期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業人ヲシテ其設備ニ關スル設
計書ヲ提出シタルコトヲ得
第二十六條 鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛區監督署長ヨリ鑛業ニ關ス
ル書類又ハ圖面ヲ提出シタルモノトキハ指定ノ期日迄ニ之ヲ提出
スヘシ
第二十七條 鑛業ニ關シ農商務大臣又ハ鑛區監督署長ニ提出シタル書
類、圖面又ハ標高ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セズ
第二十八條 鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛區監督署長ヨリ試掘地、鑛
區其ノ他鑛業ニ關スル圖面ノ爲メ立會ヲ命ゼラレタルトキハ指定ノ期
日ニ立會ヲ爲シ且調査事項ニ關スル說明ヲ爲スヘシ立會ノ期日ハ正當

ノ理由アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
立會ヲ命スルニハ正當ノ理由アル場合ヲ除ク外少クモ十五日前ニ之
ヲ通告シ期日確定シタルトキハ少クモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ
礦業出願人又ハ礦業人カ自ラ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ代理人ヲ
差出スヘシ

第三十九條 礦業ニ關スル願書、請求書又ハ届書カ左ノ各號ノ一ニ該當
スルトキハ之ヲ受理セズ此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ明示スヘシ
一 第十九條第一項ノ規定ニ違反シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
二 登録料又ハ手数料ノ上納書ヲ添附セサルトキ
三 試掘願書、採掘願書、試掘地訂正願書又ハ礦區訂正願書ニ圖面ヲ添
附セズ又ハ添附圖面ニ依リ出願ノ區域分明ナラサルトキ
第三十條 礦區ニ關スル願書又ハ請求書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ
ハ所轄礦山監督署長ニ於テ事由ヲ明示シテ之ヲ却下スヘシ
一 第三條ニ定メタル期間内ニ試掘地圖ヲ差出ササルトキ
二 第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄礦山監督署長カ指
定シタル期日迄ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
三 第二十四條ノ規定ニ依リテ所轄礦山監督署長カ指定シタル期日迄
ニ願書又ハ標品ヲ差出ササルトキ
四 出願人カ第二十五條ノ規定ニ依リテ所轄礦山監督署長カ指定シタ
ル期日迄ニ設計書ヲ差出ササルトキ
五 出願人カ正當ノ理由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ
爲ササルトキ
六 出願地圖調査ノ際出願人カ其ノ區域ヲ明示スルコト能ハサルトキ、
其ノ指示スル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ又
ハ標品ノ存在ヲ證明スルコト能ハサルトキ

第三十一條 試掘ヲ認可スルトキハ試掘地圖ニ認可ノ番號ヲ記入シ所轄
礦山監督署ニ保存スル試掘地圖ト契印シテ之ヲ出願人ニ下付ス
採掘ヲ特許スルトキハ礦區圖ニ特許ノ番號ヲ記入シ農商務省及所轄礦
山監督署ニ保存スル礦區圖ト契印シテ之ヲ礦業特許證ニ添附シ出願人
ニ下付ス

第三十二條 試掘又ハ採掘ヲ許可セザルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
第三十三條 礦業人カ第三十一條ノ規定ニ依リテ下付セラレタル圖面ヲ
毀損若ハ失シタルトキハ所轄礦山監督署長ニ於テ、再下付ヲ出願スル
コトヲ得

第三十四條 礦業條例第六條ノ規定圖面ハ試掘、採掘又ハ礦業特許證
換ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第三十五條 礦業人カ前條ノ期間内ニ總代願書ヲ差出ササルトキハ第十
二條第一項ニ定メタル出願ノ總代ヲ以テ礦業條例第六條ノ總代ト看做
ス

第三十六條 礦業人カ自ラ礦業ヲ管理セザルトキハ礦業代理人ヲ選定セ
連署連印シタル願書ヲ所轄礦山監督署長ニ提出スヘシ

第三十七條 礦業代理人ハ左ノ制限ヲ受ケラレタルモノト看做ス但
礦業人カ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘザルトキハ礦業代理人選定ノ限出ト夫
ニ其ノ旨ヲ届出スヘシ

一 試掘延期ヲ出願スルトキ、試掘特許證又ハ認可ヲ取山出願スルトキ、
礦業條例第十一條第一項ノ金額ヲ納ムルコト、礦業條例第三十條ノ
出願スルトキ、坑内實測圖ヲ提出シ又ハ坑内實測圖ノ證明ヲ請求ス
ルコト、礦業條例第三十九條ノ届出ヲ爲スコト、同第四十條ノ願書
ヲ調整スルトキ、同第五十五條ノ規定又ハ規定ヲ請求スルトキ、礦
業條例第六條ノ規定又ハ規定ヲ請求スルトキ、礦業條例第九十九條ニ依
リテ採掘特許ヲ出願スルトキ

二 第三十三條ノ規定ニ依リテ圖面ヲ再下付ヲ出願スルトキ、第四十
二條及第四十三條ノ届出ヲ爲スコト、礦業條例第十四條、第十
七條、第十九條及第二十一條ノ出願又ハ届出ヲ爲スコト

三 所轄礦山監督署長ノ命令通知ヲ受ケタルコト及其命令ヲ執行スルコ
ト

第三十八條 試掘人ハ試掘地圖、採掘人ハ左ノ書類及圖面ヲ礦業事務所
ニ備ヘ置クヘシ
一 礦區圖

二 礦業施業案
三 礦業條例第四十條ノ規程
第三十九條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ且其ノ願書ニ試掘ノ成績及其ノ
事業ヲ述ベ難キ事山ヲ詳記スヘシ

第四十條 礦業條例第十條ノ規定ニ依リテ礦物ノ販賣セントスル者ハ試
掘ノ認可書ヲ差出スヘシ但試掘地ニ於テ採掘ヲ出願シタルトキ、試掘ノ
滿期又ハ廢業ノトキニ非サレハ之ヲ認可セズ

第四十一條 礦業施業案、礦業條例第三十九條ノ願書及同第四十條ノ規
程ハ第四號乃至第六號ノ圖形ニ準シテ之ヲ調整スヘシ
二箇以上ノ礦區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類モ亦各
合併シテ之ヲ調整スヘシ

第四十二條 礦業條例第三十九條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ナキトキ
ハ其ノ旨ヲ届出スヘシ

第四十三條 礦業條例第三十九條ノ願書ハ採掘ノ廢業又ハ採掘權讓渡ノ
場合ニ於テハ其ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ但届出ツヘキ事
項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出スヘシ

第四十四條 坑内實測圖ハ第三號ノ圖形ニ準シテ調整シ毎年六月末日及
十二月末日ノ現況ヲ明示シ各八月末日及二月末日迄ニ所轄礦山監督署
長ニ差出スヘシ但前期ニ差出シタル坑内實測圖ハ請求ニ因リテ之ヲ下付
ス

二箇以上ノ礦區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ坑内實測圖モ亦合
併シテ之ヲ調整スヘシ

第四十五條 礦業條例第三十一條第三項ノ規定ニ依リテ坑内實測圖ノ證
明ヲ得ントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第四十六條 礦業條例第三十五條ノ規定ニ依リテ礦山監督署長ノ判定ヲ
請求スル者ハ請求書ニ通テ作リ之ニ對手人ノ氏名、住所及請求ノ理由
ヲ記載シ請求人ノ出願セントスル試掘地又ハ礦區ノ圖面ヲ添附シテ之
ヲ差出スヘシ

礦業條例第五十五條第一項ノ規定ニ依リテ礦山監督署長ノ判定ヲ請求

スル者ハ請求書及對手人ノ數ニ相當スル副本ヲ作リ之ニ請求ニ關スル
土地ノ種目、面積、地價、對手人ノ氏名、住所、請求ノ事項及理由
由、對手人ト協議シタル事實及請求人ニ於テ住居ハントスル金額ヲ記
載シ願書土地ノ實測圖及工事設計書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

礦業條例第三十六條又ハ第五十五條第二項ノ規定ニ依リテ農商務大臣
ノ決定ヲ請求スル者ハ前二項ノ規定ニ從ヒテ作リタル請求書ニ決定書
ノ附本ヲ添附シテ之ヲ所轄礦山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 礦山監督署長カ前條ノ請求書ヲ受理セザルトキハ之ヲ對手
人ニ送付スヘシ

對手人カ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ證明書ヲ差出ス
ヘシ

對手人カ前項ノ期間内ニ證明書ヲ差出ササルトキハ礦山監督署長又ハ
農商務大臣ハ其ノ證明書ヲ差出サザルコトヲ決定スルコトヲ
得

第四十八條 相續ニ因リテ礦業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル
礦業人ハ月籍定ニ届出タル日ヨリ三十日以内ニ其證明書ヲ受ケ且證明書
許證又ハ借區券ヲ添附シテ所轄礦山監督署長ニ届出シ其ノ訂正ヲ受ケ
ルヘシ

第四十九條 相續ニ因リテ礦業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル
礦業人ハ月籍定ニ届出タル日ヨリ三十日以内ニ其證明書ヲ受ケ且證明書
許證又ハ借區券ヲ添附シテ所轄礦山監督署長ニ届出シ其ノ訂正ヲ受ケ
ルヘシ

礦業出願人カ死亡シタルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ前項ニ
準シテ届出スヘシ

第四十九條 會社カ礦業出願人又ハ礦業人ト爲ル場合ニ於テ其ノ社名又ハ
代表者ヲ變更シ其ノ變更所ヲ修繕シ又ハ會社カ解散シタルトキハ十月
以内ニ其ノ旨ヲ所轄礦山監督署長ニ届出スヘシ

第五十條 礦業出願人又ハ礦業人ニ命令通知ヲ受ケタル場合ニ於
テ其ノ住所カ不明ナルトキハ十日以内ニ其ノ住所ヲ所轄礦山監督署長
ニ指示スルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間ノ末日ニ命令通知ヲ受ケ
タルモノト看做ス

第五十一條 礦業條例第三十條、第三十三條第二項、第三十四條第二項、
第四十三條第二項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ行政裁判所ニ出願シ
タル者又ハ同第三十四條第一項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ニ訴願シ

ル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ所轄礦山監督署長ニ届出ツヘシ
 第五十二條 礦業條例第二十八條、第二十九條、第四十三條第一項若ハ第
 七十六條ノ規定ニ依リテ探採特許ヲ取消シ又ハ同第三十七條ノ規定ニ
 依リテ廢業ヲ届出タル場合ニ於テ其ノ探採權ニ對シ抵當權ヲ有スル
 債主アルトキハ所轄礦山監督署長ハ之ヲ其ノ債主ニ通知スヘシ
 第五十三條 試掘又ハ探採ハ廢業屆書差出ノ日時ニ於テ廢業シタルモノ
 ト看做ス
 第五十四條 左ノ場合ニ於テハ礦業人チ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處
 ス
 一 坑内貫通圖ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタ
 ルトキ
 二 第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ罰額又ハ罰金ノ差出ヲ
 命セラレタル場合ニ於テ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出サザルトキ
 三 第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲サズ又ハ調査事項ノ說明ヲ
 爲サザルトキ
 四 第三十八條ノ書類又ハ圖面ヲ備ヘ置カザルトキ
 五 第三十六條、第四十二條、第四十三條、第四十八條、第四十九條、第
 五十一條、第六十條又ハ礦業條例第三十九條ノ規定ニ違反シテ届出
 テ爲サザルトキ
 第五十五條 前條ノ規定ハ礦業代理人及會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス
 附則
 第五十六條 礦業條例施行以前ニ差出シタル試掘證書又ハ借區證書ニシテ
 本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラザルモノハ礦業條例ニ依リテ試掘證書又
 ハ探採證書ト看做シ處分スヘシ
 第五十七條 本令施行以前ニ差出シタル證書又ハ請求書ニシテ本令施行
 ノ日迄ニ處分ヲ終ラザルモノハ本令ニ依リテ證書又ハ請求書ト看做シ
 處分スヘシ
 第五十八條 本令施行以前ニ差出シタル證書又ハ請求書ニシテ明治二十
 七年勅令第百三十二號メタル手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタルモ
 ノハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第五十九條 本令施行以前ニ差出シタル區域變更證書ハ本令施行ノ後ト
 雖モ仍ホ有效トス
 第六十條 本令施行ノ日ヨリニ於テ會社ヲ礦業出願人又ハ礦業人タル場合
 ニ於テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ代表者ヲ所轄礦山監督署
 長ニ届出ツヘシ
 第六十一條 本令施行前ノ行為ニ付テハ其ノ施行ノ後ト雖モ明治二十七
 年農商務省令第六號ニ定メタル規則ヲ適用ス
 第六十二條 本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス
 第六十三條 明治二十七年農商務省令第六號及明治二十九年農商務省令
 第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 (舊式ノ之ヲ廢止ス)
 ●砂鑛採取法 明治二十六年三月 法律第十號
 朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ砂鑛採取法ヲ制定シテ公布セシム
 砂鑛採取法
 第一條 此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫、及砂鐵ヲ謂フ
 第二條 砂鑛ヲ採取セムト欲スル者ハ所轄礦山監督署長ヲ經由シ農商務
 大臣ノ許可ヲ受テ得ヘシ
 第三條 採取ノ事業ヲ繼續サムトスルモノハ所轄礦山監督署長ヲ經由シ
 農商務大臣ノ許可ヲ受テ得ヘシ(明治二十八年法律第三十號ヲ以テ本條
 ヲ追加シ以下順次修正ス)
 第四條 採取人中ニ於テ姓名スルトキハ其ノ人名ヲ所轄礦山監督署長ニ届
 出ツヘシ
 第五條 帝國臣民ニ非ザルハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又
 ハ會社員トナルコトヲ得ス
 採取人未成年、廢疾、白痴又ハ癡癡ナルトキハ後見人ヲ立テ得ヘシ
 農商務大臣及所轄礦山監督署長ノ實地ハ在野中採取人トナリ又ハ採取業
 ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス
 第五條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ關スルトキハ所有者又ハ關係人ノ

承諾ヲ受ケヘシ土地所有者又ハ關係人ハ自ら採取ヲ出願スルトキノ外
 前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料
 ヲ要求スルコトヲ得
 第六條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ
 許可セズ
 第七條 採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許
 可ヲ取消スコトヲ得
 第八條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルモノトキハ所轄礦
 山監督署長ハ採取人ニ其ノ探採ヲ命ジ又ハ採取業ヲ停止スヘシ
 所轄礦山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムトスルトキハ其ノ探採證書
 又ハ採取業停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄礦山監督署長ハ其
 ノ停止ヲ解除セシム
 第九條 採取人前條ニ依リ命セラレタル探採ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ
 既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得
 第十條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ
 受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ採取ニ着手セザルトキハ農商務大臣ノ許
 可ヲ取消スコトヲ得
 第十一條 許當又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルモノトテ發見シタルト
 キハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若シ其ノ許可ニ付利害ノ關係
 ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其
 ノ許可ヲ取消シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得
 第十二條 第七條第八條第九條及第十條ノ規定ニ不服アルトキハ其ノ違
 ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十三條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年
 間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
 第十四條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ
 其ノ賃金ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコ
 トヲ得ス
 一 洗鑛ノ爲

一 製鑛所建設ノ爲
 一 洗鑛用水及洗濯開鑛ノ爲
 第十五條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ賃地料
 ヲ任拂フヘシ
 其ノ賃入トナリタル土地ニ對スル賃地料ハ賃地主ニ於テ之ヲ受領スル
 モノトス
 土地使用ニ依リ賃地料又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキハ採取人ハ之ニ
 對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ
 第十六條 採取人賃地料ノ任拂ヲ延滞セタルトキハ土地所有者ハ其ノ土
 地ヲ取戻スコトヲ得
 第十七條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキ
 ハ其ノ土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採
 取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十八條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分給シテ賣渡シ又ハ賃渡シタルカ
 爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者又ハ採取人ニ對シ其ノ土地全
 部ノ買取ヲ借受テ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ之ヲ拒
 ムコトヲ得ス
 第十九條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地賃渡、採
 取料、賃地料、損害賠償金又ハ土地賃買代金ニ付協議調ハサルトキハ
 所轄礦山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得
 所轄礦山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ
 三十日以内ニ土地賃渡ニ於テハ農商務大臣ニ其判定ヲ請求シ採取料、
 賃地料、損害賠償金若ハ土地賃買代金ニ於テハ裁判所ニ出訴スルコト
 ヲ得
 前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス
 第二十條 所轄礦山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要
 スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
 第二十一條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄礦山監督署長ノ
 判定シタル採取料、賃地料、損害賠償金又ハ土地賃買代金ニ不服アルモ
 其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケザルトキハ其ノ金

願テ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得
第二十二條 許可ヲ得シテ採取スル者又ハ許得ニ由リテ許可ヲ
得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ
引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得
第二十四條 砂鑛採取ノ管轄其ノ他國土保安ニ關シ必妥ナル規定及此ノ
法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
第二十五條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

砂鑛採取法施行細則

明治三十二年二月農商務省令第四號

砂鑛採取法施行細則
第一條 砂鑛採取ニ關スル願書及添附實測圖ハ本令ニ定ムル書式及體
形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

前項ノ願書ニハ第四號ノ書式ニ準シ明治三十二年勅令第四號ニ定ムル
ル手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル上納付シ添附スヘシ
第二條 採取區域内ノ土地方他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所
有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添附スヘシ若シ承諾書得ルコト雖ハサルト
キハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
第三條 土地所有者又ハ關係人ハ採取ノ出願ヲ承諾セザルトキハ所轄鑛
山監督署長ハ六十日以上ニ於テ期日ヲ指定シ其ノ土地所有者又ハ關係
人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ若シ其ノ期日迄ニ願書ヲ差出サザルト
キハ出願セザルモノト行儀ス
第四條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局
ノ指印ニ依リテ差出ノ日ヲ定ムルモノトス
第五條 礦業條例施行細則第四十六條及第四十七條ノ規定ハ砂鑛採取法

第十一條ノ規定ニ依リテ採取許可ノ取消ヲ請求セ又ハ同法第十九條ノ
規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ決定又ハ農商務大臣ノ決定ヲ請求スル場
合ニ之ヲ準用ス
第六條 採取人ハ第三號ノ願書ニ準シテ前年中ノ砂鑛採取量明細表ヲ開
列シ毎年二月末日迄ニ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ
採取人ハ廢業シ又ハ採取業ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第三號ノ
願書ニ準シテ願書ヲ提出シタル明細表ヲ差出スヘシ
前二項ノ規定ニ依リテ明細表ヲ差出ス場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項
ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
第七條 採取人ハ廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツ
ヘシ
附則ノ日ハ前項ノ願書差出ノ日トス
第八條 礦業條例施行細則第十三條、第二十一條及第二十三條、第二
十五條乃至第三十條、第三十二條及第四十八條乃至第五十條ノ規定ハ
砂鑛採取ニ之ヲ準用ス
第九條 左ノ場合ニ於テハ採取人ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第六條ノ手數料ヲ爲サザルトキ
二 礦業條例施行細則第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ準シテ差出
スヘキ書類又ハ願書ヲ指定ノ期日迄ニ差出サザルトキ
三 礦業條例施行細則第二十八條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ文書ヲ爲サ
ズ又ハ調査事項ノ證明ヲ爲サザルトキ
四 礦業條例施行細則第四十八條、第四十九條又ハ第六十條ノ規定ニ
準シテ爲スヘキ届出ヲ爲サザルトキ
第十條 前條ノ規定ハ會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス
第十一條 本令施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ハ明治三十二年勅令
第四號施行ノ後ニ雖モ仍ホ有效トス
第十二條 礦業條例施行細則第五十七條、第五十八條、第六十條及第六
十三條 本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス
第十三條 本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス
第十四條 明治廿七年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(書式ハ之ヲ參ス)

鑛業及砂鑛採取業ニ關スル
手數料ノ件

明治三十二年一月
勅令第四號

砂鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
鑛業及砂鑛採取業ニ關シ左ニ掲グル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ收入印紙ヲ
以テ每件左ノ手數料ヲ納ムヘシ

- 採取特許出願人變更願 金十圓
- 坑内實測圖證明請求 金十圓
- 測量認可請求 金五圓
- 鑛業特許證再下付願 金五圓
- 鑛區又ハ試掘地許可圖再下付願 金五圓
- 鑛業條例第九十條ニ依リ採掘特許願 金十圓
- 砂鑛採取願 金十圓
- 但シ河床ニ在テハ延長五里迄毎ニ其ノ他ニ在テハ六十萬坪迄毎ニ一
件トス
- 砂鑛採取業讓渡願 金十圓
- 鑛山監督署長ノ決定請求 金十圓
- 農商務大臣ノ決定請求 金十圓

本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス
明治二十七年勅令第百號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
〔參照〕 明治二十七年勅令第百號ハ鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料
ノ件ナリ

地質調査所分析試驗手數料
徵收方

明治二十五年七月
勅令第六十三號

農商務省地質調査所ニ於テ爲ス分析試驗ニ關スル手數料徵收ノ件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 農商務省地質調査所ニ分析試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ據
ヒ手數料ヲ納ム可シ
一 一性分ノ定性分析ハ金一圓トス 一性分ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加フ
二 鑛物工業用原料製品等中一性分ノ定量分析ハ金二圓トス 一性分ヲ
増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
三 一合屬ノ乾式定量分析ハ金二圓トス 一性分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加
フ
四 鑛物類ノ比重、硬度等ノ檢定ハ一廉每ニ金五十錢トス
五 耐火材料用ノ粘土、煉灰石等ノ火熱ニ於ケル質點、陶磁器、煉化
石、「セメント」原料用粘土類ノ透視分析及口應用試驗ハ金二圓以上
金二十圓以下トシ試驗ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル
所ニ依ル
六 漆油等ノ比重、粘着力、引火點、凝結點、沸騰點、乾燒實ノ試
驗ハ一廉每ニ金五十錢トス 金屬ニ於ケル作用、附着力及「アセチレン」
作用、酸類ノ定量分析、沃度化合物、酸化數等ノ試驗ハ第二號ニ準
ス
七 建築材料等ノ吸水力、耐壓力、耐延力測定ニ於ケル作用、石灰ノ「モ
ルタル」製出力等ノ試驗ハ一廉每ニ金一圓トス
八 「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、硬化ノ時間、粉水ノ加數、
硬化ノ際膨脹ノ程度等ノ現狀等ノ試驗ハ一廉每ニ金五十錢ノ力加テ耐
壓力及ニ耐延力等ノ檢定ハ一廉每ニ金一圓以上金十圓以下トシ試驗
ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
九 右各款外ニシテ化學工業ニ關スル「セメント」試驗手數料ハ前平
四合ニ準シ時時農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル
十 時日ヲ限リ分析試驗ヲ依頼スルトキハ前平手數料ノ二倍トシ同人
ヲシテ同種類ノモノ五圓以上ノ試驗ヲ同時ニ依頼スルトキハ前平手
數料ノ二割ヲ減ス
第二條 前條ノ手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
第三條 本令ハ明治二十五年八月一日ヨリ施行ス

造幣規則 明治三十年四月 勅令第三十八號

- 第一條 金貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ金地金ヲ造幣局ニ輸納スヘシ...

金銀地金精製及品位證明規則

- 第一條 造幣局ハ金銀地金ノ精製又ハ品位證明ヲ請フ者アルトキハ本規...

貿易銀一般通用ヲ許ス

明治十一年五月第十二號 貿易銀ノ價ハ從來各開港場貿易銀ノ爲メ...

一圓銀貨通用禁止ノ件

明治三十年九月勅令第三十八號 一圓銀貨幣通用禁止ノ件ヲ裁可シ...

一圓銀貨幣引換ニ關スル件

明治三十一年六月法律第五號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル一圓銀貨幣引換ニ關スル法律ヲ裁可シ...

政府極印附一圓銀貨臺灣ニ使用ノ件

明治三十年十月 朕臺灣ニ於テ政府極印附一圓銀貨幣公納使用ノ件ヲ裁可シ...

輸納地金ノ精製手數料ニ關スル件

明治三十一年二月 朕輸納地金ノ精製手數料ニ關スル件ヲ裁可シ...

流通不便ノ金銀銅貨交換方

明治二十二年二月大藏省令第三號 流通不便ノ金銀銅貨ハ本年四月一日以後...

通用貨幣溶解及毀傷スルヲ禁ス

明治十二年一月 通用貨幣ヲ溶解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等...

Table with 4 columns: Weight (e.g., 1000g), Purity (e.g., 999.9), and Price (e.g., 97.17).

第三條 外國紙幣及私印紙幣ハ廢止シテ公納ニ用フルコトヲ規定シアルモノハ此ノ限ニアラス

一圓銀貨無制限通用ニ關スル件

海峽總督府評議會ノ議決ヲ經テ一圓銀貨無制限通用ニ關スル律令勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

紙幣

維新以來太政官或三民部官發行ノ金札製造ノ粗ナレド其製造ヲ謀ル者同開有之且又從來舊幣ニ於テ發行ノ金銀錢札ハ其管轄限ノ通用ノ儀ニ付

所ニ紙幣ヲ以テ記入致シ各地方ニオイテ同様に取付合ノ地又ハ人民購得ノ場所ヘヨリ各布告文同様に指示イテ置キ爾レハ人民ハ相示シ候儀可致段更ニ相違候事

十圓五圓一圓三種ノ紙幣改

現今流通ノ紙幣ハ紙質脆弱等ノ憂不少候ニ付此度十圓五圓一圓三種ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候儀此布告候事但シ差向一圓紙幣製造出來ニ付右見本札各幣額ニ下ケ渡候事

五十錢二十錢兩種ノ紙幣改

中國二十錢ノ紙幣交換ノ爲メ五十錢二十錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候儀當分ノ內在來ノ紙幣ヲ取交通用スヘシ但シ本紙幣ノ見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下ケ渡スヘシ

紙幣漸次銀貨ニ交換

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次金貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ

損紙幣交換規則

明治十七年四月大藏省告示第四十一號

損紙幣交換規則

右ニ照準シ引換方可取計候此旨告示候事
水火災或ハ鼠喰鼠咬等ノ爲メ毀損セシモノヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取札シ左ノ箇條ニ照準交換スヘシ

國立銀行紙幣ノ通用及引換

期 限 明治二十九年三月
法律第八號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

ヲ所持人ノ損失トス
第三條 本法ハ官命又ハ平穩商店ニ係リ國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用ス

政府發行紙幣通用廢止ニ關スル件

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ政府發行紙幣通用廢止ニ關スル法律ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

通用禁止ノ貨幣引換期限

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ通用禁止ノ貨幣引換期限ニ關スル法律ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業滿期國立銀行處分法並

國立銀行營業滿期特別處分法ニ依リ處分ヲ爲シタル國立銀行ヨリ發行セル紙幣ノ交換義務引受ニ關スル件

營業滿期國立銀行處分法並國立銀行營業滿期前特別處分法ニ依リ處分ヲ爲シタル國立銀行ヨリ發行セル紙幣ノ交換義務ハ右處分後總テ政府ニ於テ之ヲ引受テ其事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルニ付自今其都度之ヲ公示セス

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

明治九年四月

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ輸入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

- 第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其前ニ於テ斷裁シ速ニ其發覺察出候所或ハ屯所或ハ區長ニ差出シ其願末ヲ申立テハシ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ運送シ來ルル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷裁シ速ニ鑑定主ニ報告スヘシ
- 第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷裁シタル時ハ改入ヨリ持主ハ其斷裁シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷裁シタル紙幣ハ奉由ヲ詳記シ管轄廳ニ引換テセフヘシ
- 第三條 若シ正貨紙幣ニ雖キモ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ヲ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ニ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正貨ニシテ其製充分ナラス通川ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル
- 第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷裁シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ
- 第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷裁セズシテ持主ニ還付シ又ハ申立テ等關ニスル者ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

變造紙幣取扱方

明治九年五月六日省令第十二號布告

本年四月六日省令第五十七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條金銀銅貨紙幣贋造品ハ其持主面前ニ於テ斷裁シタル後之ヲ管轄廳ニ送付シ同條ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ十圓ニ十圓札ヲ二十圓或ハ中國ニ變換シ類似比有之者ハ案ヨリ贋造品共異リ斷裁候テハ不都合ニ付該紙幣見候ハハ其面ノ紋色(紙幣ノ通稱種毎ニ異ニ紙幣ノ紋色ヲ分テ)及ヒ描改ノ痕ヲ所持人ハ明示シ其發覺察出候所等ハ差出候所ニ於テハ右紙幣ノ原因其外取札處分相濟候ハ引換切ニ取計(紙幣)ハ相納候所ト可相心得此旨布告候事

(別紙裏面ニテモス)

國債證券買入銷却法

明治二十九年二月法律第五號

朕命以議會ノ爲贊ヲ經テ國債證券買入銷却法ヲ制定シ之ヲ公布セ

第一條 政府ハ每年度國債證券買入銷却法以內ニ於テ國債證券買入ノ之ヲ銷却スルコトヲ得

第二條 國債證券買入銷却法ニ於テ銷却スルコトヲ得

第三條 銷却ノ爲ニスル國債證券買入ノ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二篇 國債

第一章 國債

新舊公債證書發行條例

明治八年五月第九十五號布告

明治六年(三月)第百十五號及同七年(六月)第百六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通知定候條此旨布告候事

新舊公債證書發行條例

- 第一條 新舊公債ノ區別及證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス
- 第二條 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊證書ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元年戊辰年太政官更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五年申迄ノ間舊證書ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ
- 第三條 新舊公債トモ各其額五分ノ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金額ヲ五百圓三百圓一百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ
- 第四條 新舊公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付償却ノ爲メ四十七部分ニ別テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ
- 第五條 (新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス)
- 第六條 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十箇年賦トシ其年拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニテ拂渡スヘシ
- 第七條 新舊公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂返スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂返スヘシ其利息ハ年

額募集借入ノ方法規約償還年限其他必要ナル事項ハ大蔵大臣之ヲ定ム

軍事公債條例

明治二十七年八月 勅令第四百四十四號

朕臨御國ノ諮詢ヲ經テ公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 軍事公債ハ勅令第四百四十三號ニ依リ金額五千萬圓ヲ限リ漸次募集スルモノトス

第二條 此ノ公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六以下トシ元金償還ニ至ルマテ毎年六月及十二月ノ兩度ニ之ヲ支拂フ

第三條 此ノ公債ノ元金ハ證券發行ノ年ヨリ五箇年償還其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ償還ス

第四條 此ノ公債ヲ募集スルニ付キ其ノ總額、價格、利率、利息、支拂、應募申込日限應募金拂込度數其ノ他必要ナル事項ハ大蔵大臣之ヲ定ム

第五條 此ノ公債證券ノ交付元利仕拂ニ關スル時效證書ノ取扱其ノ他此ノ條例ヲ以テ規定セザル事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

事業公債條例

明治二十九年三月 法律第五十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ事業公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 事業公債ハ既設官線鐵道改良、北海道鐵道建設、製糖、電話、礦業ノ發達、業種專賣賣金及國防事業ノ費用ニ充ツルカ爲メ募集ス

第二條 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五以下トシ募集ノ都度大蔵大臣之ヲ定ム

第三條 本公債ニ關シ本條例ニ規定セザルモノハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ各條項ヲ適用ス

鐵道公債事業公債證書ノ樣式及名稱變更ノ件

明治三十年十一月大蔵省告示第七十六號

明治二十六年法律第四號鐵道公債法同二十九年法律第五十九號事業公債條例及同年法律第九十三號北海道鐵道公債法ニ據リ一箇年百分ノ五以下ノ利率ヲ以テ起債スル公債證券ノ其格式ヲ同一ニシ大日本帝國政府並分利公債證券ノ名稱ヲ以テ發行ス但證券及月利利息ノ見本ハ日本銀行本支店及代理店ニ備ヘ置カシム照會ヲ要スルモノハ裁可スルモノトス

鐵道公債及事業公債利子支拂期改正ノ件

明治三十年二月 法律第一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道公債及事業公債利子支拂期改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十五年法律第四號鐵道公債法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例及明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道公債法ニ依リ公債ノ利率ハ毎年三月九月ニ於テ支拂フモノトス

臺灣事業公債法

明治三十三年三月 法律第七十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ臺灣事業公債法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
臺灣事業公債法
第一條 臺灣ニ於テ左ノ事業ニ要スル經費ニ充ツル爲メ政府ハ三千五百萬圓ヲ限リ公債ヲ募集スルコトヲ得
一 鐵道敷設
二 土地調查
三 築港
四 聯合建設

第二條 此ノ公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五以下トス

第三條 此ノ公債ノ擔保年限ハ十箇年以内トシ發行ノ年ヨリ四十五箇年以内ニ償還ス

第四條 政府ハ特約ニ依リ銀行若ハ債主組合ヲシテ此ノ公債ヲ引受ケンムルコトヲ得

第五條 政府ハ第一條ノ經費ヲ繰替支拂スル爲メ一箇年以内ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ一時借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル利率ハ政府之ヲ定ム

前項借入金ハ此ノ公債募集金ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得公債募集金ニ依ラズシテ之ヲ償還シタルトキハ其ノ金額ニ相當スル公債ヲ募集セシム

第六條 此ノ公債及前條ノ借入金ハ滿一圓銀貨幣ヲ以テ起債スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ公債證券ノ種類ハ政府之ヲ定ム

第七條 此ノ法律ニ規定スルモノノ外ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

大蔵省證券條例

明治十七年九月 第二十四號布告

大蔵省證券條例別紙ノ通制定ス

第一條 大蔵省證券ハ出納上一時便用ノ爲メ大蔵省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大蔵省證券ハ無記名利付定期拂シテ其發行シタル年度ノ借入金ヲ以テ仕拂フ爲メトス

第三條 大蔵省證券ノ發行金額及利率金額ハ「大蔵省」之ヲ豫定シ「大蔵省」ノ裁可ヲ受ケルモノトス

第四條 大蔵省證券ハ百圓、五百圓、千圓、五千圓、一萬圓十萬圓ノ六種ニ別テ其ノ支拂期限ハ十二箇月以内トス(明治二十六年法律第十九號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第五條 大蔵省證券ハ何人ニテモ授受買賣スルヲ得

第六條 大蔵省證券ノ仕拂及引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱フモノトス

第七條 大蔵省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ヨリ五日日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但共仕拂ノ期日ヨリ起算スルモノトス

第八條 大蔵省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六箇月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六箇月ヲ過ルモノハ一切仕拂ヲ爲サザルモノトス但仕拂期日後ハ其利率ヲ付セザルモノトス

第九條 大蔵省證券持換又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記載簿及ビ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正ナルヲ證明シ得ヘキ者ニテラサレバ引換サルヘシ

第十條 大蔵省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其券面金額ノ金額支拂期日記載簿及ビ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大蔵省ニ届出ヘシ「大蔵省」ハ其證券ノ授受買賣引換及ビ仕拂ヲ禁止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但発見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出フヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ発見セザル日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ滿足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大蔵省證券ヲ偽造若ハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

第二章 家祿賞典祿處分

國事ニ關スル犯罪ノ爲諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル件 明治二十七年六月 法律第二十號

第四十四條 第七條、第四十一條及第四十三條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十三條第三項、第三十八條若クハ第三十九條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十七條若クハ第四十二條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四十七條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ本規則第六條、第二十八條第三項及第四十二條ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第四十八條 本規則施行以前ニ製作シタル鐘狀度量器ノ檢定ニ付テハ明治三十年八月三十一日マテ明治二十四年農商務省令第十一號ヲ適用ス

第四十九條 本規則發布以前度量衡器ノ製作、修繕若クハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ明治三十年八月三十一日マテニ本規則第三十八條ニ依リ其ノ記號ヲ届出ツヘシ

● 度量衡器ノ制限其製作修繕及販賣免許並檢定ニ關スル件

明治三十年四月 勅令第百十六號

度量衡器ノ制限其ノ製作、修繕及販賣ノ免許並檢定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

(度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ示ス表ハ之ヲ略ス)

第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ之ヲ檢定シ爾後五年目毎ニ之ヲ檢定ス

第三條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ但分銅ハ内減ヲ許サス

(公差ノ表ハ之ヲ略ス)

第四條 檢定スヘキ度量器、玻璃製度量器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 度量器ノ目盛
- 五厘
 - 一分
 - 一吋
 - 一吋二分
 - 一「メートル」
 - 五「センチメートル」
 - 五「センチメートル」
- 玻璃製度量器ノ目盛
- 全量ノ十分ノ一
 - 分銅
 - 一厘
 - 一「センチグラム」
- (一尺以下ノ度量器)
- (十尺未満ノ度量器)
- (十尺以上ノ度量器)
- (各種顯尺度量器)
- (一「メートル」以下ノ度量器)
- (五「メートル」未満ノ度量器)
- (五「メートル」以上ノ度量器)

第六條 度量衡器ノ製作修繕又ハ販賣ノ免許年限ハ十五年トス

第七條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ製造者ハ其ノ顯名ニ左ノ事項ヲ詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方官ヲ經由シ農商務大臣ニ提出スヘシ

製作、修繕ヲ願出ル者

- 一 製作場、修繕場ノ位置及構造
- 二 製作、修繕セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質
- 三 資本金
- 四 製作、修繕ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其ノ職業別數ニ詳述シテ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ欲スル者

販賣所ノ位置及構造

二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

三 資本金

農商務大臣前項營業ノ設計書不適當ト認ムルトキハ其ノ顯名ヲ却下スヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ノ

● 一斗使用ニ關スル件

明治十九年三月農商務省令第二號

設置一斗以上ヲ授受スルノ際一斗計ヲ用ヒサルトキハ其授受者ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得

設計ヲ變更セントスルトキハ地方官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

第八條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ免許ヲ受ケル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ

- 度量器、量器又ハ衡器ノ製作 金十五圓
- 度量器、量器又ハ衡器ノ修繕 金十二圓
- 度量器、量器又ハ衡器ノ販賣 金五圓

第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケル者ハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ

二段以上目盛ナル度量器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ但曲尺ニシテ尺及「メートル」ヲ合セ盛ラサルモノハ此ノ限ニアラス

秤秤及盛秤ニシテ「キログラム」トナ併セ目盛ナルモノハ其ノ目盛毎ニ檢定料ヲ納ムヘシ

(檢定料ヲ納ムル表ハ之ヲ略ス)

第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ員元保證金ヲ納ムヘシ

- 度量器製作 金三百圓
- 量器製作 金三百圓
- 衡器製作 金五百圓
- 但シ秤秤ノモノ製作ハ金三百圓トス
- 度量衡器修繕 金二百圓
- 度量衡器販賣 金百圓

附則

第十二條 本令ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但本令第一條中量器ノ形狀、物質、種類、寸法、容積、第三條中量器ノ容積、寸法ノ公差及第四條中玻璃製度量器ノ目盛ノ最小定限ニ關スル規程ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第十三條 本令施行以前檢定ヲ受ケタル度量器、量器ハ檢定ニ付テハ明治三十五年十二月三十一日マテ明治二十四年勅令第百七十七號ノ規程ヲ適用ス

第十八類 追 録

市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件

第一條 從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部會郡部會等ヲ設ケシムルコトヲ得

府縣會議員ノ配當ニ關スル件

第九條 本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設ケル府縣ニ於テハ從來市部郡部ニ關スル事件及市部郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ亦其ノ效力ヲ有ス

郡會議員ノ配當ニ關スル件

第一條 府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八類 追 録

府縣會議員選舉投票ニ關スル件

第一條 府縣制第十五條第三項ニ依リ二箇以上ノ投票所ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定ム

府縣會議員選舉投票ニ關スル件

第一條 府縣制第十五條第三項ニ依リ二箇以上ノ投票所ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定ム

府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セザル事項ニ關スル件

第一條 府縣制第十二條第四項ニ依リ選舉分會ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ郡長之ヲ定ム

其ノ他其ノ府縣ニ於テ從來補助シタルモノト同種類ノ補助ニ關スル件
 三 課定價格五千圓未満ノ府縣有不動産分ニ關スル件
 四 其ノ府縣ニ於テ從來賦課シタルモノト同種類ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル件
 五 支出總額十萬圓以内ノ府縣經費ニ關スル件
 六 其ノ府縣ニ於テ從來設ケタルモノト同種類ノ特別會計ニ關スル件
 七 府縣債ノ元本總額五萬圓超過ノ元本總額千圓ニ達スルモノテノ起債
 八 地租二分ノ一以下ノ附加税ノ賦課ニ關スル件
 九 警察費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件

●府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件

明治三十二年六月
 勅令第三百十六號

府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 府縣ノ臨時少額ノ費用ノ爲メ特ニ賦課徴收ヲ爲スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得
 前項ニ依リ分賦スルヘキ費用ノ限度ハ内務大臣ノ之ヲ定ム
 第二條 府縣ノ臨時少額ノ費用ノ爲メ特ニ賦課徴收ヲ爲スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得
 第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會部會設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支拂スルヘキ事件ニシテ其ノ市部郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限り不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得
 附則
 第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部郡會及市郡部參事會ヲ設クル府縣

明治三十二年六月內務省令第二十五號
 本年勅令第二百八十五號ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部郡會市郡部參事會市郡部會ヲ設ケルヘシ
 東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 愛知縣 廣島縣

●小商人ノ範圍ニ關スル件

明治三十二年六月勅令第二百七十一號
 小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 商行為爲スル資本額五百圓ニ滿テザル者ハ之ヲ小商人トス

●外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社並組合ニ關スル件

明治三十二年六月
 勅令第三百七十二號
 外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社並組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六个月内ニ商法第二百五十五條ノ規定ニ從ヒ支店設立ノ登記ヲ爲シ且日本ニ於ケル代表者ヲ定ム其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

商法第二百五十七條及七非訟事件手續法第二百二條ノ規定ハ前項ノ外國會社ニ之ヲ準用ス
 第二條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ハ其施行ノ日ヨリ六个月内ニ商法ノ規定ニ從ヒ其定款ヲ作り且設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第三條 會社カ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ該會社ノ代表者ヲ其解散ノ命ヲ付スルコトヲ得
 第四條 會社ノ代表者ハ其解散ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第五條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第二百三十四條第一項、第二項及七、第二百三十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ニ關シ第二條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シ又ハ解散ノ裁判ノ確定アルマデニ生シタル法律關係ハ從來其會社ノ屬セシ國ノ法律ニ依リ
 第七條 商法施行前ニ日本ニ於テ外國人カ設立シタル組合ニシテ前立ノ財產ヲ有スルモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其組織ヲ變更シ之ヲ商法ニ定ムル會社ト爲スコトヲ要ス
 第八條 前二條ノ規定ハ前項ノ組合ニ之ヲ準用ス
 附則
 此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國保險會社ニ關スル件

明治三十二年六月勅令第二百七十三號
 外國保險會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス
 第二條 外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ノ氏名、住所ヲ政府ニ届出ツルコトヲ要ス

●府縣稅家屋稅ニ關スル件

明治三十二年六月勅令第二百七十六號
 府縣稅家屋稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 府縣ハ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於ケル戸數額ヲ賦課スルコトヲ得ス
 前項ニ依リ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 附則
 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス